

川柳塔

創刊大正十三年 通卷一一三六号
令和四年 一月一日発行 毎月一日発行



日川協加盟

No.1136

一月号

第十回 春の川柳塔まつり誌上大会募集

川柳塔社では、日頃句会などにお出掛けになれない方々を含め、結社を越えて広く川柳をお楽しみいただく機会として、第十回誌上大会を企画いたしました。参加要領は左記のとおりです。是非皆様のご参加をお待ち申し上げます。

川柳塔社

課題と選者（各題2句 共選）

課題吟

「声」 広瀬 ちえみ (What, s)

「軽い」 濱山 哲也 (弘前川柳社)

自由吟

「大西 泰世 (川柳「魚座」)

投句要領

「小島 蘭幸 (川柳塔社)

投句料

規定の用紙(コピー可)または、用紙の入手できない場合は便箋などご使用いただいても結構です。

投句締切

令和四年二月二十八日(月) 消印有効

送付先

〒543-0052 大阪市天王寺区大道一―四―一七―二〇一

川柳塔社 誌上大会係 宛

TEL/FAX (〇六)六七七九―三四九〇

賞及び発表

各題特選に賞呈 発表は川柳塔誌五月号誌上川柳塔誌を購読されていない方には発表誌呈

2022年(令和4年) 本社句会 開催日程表

会場：ホテルアウイーナ大阪

| 開催日 | 時 間 | 会 場 |
|-------------------------|-------------------|-------------|
| 1月6日(木) | 13:00~17:00 | 葛城の間(全室) 3F |
| 2月7日(月) | 13:00~17:00 | 葛城の間(全室) 3F |
| 3月7日(月) | 13:00~17:00 | 葛城の間(全室) 3F |
| 4月4日(月) | 13:00~17:00 | 葛城の間(全室) 3F |
| 5月9日(月) | 13:00~17:00 | 金剛の間(中西) 4F |
| 6月6日(月) | 13:00~17:00 | 葛城の間(全室) 3F |
| 7月8日(金) | 13:00~17:00 | 葛城の間(全室) 3F |
| 8月10日(水) | 13:00~17:00 | 金剛の間(中西) 4F |
| 9月7日(水) | 13:00~17:00 | 葛城の間(全室) 3F |
| 10月1日(土) 第28回 川柳塔まつり | 同人総会 10:00~11:00 | 生駒 3F |
| | 句 会 11:00~17:00 | 金剛(全室) 4F |
| | 懇 親 宴 17:00~20:00 | 葛城(全室) 3F |
| 11月7日(月) | 13:00~17:00 | 葛城の間(全室) 3F |
| 12月7日(水) | 13:00~17:00 | 葛城の間(全室) 3F |

いざ本社句会へ

小島 蘭 幸

謹んで新年のおよろこびを申し上げます。令和4年が穏やかな年でありますように心から願っています。

旅人も月もやがては去る砂丘

薫 風

今年寅年、橋高薫風のスケールの大きな作品を玄関に飾り新年を迎えました。

さて昨年の9月から新型コロナウイルスの感染者が急激に減少して、10月10日、第15回岡山県川柳大会が無事開催されました。

また開催が危ぶまれていた第36回国民文化祭・わかやま2021も11月14日に無事開催することが出来ました。

さらに一般社団法人全日本川柳協会の第3回理事會、東西常任幹事會も12月10日東京上野で無事開催することが出来ました。

さて次は、コロナ感染拡大を考慮してお休みして

いた本社句会。令和4年1月6日(木)の1月句会より再開いたします。

皆さまとの再會、楽しみにしています。よろしく
お願い致します。

新型コロナウイルス、デルタ株からオミクロン株へ、感染拡大が心配されるなか、令和4年6月12日、第45回全日本川柳2022年富山大会。令和4年10月30日、第37回国民文化祭おきなわ2022が開催されます。またこの他にも全国各地で川柳大会が予定されています。このままコロナが減少して本社句会がずっと開催されることを心から願っています。

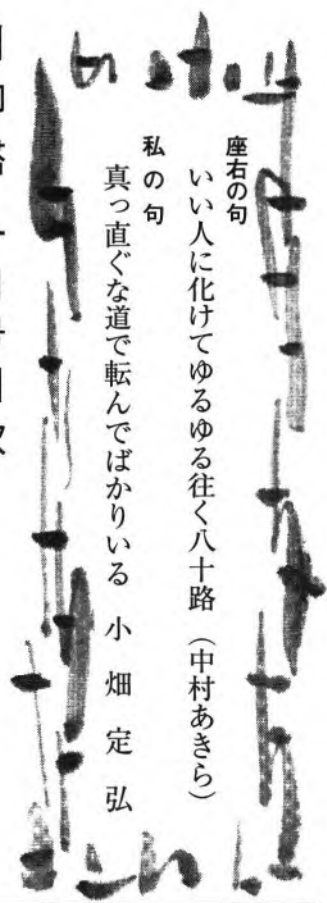
凡聖一如元旦のこころ知る

路 郎

麻生路郎ご夫妻の比翼の句碑が路郎のふるさと尾道、文学公園に建立されて今年で21年になります。一昨年、昨年とコロナウイルス感染拡大を考慮して、句碑まつりを中止しておりますので今年尾道川柳會の皆さまと一緒に是非開催したいと考えております。

歳月や尾道の句碑弓削の句碑

蘭 幸



座右の句

いい人に化けてゆるゆる往く八十路 (中村あきら)

私の句

真つ直ぐな道で転んでばかりいる 小畑 定 弘

川柳塔 一月号目次

題字・中島生々庵／表紙きり絵・前田 尋「エト・寅」

■巻頭言 いざ本社句会へ……………

このころを自由に……………

川柳塔 (同人吟)……………

川柳塔の川柳讃歌 ㊦……………

自選集……………

句集の森……………

温故知新……………

西尾菜句集「水鶏笛」……………

川柳句集「再会Ⅱ」 50句……………

水煙抄……………

英語 de Senryu ㊦……………

誹風柳多留「三篇研究」 17……………

愛染帖……………

檸檬抄「盛る」……………

小島 蘭 幸 …… (1)

新 家 完 司 …… (2)

小島蘭幸選 …… (4)

木津川 計 …… (37)

山 中 康 子 …… (41)

川上大輪選 …… (44)

吉村侑久代 …… (61)

新 家 完 司 選 …… (64)

葉原道夫・久保田千代共選 …… (68)

このころを自由に

新 家 完 司

瀬戸内寂聴さんが亡くなられたとき、NHKのニュース番組でお元気な頃のインタビューを再放映していた。

例のハキハキした口調で話されていたことで印象に残ったのは、「このころを自由に」ということ。曰く、「にんげん、一番の幸せは自由になること。他人の噂話や悪口を気に病んだり腹を立てたりするのは、このころがそのような人に捉われているからで、このころが自由であれば何も気になることはない」というような内容だった。

確かに、他人のことなど気にかけないほど自由な精神であればさぞかしラクチンだろう。例えば、句会や大会で「全没」など残念な結果に終わってしまったとき、誰しも少しは落ち込むものだが、その原因の一つは「体裁が悪い」という外面的なもの。他人の思惑など気にならないほど達観しておれば、「どが悪かったのか」と率直に作品を省みるだけのことである。

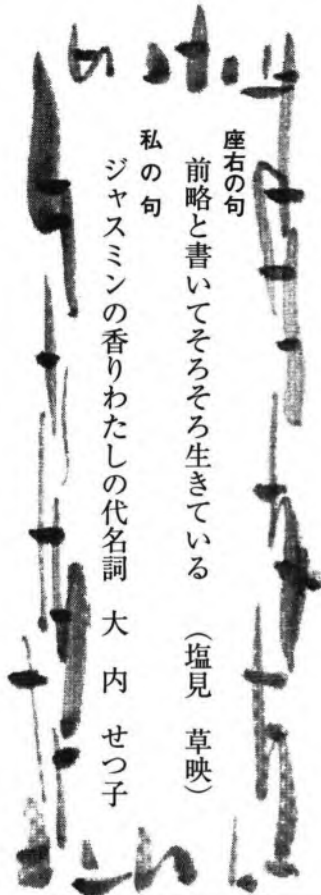
| | | |
|------------------------|--------|--------|
| 一路集「節目」 | 森山盛桜選 | …(72) |
| 「アドリブ」 | 山本希久子選 | …(73) |
| 初歩教室「幸」 | 高瀬霜石 | …(74) |
| せんりゆう飛行船⑧ | 新家完司 | …(76) |
| ■追悼文(都倉求芽さんを偲ぶ) | 片山かずお | …(77) |
| 同人特集 私の一句 | 大西泰世 | …(78) |
| インスピレーション・ナビ | 印象吟 | …(86) |
| 川柳塔鑑賞 | 鈴木いさお | …(88) |
| 水煙抄鑑賞 | 宇都満知子 | …(90) |
| ■エッセー(数字を詠み込む) | 水野黒兎 | …(91) |
| 十一月本社誌上句会 | | …(92) |
| 各地柳壇(佳句地十選/坂 裕之・斉尾くにこ) | | …(101) |
| 一月各地句会案内 | | …(112) |
| 柳界展望 | | …(114) |
| ■編集後記(ひとこと/飛永ふりこ) | 朱夏・道夫 | …(144) |

座右の句

前略と書いてそろそろ生きている (塩見 草映)

私の句

ジャスマシンの香りわたしの代名詞 大内 せつ子



だが、長年の修行を積んだ高僧ならともかく、私のような凡人がそのような境地に至るのは極めて難しい。では、どのようにすれば少しでも「こころを自由に」できるのだろうか？ 私なりに考えた方法は、何事かに捉われて気分を壊されなかったときに「こころを自由に！」を呪文のように唱えること。そのことによって、少しでも平常心を取り戻せるのではないか。

もう一つ、時間があれば「閑達」とか「磊落」を辞書で引いてゆっくり読み直してみよう。「閑達」には、「度量が広く、物事にこだわらないこと。こせこせしないこと」と書かれている。「磊落」には、「気が大きく朗らかで小事にこだわらないさま」等と書いてある。(いずれも広辞苑電子版)

そのようなことは辞書を引くまでもなく分かり切ったことであろうが、辞書を引いてゆっくり読み直す時間によってバランスを取り戻せることができる。

怒りっぽいとか鷹揚とかは持って生まれたい性格によるところが大きいですが、短気な人でもこのように心がけることによって、「こころを自由に」できるのではないかと、これは短気な自分への戒めである。



小島蘭幸選

鳥取県 細田裕花

コロナ激減少し明るい秋の街
Iターン町のみんなが応援団
ぽっちゃりが好きダイエットやめなさい
時は耳が喜ぶ歌を聴く
グループにやっぱり若い血がほしい
五十年 夫婦漫才佳境です

塩竈市 木田比呂朗

さり気なく去年リセットする年初
元日の配達に土曜の誤算
初詣でマスクの顔もなれました
お雑煮の速度違反を注意され
ゴミ出しの曜日にも変わる松の内
戻る人流へガソリンの忠告

桜井市 安土理恵

予定どおり令和四年の陽がのぼる
どれもこれもわたしに合わぬ高い椅子
踏み台を置くことにした台所

年頭所信転ばないこと急かぬこと
手書き信仰生涯貫くつもりです
年輪を一つ重ねて梅ひらく

米子市 竹村紀の治

目覚ましは要らぬ朝まで二度三度
いいことは何にも無いが酒は飲む
夕焼けも仲間に入れてまあ一杯
叱られる役目もあつてワンチーム
来年の約束よりは今日の酒
見送りに弱い男の無愛想

鳥取市 岸本宏章

コロナワクチン作った人に先ず感謝
マンガでも本を読む子が頼もしい
山奥は暮しにくいと熊が出る
私にも責任がある米余り
ひとまずは退いてゆつくり策を練る
家族葬虚礼廃止の道拓く

藤井寺市 鴨谷 瑠美子

栗にした紅葉と旅を分かち合う

お守りをカバンにつけている内緒

体温を分け合っているテイベア

みんな欲しくて手ぶらで花屋さんを出る

ミルクココア今も女性でいるつもり

引き際は一回切りの正念場

今治市 永井松柏

マニユアルが痒いところに届かない

婦道記の尽くす女が美しい

いつまでもパラサイトではいられない

草食系の男に太い芯がある

赫々たる戦果も上げてきた案山子

セピア色になるまで過去を撫でている

西予市 西田 美恵子

うちの真似している様なドラマ見る

上品さの一流味のある二流

三三七拍子で上手く狩り出され

他人ならここで笑って手を叩く

真実の冷たさ嘘の暖かさ

好運はあなたの妻になった事

大阪市 谷口 義

コロナでもきつちりと来たお正月

丹前を着た父がいたお正月

どっちが利き足か分からなくなった

しみや皺あってなんぼのおばあさん
丈夫な人が長生きするとは限らない
若い頃と同じ手順で化粧する

河内長野市 木見谷 孝代

張り合いがあるから今日のいい目覚め

夢を追う絵筆励ます絵の具箱

コロナ禍でまだ炬開きの出来ぬまま

嫌われても信念曲げぬ夜盗虫

スクリーンに草笛光子匂いたつ

逝かれても赤飯を炊く誕生日

岡山市 工藤 千代子

自由です眠たくなれば本閉じる

冬眠をします春にお逢いします

コロナ寡黙にカルテ多弁になりました

白鳥になる夢だけは捨てられず

湯加減をみるふっくらと指も秋

小言ならラーメン食べた後にして

富山市 島 ひかる

一泊二日全国大会アピールに

和歌山の水をたっぷり飲んで来る

赤い糸よって縊られて幸せに

皇室を離れた人の幸折る

やがて成る大樹ゆめ見ている双葉

自画像を描くふっくらした顔に

枚方市 藤田武人

諦めず目指せゴールは動かない
手の温度かわった母になったから
ケイタイは閉じてうっとり腕の中
ピクリともしない不気味な風見鶏
掌の秤おまけが付いてくる
耳遠い母がズームでメッセージ

枚方市 栃尾奏子

除夜の鐘街の空気がすきとおる
一年一年そして家族になっていく
甥っ子が立って歩いてお正月
さあ邪気を払おうみなで福笑い
無限大秘め元旦は白い画布
愛は翼迷わずたどりつけるはず

羽曳野市 徳山みつこ

虎年へ私押し出す初日の出
明日友が来る一気に雑事片づいた
あれこれの無理押しよせてくる八十路
リサイクルリユース私のエコぐらし
備えねば畏れねば天災さまを
間借り地球を汚してはなりません

倉吉市 牧野芳光

ドロインになって名前を変えた竹トンボ
一目千本金にならない杉ばかり
掴みそこねたものが次々降る小径

老翁柿植えてあと何年生きる

このままで良いのかと問う秋の風
煮つめたら何も残らぬ人生だ

大阪市 平井美智子

戻ってきた葉書が雨に濡れている
萎えてゆくものを数えて秋の夜
卓袱台にぼつんと食べかけのみかん
引き出しに泣き虫だった日のワタシ
引き出しの奥から海へ続く道
これからを楽しむ老いの歩き方

大阪市 高杉力

海に行く海が見たいと言う人と
いろいろとあった二人で仲が良い
常連に囲まれながら店を閉じ
漏れてくる音でたくろうだと分かり
この街もガスト吉野家サイゼリア
終電車よく似た顔の男たち

鳥取市 倉益一瑤

ふる里にわたしを洗う川がある
深爪がここに沁みる小糠雨
いつの日か輝く汗を貯える
夕焼けがきれいな濁れてみるもいい
火の粉降るひとまず死んだふりしとく
地雷抱く大地よ人のおろかさよ

弘前市 稲見則彦

目張りして寒さ凌いだのも昭和
今日は今日明日は明日老い二人
冬花火ますます雪が深くなる
雪晴れ間おっと危ない屋根雪崩
断捨離に待ったをかけているセピア

弘前市 今 愁 女

未だ自粛「行って来ます」はスパーへ
雪を見るまで冬とは言わぬ北の里
コロナ減少終息まではとマスク付け
両隣空き地空き家のわが住まい
老齢の新年寝るかテレビかと

男鹿市 伊藤 のぶよし

ドッコイショ笑うしかないこの世だな
惚けてない人だ笑顔が爽やかだ
鋭さも良いがユーモアさらに良い
年金の形でみせる老いの恋
嘘は嘘へたもじょうずもありません

東京都 川本 真理子

唇をとがらせて木枯らしの吹く
お豆腐を忘れて買いに出る冬日
日本語が下手になったと自覚する
人類の役にもたてとハッパかけ
君の空でんぐり返りした日から

東京都 まえで とよこ

奈良公園夜の人出のなつかしさ
若草山山やきかこむ影のなか
「お水とり」火の粉を仰ぐ人垣に
気がつけばそぞろ歩きもままならず
ありがとう車いすによりそう手

八王子市 川名 洋子

手酌酒慣れて過ぎゆく秋夜長
心配りの笑顔が仕切る同期会
最近の忘れっぽさもありがたい
だとしても人混みの中身構える
堂々と鯖缶料理出せる幸

横浜市 川島 良子

観客動員新庄劇場へGO
パフォーマンスは満点ですよビッグボス
ワクチン証明持参面会15分
95の兄の元気が刺激剤
10年後カワイイおばあちゃんでいたい

横浜市 菊地 政勝

断捨離の決意促す大掃除
妥協などさせないでいる歩数計
病人が散歩と聞いてほっとする
残されたページへ余白許されず
凡人と悟りこつこつ汗を積む

朝霞市 前田洋子

名古屋市 山本三樹夫

生きている証の猫に起こされる

早朝に起こす猫には罪はない

濃密にネコと巣ごもり支えあう

ニャーとウン オハヨも言う猫といる

真面目ですマスク外さぬ日本人

越谷市 久保田千代

人生を歌い続ける冬の旅

歌い手の人生想うこの舞台

別人になって舞台に立てるプロ

コンサートしあわせそうな顔ばかり

このドアを開けて野望の火を消さず

可児市 板山まみ子

業績が年月を経て賞もらう

米びつが空だったこと気付く夜

祝日を見込み違いの大渋滞

GOTOで行った温泉友に会う

灼熱が終われば冬は急ぎ足

愛知県 早川遯行

どうでもいい芸能界の嘘ほんと

お若いと言われ素振りを繰り返す

干柿の季節毎日忙しい

コロナより心配になるスマホ代

捨てるには惜しい在っては邪魔になる

自転車の強制保険負担となる

高原の空気吸ったら病癒え

黄金刈り知恵を生かした千枚田

人生の荒波越えて来た傘寿

歌下手が風呂で歌うとプロとなる

大山市 金子美千代

秋夜長二年も会えぬ子ら恋し

モヤモヤが残る国民の審判

知恵くらべ今度も軍配はカラス

そうだ京都へ行こう解除の今の内

合理的すぎて余白が欲しくなる

大山市 関本かつ子

初生りの柿の甘さを半分こ

コロナ禍の遠い娘にやつと会え

別別の部屋でお昼のテレビ欄

五分前何処に置いたか物忘れ

お誘いのメールそろそろ髪を染め

神戸市 上田和宏

AIめ まあ一献が通じない

毎日の新聞読みが一仕事

嘯み合わぬままに回っている世界

重きものふわりと受けて五七五

特例が前例となり狂い出す

今更のこの道笑って行く他は

神戸市 奥澤 洋次郎

その時へ一つの希望もっている

対面でないと言物できません

庶民の政治遠退いてゆく総選挙

神戸市の灘区私は生きている

神戸市 輿水 弘

自肅解け爆飲はずみ寝正月

尖がり生きて悔いの手毬を転がして

みな逝って田舎の風は胸に溜め

名が出ないいつも夜には思ひ出す

杖仲間こつこつ調子とつている

神戸市 近藤 勝正

顔かえてうまくいくならこの顔も

大物も先生終えてさんになる

選挙では女性と若さ武器にする

献血のできぬ血でも藪の蚊は

予防接種コロナインフルさて次は

神戸市 斎藤 隆浩

こつこつと続けることが瘦せるこつ

セルフレジ周りにせずマイペース

一年後呑みに行ったら貸店舗

仏壇の父は知らないコロナ鬱

資源ゴミばかりが増えるお取り寄せ

悲しいことも嬉しいことも無くて秋

神戸市 敏森 廣光

苦楽ともに過ごした友はもう風に

目覚めるとトントン葱をきざむ音

荒野原そこでひっそり僕は咲く

僕の直球受けてカーブを返す妻

神戸市 富永 恭子

長電話失敗談で盛り上がる

窓越しに一瞬の富士ああ日本

乱調を鎮めて広い海に出る

粕汁に酔うてホカホカ秋夜長

様変わり誇れるものが減る日本

神戸市 能勢 利子

投句済み机の上を大掃除

久しぶりご近所さんちよつとお茶

コロナ禍のランチ衝立味気ない

結局はステイホームが心地良い

ご無沙汰の友から電話増えました

神戸市 松倉 正美

故郷から新米届き仏飯に

生前の面影偲ぶ喪の葉書

秋物のパーゲン無いまま冬支度

子等の顔真つ赤に染める照紅葉

糠喜びVを逃したタイガース

神戸市 山口 光久

休まずに歩こう風は吹いてくる
どっしりと構えているがドキドキで
通院日だけがぼつんとカレンダー
孫が来る日だ諍いの種まかぬ
今日もまた掛け声だけで終わるのか

神戸市 山崎 武彦

昭和の灯卓袱台温き母の俤
逢いに行くだけで弾ける鳳仙花
無人駅過去の賑わい知るポスト
無人駅丸いポストにある孤愁
青竹のしなり恋しい喜寿の坂

明石市 梶谷 和郎

独り居を気遣う風が戸を叩く
不揃いの皿に月日を重ねみる
当り前のことができてる水旨し
貸し借りがあるからずっと友のまま
皆の靴揃う夕餉は花盛り

芦屋市 竹山 千賀子

遺言状書いてゆったり生きている
娘のおさがりととも似合うとおだてられ
年金のない猫だけがブランド食
すき間から覗く世間が面白い
メールでは届かぬ人肌の温もり

尼崎市 近兼 敦子

おおらかな夫にまたも救われる
こだわりの強い夫の挽いた豆
よりすぐり写真はたった二十枚
看取るのに覚悟がいった二週間
頑張ったねもう言わないよ がんばれと

尼崎市 永田 紀恵

自宅では酒めし寝るのポランティア
赤信号回れ右して縄のれん
徘徊を想定内とする散歩
戒名に「酒」の字入れてくれと父
反省会の反省会が要る仲間

尼崎市 羽奈 和子

すんなりとたどり着けないバスワード
掘った芋顔と大きさ比べっこ
豪華ランチ食べて今夜はお茶漬けね
バイキング元を取るのはやめました
捨てる前に読みたい本が二百冊

尼崎市 藤井 宏造

テールブルにきっちり並べ呑む菓
まっしぐら香車のように生きてきた
マイペースで生きていくにもいる勇氣
流れ星母の容体気にかかる
長期政権夢に見ている新総理

尼崎市 藤 岡 り こ

仏前に今日も元氣と礼を言う
ばあちゃんも注射はこわい目をつぶる

充電中夫は酒で妻はチョコ
短くなつた鉛筆並べ背くらべ
遠い昔みなの憧れ白ご飯

尼崎市 藤 田 雪 菜

平凡な日々を彩る予定表

勢いで口答えして謝つた

茶柱が立つた急須を絞り切る

マイバッグ忘れ五円に息もらす

着回しのセンス筆筒の古着たち

尼崎市 山 田 厚 江

川柳もやはり才能だと思ふ

勢いで君を好きだと言つちやつた

今年もまた印刷だけの年賀状

ラジオ体操右手上まで上がらない

両手にみやげかかえて孫に会いに行く

尼崎市 山 田 耕 治

私へ遺品整理の本を買う

夕方に自転車乗るな娘に言われ

枕許に本一冊を置いて寝る

ケアホーム姉は小さくなつたよう

暗闇で鉛筆探す間に逃げた

加西市 山 端 なつみ

川柳をやめよか何も浮かばない
出さなけりや塔誌に名前載らないぞ

一月号に名前なければ寂しいぞ

今スランプと言える実績過去に無し

川柳の上達祈る初日の出

川西市 山 口 不 動

朝冷や散歩の時間昼となる

大くしゃみ周囲の人が四散する

孫の電話運動会は親だけに

寂しさはふるさとの友消えること

毎夕の定時早める落葉掃き

三田市 足 立 つ な 子

寅の刻メニュー多彩な朝の膳

遣り過ぎの家のかたづけ疲れでる

夕暮れの群れるカラスの寂し声

目差します星野リゾート御祝に

音もなく追ひ越していくスニーカー

三田市 稲 角 優 子

流灯ゆらり未練がのこる巡礼歌

うすれゆく絆にそそぐ愛の色

疑うと友の真がみえてこぬ

若者の地図にもしもの文字はない

モナリザが老いて視界にいつもいる

三田市 上田 ひとみ

ふたりならおでんの鍋が減りません
若い頃分からなかつた年齢に
バランスを取ってなんとかこの暮し
そういう私もすっかり歳とつた
大根の一本捨てるどころ無し

三田市 大西 重男

毎日の夕食スマホレシビ見て
Vサインしてるカニには手が出ない
優しい顔勝負になると怖い顔
孫娘の猫撫で声に要注意
押し車今じゃ私の愛車です

三田市 尾崎 一子

自粛解除みんな無事です子を想う
菊日とお酒を抱いて墓参り
精一杯生きてみんなががやいて
愚痴ひとつ笑い飛ばしているスマホ
スツピンの家族団らん笑う福

三田市 九村 義徳

しがらみと言う名の重い仮面脱ぐ
煽られついつい幹事引き受けた
肩書きがとれて気楽な道を行く
前を行く父の背中が道標
惜しまれて引いて行くのは感無量

三田市 住吉 美和子

我が自慢投票一度も棄権なし
七輪で焼いた秋刀魚が懐かしい
ふる里の香りと共に荷が届く
残りマスク国の仕事はこんなもの
美しい羽根を広げて実る恋

三田市 多田 雅尚

開票の度に空しくなる選挙
日本の得意分野は化石賞
若者の抱く夢にも翳り見え
布マスク眠る倉庫の保管料
電車乗る度にヒト科が恐くなり

三田市 谷口 修平

リハビリの辛さ知ってる松葉杖
夫の死に耐えてベットの死に涙
辛ければ泣けばいいのに意地つ張り
妻だけがあの日涙の訳を知る
惚けというリスク抱えている長寿

三田市 中山 昭美

里の秋きれいな故郷歌にある
里帰り笑顔の写真多くなる
体力がいらいます長い受診待ち
耳鳴りが海の宿まで付いて来た
解散と言えない家族やり直す

三田市 野 口 真桜子

高砂市 松 尾 柳右子

二幕目絶対やめるイエスマン
三幕目どんでん返しぜひ入れる

私の意見はないのか視聴率

ミラクルソングで踊る私の多幸感
免罪符が透けてきている過去の傷

三田市 福 田 好 文

何しても合格点をくれぬ妻

好き嫌いなしに育った大家族

田舎道赤信号を待つ勇氣

母のような口調で妻にしかられる

包容力ありそに見えるFカップ

三田市 堀 正 和

この秋も神輿陽の目を見ないまま

せめてもとサンマで呑んで栗ごはん

マスクして気付かぬ振りもしています

秋深し「日本沈没」再読す

久し振り電車で街の景色見る

三田市 村 田 博

早過ぎる当確出した午後8時

コロナ禍に会えないままに友が逝く

年賀状買ったがきつと余るだろ

紅葉が進まぬ筈だ温暖化

ひとめばれ炊いて貴女を振り向かす

変異株自粛解除にうろたえる

成長の双子パンダに癒やされる

木枯らしへ手軽料理の鍋出番

着ぶくれて足腰庇うことに馴れ

通常の暮らしへ放せないマスク

宝塚市 丸 山 孔 一

カマキリが鎌を振り上げ見得を切る

小遣いも税込みですと妻が言う

忘れ性なのに薬だけは飲む

固定電話 住所不定でない証し

転がった錠剤一つ四つん這い

丹波篠山市 北 澤 稠 民

途中下車終点のない長い旅

優しさを包む風呂敷大き目の

同窓会心が裸になれました

腕力で平和が来るといふ誤解

捨てられぬ荷物の多い余生です

丹波篠山市 酒 井 健 二

神さまにお前生身とささやかれ

遣伝子が生きよ生きよと尻叩く

しつかりと噛み切れるのはカキフライ

高笑いいっぺんやってみたいもの

清貧はなんの努力も無くして

丹波篠山市 長谷川 善 輔

災害は誰にも来ると焼け跡に立つ

火事に追われ佛と閻魔見え隠れ

柿の木に残りし一つ我のごと

球春を待つてるだけのタイガース

終ったと心の油断がコロナ呼ぶ

丹波篠山市 藤 井 美智子

デジタルに置いてけぼりにならぬよう

過去は過去デジタル時代に身を任す

終息のサインほちほち新コロナ

ひとまずは断捨離袋まで進み

うまい話負けそうになるコマージュル

西宮市 緒 方 美津子

いいもんやコロナの見えぬ秋の景

コロナ減しかし理由は知らぬまま

言訳もちゃんと言えます孫二歳

普通に暮らすため努力しています

ラストラン二人三脚崩れ出し

西宮市 亀 岡 哲 子

新しい靴を試しに投票所

投票券ポッケに金木犀の道

一票を投じ白菊見て帰る

二年ぶり大阪城も秋の色

来年の卒寿の集い望みつつ

西宮市 福 島 弘 子

ふる里の帰路の駅弁かみしめる

ボランティアの笑顔に滲む汗清し

命懸けの差別の壁が痛ましい

会わぬ間に少女のしぐさ孫眩し

マスクでも満面の笑み目でわかる

西宮市 福 田 正 彦

世渡りが下手だと言われ生きている

ぼろぼろになって気付いた心内

人の身になって立場を弁える

妻変わる活火山から休火山

母ラッパ背筋を伸ばす道作る

南あわじ市 萩 原 狸 月

ポリープの一つが乱すスケジュール

あの場面居た筈の人記憶なし

おずおずとマスクを外し中ジョッキ

こつこつを貯めて一度はパスポート

老人会戦争知らぬ友ばかり

奈良県 安 福 和 夫

レジ袋開けるわが指もどかしい

スマホ夢中ならば運転リスクなし

車社会専ら乗せてもらう側

運転免許今では身分証明書

らしくあれ教訓守り程ほどに

奈良県 谷川 憲

好奇心尽きてないのでまだ若い
海渡る蝶我が家にも来てくれた
祝詞中赤ちゃん目覚め泣き出した
小春日に亡母が手編みのベスト着る
古里の空き家に残る背比べ

奈良県 中堀 優

百までと足腰脳を鍛えてる
人生って想定外の繰り返し
行く道は険しいけれど進むのみ
頑張れば自ずと道は出来てくる
何があるうと裏も表もない男

奈良県 長谷川 崇明

夕映えの小路口笛出る散歩
金木犀に呼ばれて遊ぶ回り道
実る秋米の重さを知る棚田
生きる価値落ちた木の実が知っている
身の丈を越さず合わせて生きる日日

奈良県 渡辺 富子

ココナの世界然自若慮遮那仏
許せないあの一言をみじん切り
人の世のおぼろを知って今日生きる
人生のパズル未完のまま生きる
何もかも捨てて残っていたわたし

奈良市 宇賀史郎

何かしら辛い時には草筆り
電子音慌てて探す妻の留守
友訃報旅先で聞くもどかしさ
他人様に語れる程でない履歴
温かい心に柔らかな顔

奈良市 大久保 眞澄

助けるとか役に立つとかよう言わん
温暖化で米がおいしくなったとき
身に覚えのない青アザが腕にある
古稀過ぎてカレーが好きと言いにくい
秋のゴキブリたいはいはアカンタレ

奈良市 加藤 江里子

敬老の日変わりないよとメールする
親ガチャをどの立場にて語ろうか
未熟さを晒した後の我が居場所
出不精が板につきそなココナの禍
ハロウィンだかばちゃコロッケ作ってる

奈良市 高橋 敬子

近くに慣れ北も南も腰重く
六波の噂今のうちにと急く集い
干し柿の話が出だす時期となる
今年も落葉「来たよ来たよ」と門の前
投票間近普段は来ない人に会う

奈良市 辻 内 げんえい

墓参り退院来の夢叶う

リハビリ散歩仲間はみんな八十路越え

三世代イヌ派できたが子はネコ派

犬が逝きメダカ鈴虫可愛がる

評判を気にしなくなり楽隠居

奈良市 米 田 恭 昌

ワタシだつてと孫が見舞いに折った鶴

息子の部屋にチラリ本気度垣間見る

五年日記も三年日記となる齡

二番手のトップを視野の鋭い目

今年また虎の遠吠え聞くばかり

生駒市 飛 永 ぶりこ

芒たちさ迷う揺れが私にも

5時出発香嵐溪へ若かった

そろそろと私の五臓とも対峙

丹精の愛がたつぷり 菊花展

衰えの自覚しなきゃこれからは

香芝市 大 内 朝 子

朝ドラヘタイムスリップする昭和

世渡りの笑顔の裏にある苦悶

叶うなら戻りたかつた分岐点

夢に来て蒲団をかけてくれる亡父

コロナ減 久びさついた人心地

香芝市 山 下 純 子

短いけれど丈夫な足が自慢です

口先の評論だけでギヤラ稼ぐ

彼の姓 名のるしあわせ恋昭和

母のセーター着たら悲しみ増してくる

恋をして瞳キラキラ孫二十歳

和歌山市 上 田 紀 子

刃こぼれのままでいつしか季は巡る

山野草の健気やさしさ密やかさ

守るものあつて男の箔が付く

散る事も出来ぬ造花のふしあわせ

十七音それが纏まらないんです

和歌山市 柏 原 夕 胡

理論派の娘と暮らす肩の凝り

咲く頃を想像してるチューリップ

愛車修理 三度目で常連になる

元旦は父の命日ですかしこ

陽気ですコロナ禍だつて負けません

和歌山市 松 原 寿 子

ほころびを縫う糸を選る深い秋

愚痴聴いてくれているのか縫い包み

しつけ糸解いて気分を切り替える

哀こぼれ秋の出口を確かめる

悲を脱いで心すつきり花を助け

海南市 小谷小雪

時どきは陽気な妻の顔もする
キンモクセイ元気ですかと言う香り

たくましくなつてくる子よ親弱る
宇宙ステーションにいじめはないよね
雑巾もきちんと洗い陽に晒す

橋本市 石田隆彦

一大行事再開を待つ村祭

大臣席おろす一票民は持つ

似た仕草に笑いながら暮らす古い

衰えた吾が脳叱咤するパズル

息子等の電話の声は瓜二つ

京都市 清水英旺

鬼平に付き合ってもらふ秋夜長

老ゆる身に刻の流れは容赦ない

旅行生に席ゆずられて胸熱く

今後ともよろしくと別れ五十年

軍拡し一人勝ちして何になる

京都市 藤井文代

アクリル板ブレイキ役で出ぬ本音

マスク付けぬ遺影の笑みが新鮮に

一人分空け心地よくなる夫婦

読めるのか国の外交マスク越し

昭和・平成・令和に生きる長寿国

長岡京市 山田葉子

背筋伸ばしても古いそつと忍び寄る
気力体力あやして今日をきり抜ける
わたくしを毎日褒めてやるつもり

まだ出番あると待ってるスニーカー
見なくてもいつも空いてる予定表

大阪府 米澤 俣子

金木犀の香り穏やか藤の椅子

生きている今日という日を絵に描こう

月命日のお鈴きいてるラフランス

マスターは昭和のままの蝶ネクタイ

青空に映える柿二個鳥に喜捨

大阪市 石田孝純

廃線の隧道背後から汽笛

隧道のしづく時の重さまで

ジャリジャリ踏めば昭和の砂利の音

途切れ途切れ錆びたレールにある余力

廃線を歩くレールの先に母

大阪市 磯島 福貴子

年賀状互いの無事を祈りつつ

百歳時代プラチナ婚も夢でない

自粛生活板につきあふ出な精に

令和四年いい事たんとある様に

賑わう街にコロナが息を潜めてる

大阪市 岩崎公誠

大阪市 江島谷勝弘

自分史の凸凹にあるプチドラマ
新型コロナ飲み薬出てやや変化
生活のムダわかってても削れない
断薬もひとつの知恵と医者教え
澄んだ声きつと美人とひとり決め

大阪市 岩崎玲子

大阪市 榎本舞夢

口数がマスクで減って萎えてます
通天閣やつと安堵の色になり
断捨離で人の覚悟を測り見る
お喋りが元気をはかるパロメーター
お化粧をしょつと気があるまだ若い

大阪市 内田志津子

大阪市 大川桃花

お見舞いも行けないままで時が過ぎ
大切な人がひっそり逝った朝
咳ひとつ母がそろそろ起きるころ
不揃いの野菜たつぷり道の駅
なにもかも忘れた姉を見舞う秋

大阪市 宇都満知子

大阪市 小野雅美

寅年の初春穏やかを願う
パンジーで門扉に春のハンギング
家事はそそくさとコタツではゆっくり
困ったらきゅつと集まる家族です
露天風呂孫につこりとまた行こね

高いので冷凍にしました秋刀魚
久しぶり油断大敵痛風に
ピール党でも日本酒に興味もち
孫たちにご馳走しました敬老日
寅さんの情のもろさがたまらない

この年で立派な賞を頂いて
手紙やらデンワうれしさ倍になる
思わぬ人に祝福されて引き締まる
眞子様も愛一筋の御成婚
コロナ静か祝うが如し眞子様を

田んぼ済んだら山の見張りに行く案山子
両方が不慣れでスマホ四苦八苦
今朝がたの亡母の用は何やらか
「イカのオスシ」の隠語で園児救われた
あかん奴やと嬉しそうに言う夫

逢いたくて駅の階段まで駆ける
ひとりではないよと肩を抱いた友
人ひとり減った朝にも慣れてくる
自分探しをしよう荒野の片隅で
諦めの早さやっぱり父譲り

大阪市 笠嶋 惠美

年金日やさしい風が吹いて来る
手も足も動く感謝のひとり言
やっぱりね腰の痛みがひよいと出る
年老いて何でも好きにやる笑う
栗ぜんざい食べて元気を出す時間

大阪市 川端 一步

藤井四冠棋譜を並べて知る深さ
好きだった寂聴さんを読み返す
気象変動予言していたノーベル賞
景気浮揚年金者にもポーナスを
無理と無駄重ねて今日も生きている

大阪市 古今堂 蕉子

山よ海よ今や登れぬ泳げない
十二月やはり第九の世界観
銀杏がはねる父母との日を思う
薄くなる眉小さくなる目に感嘆符
玄関の開く音誰も来ないのに

大阪市 近藤 正

脈はある野党共闘リスベクト
美ら海を守る辺野古の基地中止
鼻葉嗅いでマスコミ黙らされ
憲法は時代をこえて生き続け
手応えはあつた獲物を取り逃がす

大阪市 坂 裕之

ここだけの話のはずが何故みんな
いろいろな事があるから生きていく
何色が好きなんだろうお婆ちゃん
半分は酒は止めたと八十路会
一人では出来なかつたが友達が

大阪市 高杉 千歩

生きてきた証し賀状の絵が語る
九十五歳今年もよろしく書いて消し
車椅子ありがとうしか浮かばない
介護士さんに大阪弁を教える
ベッド体操好きな時間に好きなだけ

大阪市 田中 廣子

金木犀マスク外して匂かぐ
老い二人互いに叱咤激励す
二人共捜し物して日が暮れる
おはようと朝の挨拶力沸く
友と会う約束出来て元気になる

大阪市 田中 ゆみ子

いい人になろうと繰り返すイエス
こんなにも老いてしまった自粛中
百薬の長だったのは昨日まで
夫の頑固しつかり孫が継いでます
覚えてる背中へ父の大きな手

大阪市 津村 志華子

大阪市 原田 すみ子

実南天赤赤燃えて春の章

世界中まあるくなれと丸い月

八度目の当り年だよたまげたな

生きる生きるとわたしの寅がけしかける

何処に住んでも生まれた郷がなつかしい

大阪市 寺井 弘子

晩秋の冷え足の不調を訴える

星月夜里の柿の木変わらない

給食にアレルギー配慮行き届く

病みつつも春待つ心失わず

兄弟で競った体力今欲しい

大阪市 寺本 実

芯のない男でいつも風見鶏

馬鹿騒ぎすんで忘れた総選挙

騒がしい時は何かを隠してる

待合で薬の数を競い合う

選ばれた時はいつでも損な役

大阪市 中井 萌

言い訳はそれだけですか秋の空

嘘ひとつ吐けぬ男の罪深さ

一人では何も出来ないのに一人

大丈夫君を一人にしないから

食間のサブリオおやつのように飲み

決めてから意見聞いてる振りをする

大阪市 平賀 国和

ワクチンとマスクを信じ自粛解く

老いてなお見たい知りたいことが増え

趣味の縁仲間が増えて刺激的

「にほんごであそぼ」で学ぶことばと詩

黙祷を捧げ始まるクラス会

大阪市 降幡 弘美

いいことの模倣犯ならウエルカム

新聞で覚えた漢字みつける子

大げさに梱包されて来る荷物

採点に情が交じって進まない

子はいいな友達すぐに出来るから

大阪市 山本 加お里

体拭く母は笑顔で泣いていた

過保護して今は息子に甘えてる

頑張らないあせらないでと無理してる

ゆつくりと一人楽しむ美術館

雰囲気につられ思わずハイと言う

大阪市 横山 里子

猫に似た蘆雪の虎の年賀状
何ひとつ片付けもせず年が明け
屁理屈も理屈も言つて日向ぼこ
大変だ欲の深さが減つてきた
ポイントにヒモが付いてるマイナンバー

堺市 今井 万紗子

今日一日大事に生きよ言い聞かす
ばあちゃんはマスクのオシヤレ余念無い
無縁仏一輪花が添えてある
楽しい出会い健康寿命また伸びた
今日もまたいっぱい言うたありがとう

堺市 奥 時雄

万歩計年齢考慮してくれず
雨の日はイオンモールの万歩計
ウォーキングプール2倍にする歩数
プール旨いからプールは休めない
一周忌孫が花婿連れて来る

堺市 柿花 和夫

愛犬に夫婦がランク付けされた
神仏が銃を持たせる筈は無い
スキヤキの匂いに負けた休肝日
仕舞支度遺影写真を選んでる
黙想のポーズで浅学を隠す

堺市 栞原 道夫

秋冷やガラス器売り場通り抜け
抽斗に錆の浮いてるハーモニカ
友だちとテトラポッドを批評する
輪ゴムにも紆余曲折があった筈
鉄橋の下まで生えている芒

堺市 源田 八千代

彼の世でも晴れ男らし七回忌
追善供養 子孫曾孫等打ち揃う
危なかしいが子育てちゃんとやっている
衣食住足りて老後の安心度
お互いに年だから今会つておく

堺市 齋藤 さくら

ど忘れのメモが増えてる冷蔵庫
人柄の良さが出ているポランテニア
散蒔きの政治にどこか冷めている
喧嘩する材料さえも無い夫婦
わたくしの為に長生き頼んでる

堺市 坂上 淳司

選をした句箋失う夢を見た
夢であったと安堵はしたが夢現
頬つねり現を悟り床に就く
若い頃買った宅地は坂の上
紐付きの手袋をさす老いふたり

堺市 澤井敏治

大河の一滴なれど一句を残したい

わたくしに明日はなくても木を植える

一病に命の重みしかと知る

せめて正月マスク外しておめでとう

孫ふえて賑やかさ増す三が日

堺市 内藤憲彦

枯れたとは言わせるものかスクワット

昭和平成企業戦士で生きた自負

鈍ですが真面目一筋生きてます

天国から高野の紅葉見えますか

お年玉孫がちゃっかり膝に来る

池田市 太田省三

文化の日年に一度のモーツァルト

選外の菊を並べるテント裏

頂点の自慢はすでに下り坂

お銚子に造花を挿して酒を断つ

高額な酒の空瓶捨てられず

貝塚市 石田ひろ子

救急車遠くに聞こえ深い秋

自負して若さを杖に勞られ

字も書ける歩ける自分煽てる

来年の夢を広げるカレンダー

それなりのプライド老いの身嗜み

河内長野市 大島ともこ

いつになく優しくされてへこみます

大切なものは語らず傍らに

たればの後悔だけが駆け巡る

切なさの重さ例えるものが無く

二人の暮らし黙々とまだ続いている

河内長野市 梶原弘光

健脚を誇り敷居にけつまづく

胸上げを急ぐ選手のフライング

生きてる筈なのに母のそっくりさん

木陰より陽だまり霜月のベンチ

自転車も免許更新有ったなら

河内長野市 黒岩靖博

腰痛め無理は出来んな柿日和

介護され感謝感謝に満ち溢れ

四十の寿命と言われ八十路越え

百歳も延びる寿命が来る時代

懸命に二児を育てて明日の夢

河内長野市 辻村ヒロ

雨の日はしっとりジャズに浸ります

ひさし振り友から電話日本晴れ

膝の痛み老化ですねと念押しされ

デイ仲間周りに居ると暖かい

家籠り慣れてしまった心地よさ

河内長野市 中 島 一 彌
まだできる もうできないのせめぎあい
まあいつか己に甘いのも加齢

処世術よりも生き様への固執
いつの日かきつと後悔する妥協
エンディングノート書いても気に掛かる

河内長野市 藤 塚 克 三
好きな事してる時間はやわらかい
言葉では言い尽くせない母の恩

物忘れおのれの老いに呆れ果て
秘めている切り札敵は御見通し
記憶にない便利な嘘が流行ってる

河内長野市 村 上 直 樹
親爺似で酔えば風呂敷でかくなる
ヒソヒソ話には補聴器がぴんとくる

在宅のながら仕事に激太り
遺影からまた檄の飛ぶ鬼の葬
「折々のことば」に背なをどやされる

河内長野市 森 田 旅 人
勝負服また着ないまま衣替え
籠り居に暑い寒いもない暮らし

点と線今楽しみは時刻表
明日を向くがんばったねとつぶやいて
ほんとうに辛くて家族にはないしょ

河内長野市 山 岡 富美子
起爆剤元気な友を持つている
無垢になり無欲になって寺社巡り

温暖化老いをサポートしてくれる
異次元で遊んでいます花フェスタ
四コマ目無風地帯のはずでした

岸和田市 岩 佐 ダン吉
組みやすい男と見たが隙がない
道半ば迷いはないと思いたい

あれこれと袋から出すお母さん
未熟だと認めた強い人だろう
しゃあしゃあと力不足だなどと言う

岸和田市 雪 本 珠 子
人間味あふれる談話久し振り
夕映えに病んだところが癒やされる

音楽でこころの隙間埋めている
言い訳をしない愛猫いじらしい
今年こそスタンス変えて飛んでみる

吹田市 太 田 昭
花道で喝采浴びた斬られ役
枯れ葉は詩人旅人はまた歌人

舞い落ちる枯れ葉にワルツよく似合う
励ましの言葉に男飾らない
ひらがなのような男が多過ぎる

高槻市 片山 かずお

逃げ出した旅へスマホが追って来る
折々の風と語っている散歩
問診で医者にヒントを与えてる
異常なし検査結果酒に告げ
せつかくの記念写真がみなマスク
高槻市 原 洋志

風は画家雲で自在に絵を描く
惚けぬようパズルで脳のマッサージ

「ありがとう」言いたい妻に言いくい

登校見守り元気を子供から貰う

一升瓶に見るシンプルの美しさ

高槻市 島田 千鶴子

控えめが好き銀木犀の花も香も

里の秋藁屋もみじの中にあり

コスモスの迷路で冬と鉢合わせ

冬夕焼物干竿に柿すだれ

ベランダに蟬の亡骸見た冬至

高槻市 初代 正彦

そぞろ寒喪中ハガキの多いこと

周回の遅れ今さら気にすまい

深呼吸十回ほどで眠れます

巢籠りの試練に耐えてきたんだな

久しぶりLP盤の裕次郎

高槻市 富田 保子

あの二人いつも散歩で仲が良い

コロナでも糖尿病が増えている

押入れに毅然と母のゆかた有り

夕顔のおっとり顔にいやされる

まだ習う物があるから生きられる

高槻市 松岡 篤

同病で励まし合いのLINE出来

恋人に聞かせたくないほど音痴

8020あと1本が土俵際

スランプに意外な効き目酒二合

今更に横文字の意味聞けもせず

高槻市 安田 忠子

結婚したとたんの様がさんになり

指輪類皆んな合わなくなってきた

恐いなーよく効く薬使うのが

うっかりとする事多くなってきた

自粛してほーっと過ごす癖がつき

豊中市 池田 純子

母さんの遺伝子もらい晴れ女

天国へ今年も送る年賀状

二年ぶり飛びつく孫は肩の背に

ずれている背骨私の歴史です

どんくさい人が持つてる人間味

豊中市 上 出 修

眠れない時計の針が闇を打つ
決算書ちよつと飾つて銀行へ
コロナ禍で失業増えてまた格差
健康と平和を祈り床に就く
イヤな奴マスクの中で舌を出す

豊中市 きとう こみつ

消滅の日までガラケー持つつもり
赤ちゃんのグーに未来が握られる
体力の限界挑みバタフライ
カルピスを飲んで昭和に回帰する
感情をこめて君が代唱和する

豊中市 藤 井 則 彦

朝起きて今日の予定がない惨め
暮らしにも三方よしの心掛け
雰囲気に惚れて溶け込む色マスク
会わずとも素性が滲む走り書き
長生きには買物好きが良さそうだ

豊中市 松 尾 美智代

懐かしいバリが写っているテレビ
地下鉄に私も乗った凱旋門
はね橋も旅の思い出ゴッホの絵
今はもう懐かしさだけセーヌ川
旅の終りは睡蓮の咲くモネの池

豊中市 水 野 黒 兎

浄土への途中地球で遊ぶ日日
路地暮し心にしみる周五郎
七五三和服の子らのスニーカー
ふる里の友の笑顔よ柿熟す
どうしても残ってしまう白絵の具

富田林市 片 岡 智恵子

勘違いがちがったままで解けた糸
長命へ保険満期つまらなさ
背を伸ばせもつとのばせと風が言う
追伸の電話本題より長い
雨宿り予報信じた人と人

富田林市 中 村 恵

口籠もる訳を解っている金魚
容赦なく上から降ってくる言葉
大風呂敷一枚ぐらい広げても
努力する姿に天も味方する
大丈夫母のまじない効いている

富田林市 山 野 寿 之

自転車の背中へ夕陽からエール
独り居の自由気儘に手酌酒
リハビリの友を励ます応援歌
婆ちゃんの昔ばなしを聞く添い寝
名月へBGMは集く虫

寢屋川市 川本 信子

寢屋川市 廣田 和織

願わくば樹木葬ならキンモクセイ

人みんな自分の定規持つている

ピンコロリより最後みんなに囲まれて

消しゴムが直ぐ消したがる夢理想

まだ残す母の指抜きお針箱

寢屋川市 伊達 郁夫

寝たきりの母の目線で虹を見る

酒の恩知っているから止められぬ

鍵かける寂しい人になる私

絵手紙に枯れ葉一枚光らせる

告白をすればお腹が空いてくる

寢屋川市 富山 ルイ子

真赤な紅葉をテレビで紅葉狩

深い秋我が家の庭の紅葉見る

朝はひんやりと日中との温度差

百貨店歩けず車椅子に乗る

ありがとう あちこち連れて行ってくれ

寢屋川市 平松 かすみ

ご長寿と言われる歳になりました

インフルを打って迎えている米寿

ロックダウン無くてよかった日本国

厚手物 予報通りにお洗濯

広辞苑使った頃は句が出来た

見上げれば両手広げた友がいる

私を映す鏡は磨かない

年寄りにはボーツと生きていたいの

大切な客あり今日は瓶ビール

友の訃と枯葉が乱れ舞い落ちる

羽曳野市 磯本 洋一

年金で素食の日々で健康体

上トリユフキャビアフォアグラ夢で食べ

初産で家族号泣看護師も

散歩して肉球までを消毒す

休肝日サイダー飲んで早寝する

羽曳野市 宇都宮 ちづる

記念写真マスクをつけた顔並ぶ

歩くこと忘れた脚で街へ出る

関空の出発ロビー人恋し

誉めるとこ探して暮らす老い二人

大根の間引き孫等のアルバイト

羽曳野市 藤原 大子

メモを取る工夫に長ける物忘れ

遊ぶ子へ呼応するかに小鳥鳴き

そこそこに自惚れもあり生きられる

反省点ばかりが責めてくる夜長

勤めてた頃の名残の眉間皺

羽曳野市 三好専平

秋の雲天才ですと山のぼる

要人がみんなキララの顔になり

なんでやねんと言わんばかりにカラス鳴く

シンドイと言えばやっぱり愚痴になり

腐っても天皇万歳とは言わず

羽曳野市 吉村久仁雄

音程の狂いも味な老父の歌

どの色を混ぜてもやはり私色

僕から君を引けば風しか残らない

気にかけてくれる人いて今を生き

足して引きだんだん丸い人となる

東大阪市 佐々木満作

ふる里の面影見えぬ様変わり

カラフルな食後のくすり命綱

原油高 車そろそろ潮時か

球界に旋風吹くかビッグボス

スケボーの礼儀を知らぬ無法者

東大阪市 西村哲夫

老い耄れに諸行無常の除夜の鐘

借金をせずに暮らして来た不思議

本当の僕を知らずに愚痴るとは

人生の完結死ぬ事ではない

阪神が勝てば楽しい親子だが

枚方市 谷英也

緊急事態解除されたよ先ず一杯

今武蔵球界変えた二刀流

買い出しに連れていかれて待ちぼうけ

アドリブの場所を間違え落選す

十万円助かりますが何を買う

枚方市 丹後屋肇

胡蝶蘭にとり囲まれる一周忌

8度2分迎える医師の重裝備

オーイと呼べばオーイと返す薄紅葉

迷い猫審判員が追いかける

死ぬまでは保管して置く悪の種

枚方市 山口弘委智

もう賀状書かず投句に励む日々

時短でも経済回わす夜の街

今は亡き良き師良き友皆仲間

ノーサイドラガー全員湯気がたつ

家中が日ごと師走につきすすむ

藤井寺市 太田扶美代

一歩下がって賢妻のふりをする

パラリンピック元氣もらったのは確か

コーヒーカーップ姉妹の会話聞いている

出不精を叱ってくれる娘がふたり

一等席泡立ち草に占拠され

昔話だね昭和も平成も

藤井寺市 鈴木 いさお

息をするたびに老化が加速する

踊り方忘れた星のフラメンコ

バリアフリーの有難さ知る膝と腰

ちよつと手を伸ばせば届きそうあの世

藤井寺市 吉田 喜代子

八十路道童返りかよくこける

通報装置ひも付きの安心

感染者少なくなつて医者通い

口喧嘩出来た頃が華でした

令和四年穏やかな日日祈りたい

箕面市 大浦 初音

親友になるには本音言い合つて

波長合う友と一緒に心地よい

瞬きをする間に秋は去つてゆく

母の帯バッグに仕立て持ち歩く

枕の下お題しのばせ明日を待つ

箕面市 酒井 紀華

門柱に幾何模様つく蜘蛛の糸

もしかして亡夫かもしれぬ蟬の骸

秋はいや逢えない人を想い出す

まだ生きるつもり毛染めすみれ色

ゆるやかな嘘であなたを包みこむ

箕面市 出口 セツ子

送迎でゴールド免許に傷がつく

悪いなと息子が責めぬから悔いる

日に一句川柳作る惚け防止

空想の世界で遊んでいるベツド

来年は良い年だぞと自己暗示

箕面市 中山 春代

パスをするガラスの床の観覧車

半分も読めぬ碑秋の寺

十月のコント選挙はグータツチ

公園の落葉へ通うポランテイヤ

手袋に亡母のイニシャル万歩計

箕面市 広島 巴子

二年ぶり子らの帰省に赤飯を

子らがいるこの幸せよ時止まれ

賑わいが嬉し恐ろし紅葉狩り

大相撲そうだ今夜はちゃんこ鍋

寂庵で法話聴きたし今一度

八尾市 寺川 はじむ

仲の良い夫婦に戻る壮年期

良い時に辞めたとにたり元総理

混浴へ期待とのぼせせめぎ合う

総選挙温み感じぬ握手攻め

中年太り諦め半分ジム通い

八尾市 村上 ミツ子

ありがとうコロナ禍見舞ってくれたすみれ
買うつもりないおせち散らしで品定め
子供給付わが家にこどもいないけど
日めくりは元気にやせていくけれど
テレビドラマの犯人探しのめりこむ

島根県 伊藤 寿美

焼け木杭に火を点けたのは十三夜

古里の川に流した夫の恋

一生は長い目の前に居るコロナ

水団で育ち卒寿になつて候ふ

北斎の浪の向こうの木の葉舟

松江市 石橋 芳山

尖がりが見えるか頑張りの俺が

にくまれていないと幸せが逃げる

朧夜に紛れて悪を売り歩く

日常をハイビスカスで埋め尽くせ

向日葵が枯れた僕と同じように

松江市 榎 瀬 みちを

良い酒を飲めるスペース残しとく

一日の終わり灯を消し柳誌置く

美しき体に毒を持つクラゲ

ヤドカリに新築しろとカタツムリ

絶滅も困らぬ鰻好きじゃない

松江市 藤井 寿代

太陽が出ると縄跳びしたくなる
生き急ぐ私を論す昼の月
まだまだと十歳もサバよむ私
すず虫の音色で寄ってくる詐欺師
球形の荒野コロナに犯される

松江市 松本 知恵子

三瓶山見上げて心広くなる

奥山の松茸香る山の宿

執着を捨てよと山の和尚さん

椎の実の落ちるかすかな音を聴く
紅葉を切り抜き母へ出すハガキ

出雲市 伊藤 玲峰

中程と言う穏やかな場所が好き

昭和平成女の駅の泣き笑い

まだ女わつと崩れてから強い

御正忌のお供餅をベツタンコ

亡夫に挨拶白檀のかおり満つ

出雲市 岸 桂子

合掌の手からほとりと抜ける棘

親展と書き終えました雨しきり

ロケットに選別される日も近い

すり切れた辞書に青春埋めてある

泣き切つて白い一日が暮れていく

岡山県 田中 恵

あいまいな記憶手帳に叱られる

横道に一途に咲いている野菊

メダカとの会話愚痴などまぜながら

家計簿の井勘定得意です

家ごもりテレビの音に返事する

岡山県 藤澤 照代

イヤリング揺らし若さの足しにする

空振りがうまくできない古稀の坂

秋うららちよつと眼鏡は本の上

木守柿ぼとり落ち子は遠く住み

藁を焼く煙が深む秋を呼ぶ

岡山市 大石 洋子

私の仕舞いそろりと始めてる

涙腺のゆるみつばなし寒すぎる

いつまでどこまで自転車こげるかな

窓いっぱい干し柿つるし秋日和

都合つけシンプルライフ自粛中

岡山市 丹下 凱夫

アマビエにちよつと似ている柘榴の実

傘立ての隅でおろぎ鳴いている

よくもまあぎつくり腰と違え首

二番星見ると眠たくなってくる

古里はコスモス日和菊日和

岡山市 前田 恵美子

丸虫のようにコロリと丸く生き

筋トレを続けて守る料理番

歳よりも若いと言われ信じてる

白髪と杖十年ぶりの友と会う

菊花展育てた人に拍手する

笠岡市 藤井 智史

悪酔いはしない芋焼酎の恋

愛を振り向かすポップオペラ歌う

愛妻を守る心の刀研ぐ

降りしきる哀もやがては溶けて春

前だけを向いて考えないかほちゃ

広島市 岸 本 清

世界から置き去り日本の現在地

コロナ後は何か始まりそうな風

天才か一刻者かバンクシー

虫の音にテレビの音を少し下げ

老い仲間皆懸命に生きている

竹原市 岩 本 笑子

少し小さくなって退院した母よ

ポップコーン一人で食べている鏡

苗植える私が食べる苺です

一日の終り鏡は正直な

夕陽追いかけて私ここまで来たが

三原市 鴨田昭紀

夕焼けもおかずに添える独り飯

穏やかに余生をひらがなで暮らす

真実の声が穴から出てこない

国民の声を打ち消す二重窓

セーフティーエリアを広げ生き延びる

三原市 笹重耕三

昭和が貌を出すふるりの隙間

後期高齢二足歩行はまだ出来る

どうせなら綺麗な水がいいバケツ

話し疲れた鞆が坐る終電車

一日をしつかり記憶する日記

岩国市 上村夢香

長老のリードはきらり神楽舞

豊作をただただ感謝コロナ禍に

淡々と語る介護を笑みの友

廃校解体桜も今は影もなし

再挑戦ゴールまだまだ一歩ずつ

防府市 坂本加代

甘いものの病気になれば止められる

ウォーキング遠くに止める駐車場

カミキリムシ巨大化すれば怪獣だ

呼び水となつて守ろう温暖化

つぶやきがリズムに乗って川柳に

鳥取県 門村幸子

「口だけは元気」それでも儲けもん

「おーい雲」退屈は無い定年後

眞子さまのしあわせ祈るいわし雲

ヒト科には生き抜くパワー希望の灯

忘れぬよう埋もれぬように拉致家族

鳥取県 斉尾くにこ

ぽよぽよとなんとはなしの嬉しさが

努力とは思わず好きでただ好きで

居心地の良さも見た目の良さもいい

損得と違うところで尊敬す

夕暮れがワイングラスに注がれる

鳥取県 竹信照彦

生かされて生きる努力は怠らぬ

秋の陽が午後五時落ちる音たてて

竜うねる鳳凰踊る雲うねる

秋の空千変万化見惚れてる

大忘れ小忘れみんな食べて寝る

鳥取県 本庄ひろし

家系図が四代前で立往生

古いなあ言われ落ち込む歳となり

かくれんぼ広い屋敷で遊んだネ

お互いがハッキリせぬがうまが合う

越えられぬ壁を楽々越える人

鳥取県 山下節子

ハッスルの出来ぬコロナ禍鬱になる

ほめられてハッスルしてる三歳児

嘯み合わぬ意見で議事が進まない

自粛中父は料理の腕上げる

感想文書くため読書夏休み

鳥取市 池澤大鯨

加速度がついてコロナ禍とまらない

記憶の中の地図が崩れて辿れない

手軽にとトランク中は最小限

石畳スーツケースが演奏す

入退院荷はトランクに旅行めき

鳥取市 奥田由美

ふらり出て飯時帰る猫と夫

孫帰り今日から主菜もやし鍋

スイーツに別れ言えたらMサイズ

人混みを蹴散らし掴む福袋

古稀喜寿が働き盛りの過疎暮し

鳥取市 加藤茶人

鏡には昨日と違う回復期

憎悪から昨日の敵は今日も敵

その先はひとまず止めて予告編

罰当たり瑞穂の国の洋食化

集中の邪魔は蚊が来るハエが来る

鳥取市 岸本孝子

今思う親の教えに無駄はない

ジョークだと言って本音をちらつかせ

雪月花酒はやっぱり花の下

母の遺品子供の手紙どっさり

道の駅さびしい村に陽をあてる

鳥取市 田賀八千代

ありがとうただそれだけで嬉しいの

パスワード書いた手帳が見当たらぬ

子供っていいな駆け引きなく喧嘩

エネルギー使わぬ友と五十年

カウントダウン地球が今に火を吹くぞ

鳥取市 棚田大

俺生かす春夏秋冬ありがとう

中秋の名月見惚れ何もせず

愛読書読み合った頃なつかしや

日々読書俺のいきがい大感謝

下手な書を奥が深いとすましてる

鳥取市 谷口回春子

今日の愚痴明日もきつと聞くだろう

断捨離へ向かう歩みは蝸牛

復活は夢の夢です夫の地位

秋風に乗ってきました雁の群れ

里山に響くメロディーセピア色

奥深い森にもあつた花畑

鳥取市 永原昌鼓

種明かし知れば何でもない仕組み

坂道に負けて石塔移転させ

手も足も舌まで疎くなる加齢

コロナ禍の中でもサンタ忙しい

鳥取市 中村金祥

薬局で医者に言えない長話

耳鳴りが僕の五感を削いでくる

山奥の一軒家でもマスクする

苦情受けひとまずみんな聞いてみる

前向きに生きて行こうと早く起き

鳥取市 副井ゆたか

諍いで怯まぬ気骨身に付けた

葬儀機に親族愛が強化され

久し振り美味堪能のホテル食

一瞬で信が崩れる恐ろしさ

不足物まず百均で有無チェック

鳥取市 福西茶子

カットには行けずポニーテールには出来ず

嫁さんと組むと息子は孫と組む

お団子づくり上手になって忌明け

日の丸を掲げ赤飯感謝の日

人間も虫も自然のままが良い

夫よりスマホ検索あてになる

ウォーキングの二人蹠く場所一緒

今更聞けない あなたの昔前は

止まり木のガラス人間ジャッジする

踏み台にのぼる夫が心配だ

鳥取市 山下凱柳

欲望の垢にまみれる人の性

真実は耐えて墓までもって逝く

お迎えは焦らなくてもやってくる

晴れか曇りかそれとも雨か運次第

まあまあと忖度しては酒を注ぐ

鳥取市 吉田弘子

弱くなったナ点ほどの指の傷

ど忘れと今日も戦う脳回路

築六十年わたしも朽ちていくばかり

守護神のようで指輪が抜けない

ワンコイン貯めてた頃の夢いずこ

倉吉市 大羽雄大

スッピンでよろしマスクの下部

霧囲気に飲まれ約束してしまふ

頭の中整理してから声にする

今日もまた理由付けして飲む準備

間違い絵すんなり朝めしが旨い

倉吉市 岡崎 美知江

定年で解く靴の紐軽くなる
ガン告知医者 of 軽さにすくわれる
御返盃本音が軽くなつていく
六人目の曾孫まあまあ元氣な子
地方色豊かに並ぶ酒の棚

倉吉市 田中 紀美恵

文化祭川柳出して名を売ろう
亡き父は郵便屋さん人気者
怒るなど名指しで論し円満に
柳壇に何度も出すが没ばかり
意地悪なくさくさ虫がへばりつく

境港市 藤原 久直

家族に囲まれて幸せな余生
ぬくぬくと家族団らん三が日
何気ない話ができる妻と居る
長風呂で心配性の妻の声
強弱の歩行取り入れウォーキング

米子市 池田 美穂

たんじょう日ホールケーキを大人食い
マスク取る日も近そうで憂うつだ
介護施設冬服いらぬパラダイス
コロナ減るきつと冷え性だったんだ
若者が背負う未来を汚すまい

米子市 伊塚 美枝子

大山を飲み込みそうな今朝の雲
秋の味覚食べたらやろうダイエツト
セールス電話ボケ老人のふりをする
都合良く聞こえなくなる老いの耳
ばあちゃんの手抜き料理も家族の和

米子市 後藤 宏之

あのドアをノック出来ないままに今日
この指にとまれ飲み会バスが出る
ハミングをしてくれる自分に照れ笑い
茶柱がどうしますかと聞いてくる
タイムマーが影武者になる台所

米子市 後藤 美恵子

虫の音を晩酌爛に変えて聞く
あの友もこの友もいる郷を恋う
会えぬ子にせめても送る里の味
油気が抜けて佻しい木の葉髪
右手にペン左手菓子につい伸ばす

米子市 中原 章子

仏さま庭の小菊をどっさり
旬の味食べる幸せ元氣でる
予定ない日にはぼっかり穴があく
新しい情報摂取パワー湧く
才能を伸ばすに遠慮などいらぬ

米子市 成田 雨奇

酒飲んで酔い潰れなくなりまし

一句出来グラスに残る酒を干す

断捨離を始めて老いにまっしぐら

あのボタン押さなきゃいいがあの男

ご近所は生きているのかみな静か

米子市 野川 宣子

バラマキにもう乗りません有権者

困ったら辞任匂わす手があった

勢いに押されもらった重い役

姉妹心配性は母譲り

もんぺ姿のありし日偲ぶ墓の前

阿南市 小畑 定弘

イエス・ノー風がしきりに頬叩く

電池切れしそうで怖い喜寿の坂

もういと神が言うまで句をひねる

なんとまあ僕に近づく鳩がいる

絵手紙は悠悠自適を思わせる

東かがわ市 川崎 ひかり

終活を勿体ないが邪魔をする

ふる里に抱かれ都会の垢落とす

終焉の花火静かに地に落ちる

信用も値札の中に入れて売る

それなりにお金かけてる若作り

松山市 大内 せつ子

いけずなこと言うてみたくて月を追う

満月に干す男子寮の白Tシャツ

補助輪のネジがすこし緩みだす

なみだ一滴落書きのピエロにも

ポーターライン真下に僕の貌がある

松山市 栗田 忠士

瘡蓋がポロリ笑いが止まらない

言葉遊びが好きなんですね吾亦紅

坪庭が野菜畑になりました

手間暇の限りを尽くす洗皮煮

ゆっくりと回る心の花時計

松山市 古手川 光

野山 美術品に 秋はアーチスト

給付給付 付けが来ますよとは言わず

よちよちだった孫によはよは労られ

おめでとう心から言える年であれ

「禍を転じて福とする」初詣でへ

松山市 宮尾 みのり

初日の出ただ息災を願うのみ

準備万端済ませた後は生きるだけ

使い切った逝った満足だったるか

体力も限界端折ること多し

昭和史へ純情可憐置いてきた

松山市 柳田 かおる

ちよūdい距離にあなたがいたのです

語らない苦労をいぶし銀にする

温存しておんぞんして色褪せる

臆病になってしまった猫じゃらし

言いにくい話オブラートに包む

西予市 黒田 茂代

生ききつて未練残らぬよう終える

化粧せぬ女にさせたウイズコロナ

お出掛け着も一緒巣ごもりしています

自転車のハンドル恐くなってきた

ペランダに布団干すにも要るパワー

土佐清水市 辻内 次根

眼を瞑る正しく前が見えるよう

海の色蒼と書いたら冬になる

何となく冷蔵庫を開けてみる

立って履く靴下今日も試す朝

穏やかに記憶の抜けていく隙間

唐津市 坂本 蜂朗

子育ての頃から妻が笛を吹く

両隣空き地になって虫時雨

安心が女房の前で酔い潰れ

人様の前だけのもの亭主の座

妻入院すればおろおろするばかり

唐津市 山口 高明

上皇妃オペラグラスでご観覧

牽制をされて記録は先延ばし

お互いに辛抱したと真珠婚

酒のめば絡むお方と皆が知り

哀しみもうれし涙も塩辛い

熊本市 杉野 羅天

秋はもうあつという間の七変化

大阿蘇の恵み豊かな里の水

ここからが佳境と独学の悟り

花無限淡いピンクに濃いブルー

三山を眺め令和の檄とする

北九州市 小松 紀子

ありがとう沢山言えて幸せで

八十一歳希望の朝がやって来る

何げない日々の幸せ気付くとき

出来ぬこと嘆くまいまだ夢がある

オレオレに耳遠いふり最後まで

新家完司川柳集(七)

『令和元年』

定価 1000円+税+送料
お申込み先 新家完司

TEL 0858-52-2414
FAX 0858-52-2449

川柳塔の

川柳讃歌

㊦

上方芸能評論家 木津川 計

灯が見える入院してる人の窓

亀岡 哲子

テレビ以前の大阪で最も活躍した漫才作家・秋田実は晩年、天王寺の大阪市大病院に入院した。病室の窓から目の前に通天閣が見えた。見舞いに行くと、「もうすぐ灯がともるんや」ともてる灯りに快復への望みを抱いた。灯は希望と一体だった。戦争末期の大都会は大空襲と燈火管制で切り抜けようとした。全市まつ暗な都市に戦勝への灯はともしようがなかった。哲子さん、「入院してる人の窓」に灯が見えるのです。その窓に希望があるのです。

つまらないなあ郵便のない土日

金子 美千代

番傘の名編集長だった岩井三慈さんの句にうる覚えだが「人生の最大悪日休刊日」がある。活字人間にとって休刊日は辛い。私もそうだから休刊日は最大の「悪日」である。郵便も手紙のやりとりで生きた甲斐を覚えると配達のない日は「つまらないなあ」とがっかりする。その郵便も私の今年には計報がことに多か

った。美千代さんにはどんな便りが届くのでしょうか。うれしい便りを受けて郵便馬車がやってくるかと歌った青木光一を思い出します。

年賀状という日本のこあいさつ

栃尾 奏子

「年賀状は今年を最後にさせていだきます」との知らせをよく受け取った。出さないということは相手もくれないう。年賀状という日本のこあいさつ」を双方いたさなまま新年を迎えるのである。私は教壇にも立っていたし、教え子が少なくない。律儀にくれる彼たちの賀状に應えるためにもがんばって数百枚を添書して出す。年内に書き切れず、年を越す。それでも、日本のこあいさつをすませた安堵感が奏子さん、私にはあるのです。

内科歯科眼科明日は泌尿器科

古手川 光

この一文を書いている今「只今」の声が玄関から聞こえ、妻が診察から帰ってきた。内科耳鼻科整形外科を順番に回っている。いずれも遠方だからタクシーで行く。妻は老後破産を心配して「やっつけていけるやろうか」と不安がる。「やっつけていける」と私は言うが、心配でたまらないようだ。町内のご夫婦が患って近くの病院へ夫婦で入院した。一カ月後、請求書が渡された。「二〇〇万円!」、二人はびびりしてその日退院した。ご亭主はその

後、老人ホームに入った。光さん、病気が深刻にならないようお大事にお過ごしください。

共白髪誓った妻は先に逝き

大西 重男

「わたしが先に死んだらどうする?」と妻が問う。そんなことを考えてもいなかったが、あり得る、と悟った。町内のある夫婦の奥さんが先立ったのだ。がくつときた彼を妻が見舞いに行くと、礼を言いながら、ただ泣くばかりである。一と月ほどして立ち直った彼は自転車で行くと、礼を言いつつ泣く。行くのが月ごとに弱っていく。うーん、嫁さんに先立たれたら、あれほどこたえるのか。そう思うほどに妻の長寿を切に願った。重男さん、共白髪を誓った奥さんに先立たれたのです。寂しさをお察しします。気丈夫にお過ごし下さい。

とりあえずバケツに入れておく金魚

谷口 修平

わかる、わかる。後さきを考えずすくうのだ。いくらでも取れる。取って帰って、さて、どうするか。バケツに入れるしか方法がない。ある日、金魚すくいの前へ行くと、おじさんは座って昼飯の弁当を食べていた。傍に置いてコンロで金魚を焼き、一つひとつ箸でつまんで金魚をおかずにするのか。修平さん、金魚をおかずにするのか。修平さん、金魚を取りすぎたのです。まさか、おかずにはされないでしようが、上手に分配してください。

白 選 集

小島 蘭 幸

還暦が遙かに過ぎて白寿まで
正月の美しい風暖かい
川柳を食べて長生きしています
元旦に牛丼食べに吉野家へ
正月に軍事郵便届くなり

板尾 岳人

居谷 真理子

大リーガーオオタニ野球少年オオタニ
開催は奇跡有田の風まろし
祝杯はひとりミカンを剥きながら
ファックスファックス固定電話が離せない
虎に翼 わたしに愛があるように

八木 千代

川上 大輪

授乳中
山肌の荒れ愛しみて雪衣
紅葉した梢は樹水きらめきて
麓では生きものたちの穴ごもり
蛇穴に蛇 狸穴には狸
そして桜は春の花芽に授乳中

山本 希久子

北野 哲男

マスクちいさめ初春の風心地よし
むらさきで飾る八十七歳の初春
「ただいま」に「お帰り」を言う今日の幸
余命を思う薄むらさきの日暮れ
わたくしに足りぬ辛棒と骨密度

マステーム泣いて帰った子が一人
野の花を摘むとき一瞬の悲鳴
書棚には鋭い眼差しが並ぶ
賢くはなつたがかなり縮んだな
大好きな人が三人以上いる
リセットをしよう瞬き二三回
あさつての方から飛んで来る磔
誤字脱字さて本心はどの辺り
真っ白い手紙無口な人なんだ
いちもんめぐらいの恋が丁度いい
開戦日ジョン・レノンの忌日らし
孫のない鎮守に幟七五三
マスク取り爽やかな風鼻に入れ
コロナ明け他所ゆきに袖通し酒
朝一にぎんなん拾う寺の庭

銀杏散る薫風たもつ偲ぶ道

パンドラの匣から次々と新種

終息は神の予定にないらしい

車窓から海を見ているメランコリー

無人駅つづく小さな旅でした

意地悪な人などいない秋日和

温泉でほぐす硬直した頭

ともだちと繋がる文字を丁寧

白い目でときどき睨むルンバ君

マンゴーの甘さは南国の炎

いきあたりばったりほくの時刻表

落としものしばしば拾いものはゼロ

長老と呼ばれオヨヨと指を折る

そんなには長生きしない きつと多分

コンニャクはコンニャクなりに考える

無になれば吹矢の先に見える明日

出雲路のあちこち大蛇眠る里

消すことは出来ぬ歴史に浮かぶ影

何ごともないかのように終える日々

生きていた証どうでも良い話

木本朱夏

新家完司

高瀬霜石

竹治ちかし

秋空と野外テラスに香るモカ

枯れ葉舞う三千院のいきされ

ストレスは全部溶かした露天風呂

具足煮もなんでもござれ旅帰り

難聴は認知へ向う一里塚

八白の寅でいささか頼りない

今年の暦慎めとあり心する

GOTOもいいが飢えてる人もいる

五百円貯金侮つてはならぬ

朝はポー午後は居眠り夜はシャキ

「へ」と「ト」までは手旗信号憶えてる

「いろは茶屋」江戸川柳の名所かな

「伊号」でも「呂号」でもなく九軍神

いくつかはういのおくやま越えてきた

それまでに復習をするいろは歌

一富士に二鷹を願う寅の初夢

ビッグボス期待と不安入り混じる

あと五年生きたい五年日記買う

のほほんと胡座かいてたのが落ちる

カレンダー年金の日は二重丸

津守柳伸

西出楓楽

仁部四郎

平田実男

福士慕情

地球という不思議な星に住んで居る
生命線シワに隠れてどの辺り
足腰を鍛え黄泉路の旅支度
この世よりあの世に多くなる知人
終点が見えて此の世もあと少し

藤村亜成

イメージ通りの祈りが目の前に開く
真剣に祈れば必ず神は出す啓示
体内をモニターで観る神秘
精神の脆さ十代を省みる
台湾の有事に日本は何でできる

松本文子

走り続けた私の保険証
丸い地球丸くなれないのが刃
よいいどん誰かがハッパかけている
星空に零れたものを受け止める
皆んな友達心ある人ない人も

三浦強一

病人を励ます嘘が温かい
惜しまれて引退そんな時期は過ぎ
戸を叩く使者は地獄か極楽か
人間に貧富の差なく賜わる死
人間の定め死ぬまで生きること

三宅保州

三が日昔話がしたくなる
無人駅に誰が供えし鏡餅
年末のビデオ観ている寝正月
背伸びしたお招き背伸びして行こう
三が日すらも競って店を開け

村上玄也

もの言わぬ臓器の謀反気が付かず
腎臓が高熱発し自己主張
じわじわと腎臓弱ってたらし
透析という字が脳裏駆け巡る
終活へ焦りはあるが手につかず

森山盛桜

神経が尖ると風船が割れる
ティッシュで拭き取れるほどの今日だった
木の葉舟むかしは恋をしたのです
避け切れるメトロノームの拳なら
スクロールするには指が荒れている

小島蘭幸川柳句集

『再会Ⅱ』

領価 千円(送料共)

ご希望の方は川柳塔事務局まで

TEL 06-6779-3490



森の集句

『川柳塔創刊80周年記念句集』

山^{やま} 中^{なか} 康^{やす} 子^こ

気まま風吹かすあなたがにくらしい
 いい朝だ君と明日の米がある
 寿命とや心の穴が埋まらない
 一隅を照らす灯りが抛り所
 発酵を重ね続けて味を出す
 世界地図広げてひとり南下する
 新という響きに人は群れたがる
 人間に背かれ人に助けられ
 仏さま少しヒントを下さいな
 羅漢さまが勉強してござっしやる
 同行は二人ひとりの飯を炊く
 錆びてくる脳へレモンの丸かじり
 人生の荷物は一とつ夢靴
 わたくしの人生こんなものかしら
 川柳とでっかいデート続けよう

(平成16年7月17日 発行)

温故知新

田中正坊川柳句文集『ペンシル』から

告白は今だ今だと滝の音
 思案するロダンの首に冬が来る
 乙姫の未練を秘めた玉手箱
 握り飯あの日の業火忘れな
 南蛮絵 滅びるものは美しき
 日本の灯台を見た帰還船
 自分史を以下余白にはせぬ余生
 子孫には残してならぬ金と核
 連翹がほころび妻の忌がめぐる
 妻の忌に妻と詣でる京の寺
 わが胸に咲く連翹忌 白百合忌
 流水の北海思う多喜二の忌
 問答は無用にあらず木堂忌
 一門の末座にわれも不死鳥忌
 一本のすすきが折れて蛇笏の忌
 波郷忌や薔薇 白椿 沙羅の花
 白秋忌 銀杏の実は緑なり

西尾葉句集『水鶏笛』くいなぶえ

机へ脚のせてポーナスの話なり

家主夫婦同じ棟の端に住み

のみこみを信じ代議士郎を辞す

この辺は虫が鳴いてた交差点

有難い弔辞額にも入れられず

最後まで読んでなんや広告か

告別式おくられて哀れモーニング

見送りの時間を聞いて遂に来ず

成人式智能指数にかかわらず

嘘ついて寝た夜の天井低いこと

リベートはもうのんでしもうた阿呆らしき

空巢よけのラジオと空巢知っており

死んでまで薨去卒去と段があり

取巻へ代議士という巾で下り

「男ころ」

膝枕須磨の別荘売るといふ

藤椅子に猿又の紐ゆるう居る

南向いて出やはったとだけは知つてり

ハイドの気持ちで夜の街行く

妬いているの？問われて男苦りきり

ベレー帽どうですという冠りよう

本気にするぜと男のうれしそう

そもそもは二階に居った時分から

あたつてみたのか小町を悪く云い

針箱へ土産の鮫の折をのせ

身勝手な奴やとど気儘者が云い

劍幕の逆手とられている若さ

人が悪いわ養子さんだっかいな

もうゆずられる養子髭をつけ

俺の代俺の代を信じて養子老け

人間味がないと悪友評すなり

友遠方より来たるまた保険なり

借りに来た友とは妻にきかずまじ

腕を見込めば養子飲めるなり

小島蘭幸句集『再会Ⅱ』50句

(平成26年10月4日発行)

独身よさらばきれいに髭を剃る

桜咲く丘のあかるさ父となる

父と子の湯舟に浮いている童話

朝の風呂いざ出陣の日の男

ライオンの風格に似て子が這うよ

小児病棟みな美しい妻をもつ

ふるさとよ大きなパンツ干してある

いのちふたつあれば悪人にもなろう

満願の日の美しき男かな

一月一日の靴を磨いている妻よ

初恋先生の赤エンピツのやさしさよ

一年生の帽子よ小さい旅人よ

水平線を見ている迷い消えている

羊の瞳の中の炎を見ましたか

情熱と情熱握手して静か

菜の花の中に涙は置いて来た

みんなみな幻正座してひとり

鉛筆一本あれば私の文学よ

樹も僕も老いぼれてから面白い

朝の駅私が二人立っている

古い友達古い切手を貼って来る

父の声師の声がするお元日

恋人の前でワントライを決める

恋をせよ神通力のあるうちに

長女二女我が行く末の波高し

死んだふり眠ったふりをして生きる

輝いているか傷だらけの鱗

妻は今も打ち出の小槌持っている

花束の花に埋もれて泣きますか

善人ばかりで息苦しくなった

一本の縄蛇になる神になる

海を見ていたのは昨日までの僕

夕陽の中を父と歩いたことがある

懐かしいうしろ姿がある坂よ

犬と僕静かに本を読んでいる

おふくろと父を語ったことがない

大好きな人と芒が原にいる

団塊のひとりのにもなりましょう

退職後毎日髭を剃っているか

雑草よやがて私も自由人

座禅組む急ぐことなどないこの世

入道雲よ挑戦状は受け取った

我が胸に置くゴーギャンの赤い犬

銀盃が似合う男になってきた

かくれんぼするならダリの絵の中に

目を覚ませ私の中の青き龍

わたくしの匂いになってきた書齋

許したのは私の中の水の部分

師を囲むみんな十五の春になる

産毛が光る雫が光るこの世です



川上 大輪 選

山口市 兼崎 徳子

年末は千手観音雇いたい
電話口裏声作る母の癖

化粧では心の弱さ隠せない
子育てが終わると脆い夫婦仲
エコだけど簡易包装さみしいな
失敗は笑って消して残さない

大阪市 阪井 恵子

母が呼ぶ声で目覚める三回忌
澱んでる息を吐ききる冬木立
からっから涙も小粒老いの坂
落日の夢は追うまい迷うまい
セピア色写真が大事だった頃
忘れたい記憶が徐々に美化される

岐阜県 喜多村 正儀

ため息の分だけ狭くなる視界
寂しくはないぞ溢れるコップ酒
まるやかな風船がだす破裂音

決め球は心を抉る魔の一語
三塁を回った足にある迷い
正直な背中は何も語れない

尾道市 小川 道子

いにしえの街角に立つ常夜灯
根気よく歩幅くずさぬ蝸牛
賑やかに咲いて寂しい花の鬱
賑やかなあ掛け声だけが前のめり
信じたらひたすら歩く人の道
又とない風の誘いに手を繋ぐ

和歌山市 定松 宏枝

健脚な母と歩調のスニーカー
秋の蚊へ無駄な抵抗やめなさい
帰ってもいいから一度嫁に行け
前掛のポッケは母の智恵袋
幸せが落ちてないかと前屈み
現住所居心地よくて五十年

退職日の弁当は娘の玉子焼き

大阪市 大沢 のり子

面談は熱いコーヒー飲んでから

葬式に遠い親戚らしい人

明日は雨妻の差し出すコルセット

辛抱は得意誰にも負けません

鯛雲はいい食欲がわいてきた

大阪市 阪本 秀子

一日を鼓舞する朝のモカ香る

クーポンで程よく満たすお買ひもの

蹟きをばねにいっそう襟ただす

わたくしの強みさくつとさりげなく

人間のいのちの満ちる音ひびく

父母へリボンを結ぶ恩返し

大阪市 岡田 恵子

行間を読めない彼にだす手紙

きやすめの言葉が胸にこびりつく

折れそうな心ささえる魔女の杖

泣き言は言わないと決め仕舞風呂

ほろ苦い過去はまとめて燃えるゴミ

妄想はほどほどにして茶漬け食う

たつの市 江尻 房子

朝食は三面記事をブラックで

弥陀の顔今日はほっこり暖かい

言い負けて戸惑う母の泣きぼくろ

付加価値を付けて棚田の米作り

朝の月ボチも私も透きとおる

気の合った二人のリズムずれている

大阪府 大浦 福子

笑い声途絶え自粛もはや二年

ワクワクの種を探して老いを行く

我先にトイレ駆け込むバスツアー

輪に入り和を知りわたし丸くなる

わだかまり捨てればきつと違う朝

笑いジワ増えて人間らしくなる

豊中市 齋藤 奈津子

通っても盗めぬプロの隠し味

地方紙に包まれ届くよもぎ餅

もうラスト飲み放題の時間切れ

ほろ酔いがばらす私の隠しごと

暮れる秋だんだん早くなる夕餉

カルピスからコーラに代わる古日記

沖繩県 あら さくら

日々の家事これもリハビリ高齢者

子育てのピンチヒッターおばあちゃん

連れがいてどんな事にも耐えられた

ありがとうありがと言つて夫逝く

定年後スローモーション自由の身

秋風に切ない歌が乗ってくる

和歌山市 倉橋悦子

ゼロからの出発朝のスクワット
銚先を納めて妻の旅日記

世の中が便利になつて物足りぬ
初めての嘘を許してから誤算
それからの事は聞かない水たまり

和歌山市 西川千鶴

アナログ人間で終わる覚悟です
MRI私閉所恐怖症

バーゲンで見せた淑女の裏の顔
飲み込んだ我欲六腑で懺悔する
凸凹の道を凌いだ女偏

和歌山市 まつもと もとこ

コマ送りして君を見る走馬灯
バンドラの箱にまだあるコロナ株
選挙だけ入れてと電話だけの友
優しさにつけ込むサギかキツツキか
申告書ああ読み難い書き難い

岩出市 村中悦男

息子らの言いなりもいい老生きて
コロナ解除ホームの妻の手も温い
小窓明け夜の部屋をも目覚めさせ
湯わり水わりどちらにしよう一人酒
けいとうの真赤にもえて衣替え

鳥取市 吾郷天遊

大器かも知れぬが未だ芽が出ない
長い旅柩に本も入れてやる
人間は蟻の一途を笑えない
靴下は脱ぎにんげんに戻る酒
奥の手を最初に出したのが誤算

鳥取市 上山一平

躰にもてんわわんやの老夫婦
肉の日のチラシで沈む老夫婦
ネクタイをきちっと結ぶいい男
落葉焚きこんがり芋も今はチン
冬將軍何時でもどうぞ障子はる

鳥取市 山野すみれ

朝寝坊尖つた夢で目が覚めた
韓ドラにハマつて今日も夜が更ける
手作りのマスクあしたもあさつても
窓際で騒いでみても蚊帳の外
日本語で言ってくれば分かるのに

倉吉市 堀かずこ

また入院一年前と同じ日に
愚痴を言うそれで生活変わったか
自分だけ不幸ではない笑顔でね
淋しいよ誰か私のそばにいて
退院をめざしてやるぞリハビリを

倉吉市 宮田風露

草紅葉踏んで畦道散歩する
枯草の中でこおろぎ縮こまる
朝霧の中で朝刊届けられ
百歳を見据え健診受けている
今青春死神なんか追い返す

倉吉市 若松由紀子

あの事を胸にしまつて落ち着かぬ
父母送り夫も送り老い独り
手でパツパツパーとする掃除
カレンダーがないとまともに生きられぬ
言いたい言葉にすれば波が立つ

米子市 川本美津子

胸の奥天使と悪魔同居する
何時の日か経験したい嬉し泣き
奥さんと呼ばれた頃が花だった
飲み込まれそう夕日に明日の無事祈る
たんぼぼが僕を見てると孫が言う

鳥取県 下田茂登子

今日もまた過疎から一人消えました
言ってる人聞いている人もトンチンカン
ボケたつて食べることだけ忘れぬ
老夫婦感情的になつて来た
選挙終り静かになつた過疎一人

松江市 相見柳歩

星空はネオンを馬鹿にしていない
洋菓子を食べし和菓子は持ち帰る
クイズ王古いことまで知つてるぞ
直すことないよ丁寧すぎることに
生きている宇宙のリズム聴きながら

松江市 中筋弘充

納得のいかぬ辞令を読む上司
薔薇の棘性善説を信じない
最後まで落ちぬリングゴの忠義心
介護日誌に吐いて介護を楽にする
ライバルも歳をとつたか丸くなり

広島市 常國喜好

にんげんの出番うばっているスマホ
ほんやりと意味なく過ごす日向ぼこ
にんげんのせいで扉を閉めて寝る
組体操いっつも僕は下の段
仕方ない自然にまかすしかないか

広島市 松尾信彦

地獄耳馬の耳との二刀流
何よりも笑顔がうれし介護の手
相づちを打つて嬉しいもらいもの
老いふたり短針だけで暮れる家
何するも満場一致家訓です

尾道市 村上和子

松山市 郷田みや

うなずいていつも味方の母だった

妻が帰ると強気になる愛猫

宣言解除大手を振って縄のれん

スマホ決済怖くてできぬアナログ派

佻しいね長寿の末路ホームゆき

竹原市 若年幸子

福岡県 本田さくら

三世代揃って投票期日前

寒暖差お色直しが忙がしい

二男から届く宅配ハローウィン

孫やつとやつと手にした免許証

じわりじわじわと年金減らされる

竹原市 土井輝恵

佐賀県 真島久美子

歯を抜かれマスク姿がサマになり

六十年添うた男が解らない

何もかもコロナのせいにして過ごす

蜘蛛の巣を払い命は追わぬなり

戦争の歴史入れなきや続かない

大洲市 花岡順子

宮崎県 恵利菊江

案内は誌上大会ばかりなり

急がんでいいよ役目を終えた道

引きこもりではありませぬ自粛です

前向きになると両手に余る幸

格好を付けて川柳など詠まぬ

古本屋のぞきたくなる木の匂い

目を閉じても知らんふりって難しい

反芻をするうち見えてきたココロ

返信をためらっている雨だから

ポストまで今日も三三七拍子

福岡県 本田さくら

八十路とや残り人生うつくしく

孫たちは字と絵でおめでとうを言う

パンジーと笑顔をもらう誕生日

ひと仕事終えコーヒーのほろ苦さ

ゴーゴーと風は誰かにとなりつけ

佐賀県 真島久美子

塩胡椒かけて宮沢賢治読む

ほぼカニとほぼワタクシと冬に入る

冬の雨嘘偽りのない言葉

カーディガン脱いでひとりの皮膚呼吸

哀しみを浴びてキラキラキラ女

宮崎県 恵利菊江

ひん曲がる胡瓜の個性比べ合う

不満への苛立ちに語尾尖らせる

家計簿の黒字に足した満足度

雨雲を指で退けたい空模様

探すのが下手で時間を浪費する

宮崎県 黒木 栄子

続々喪に今年も言えぬおめでとう

長命を祝う親なし敬老日

母さんの笑顔心に折り畳む

さよならも再会も知る無人駅

励ましたつもり母に励まされ

黒石市 石澤 はる子

言い訳が染み込んでいる皺の数

沈む陽にけしかけられる老い仕度

踏み出してなお躊躇っている踵

気分転換何を着ようかワンマンショー

我慢の日々笑い話にする祈り

黒石市 北山 まみどり

紅葉を追いかけていくプチ旅行

カーナビが脱線して遠回り

気心の知れた仲間のたくましさ

曇天も方向音痴もご愛嬌

笑いすぎ軌道修正するたびに

青森県 月波 与生

真後ろに座るわたしの句読点

まっすぐに歩いた靴はみな捨てて

馬鹿だった卒業写真どうするか

遠浅が続く病院までの道

沈黙を映すイミテーションの湖

名古屋市 富田 末男

好感の持てるタイプに人間味

波が立つ考えだから一休み

ハッスルの違い勝負の別れ道

なるべくは無理と思わず前を向く

裏を見ることも学びにしてくれる

豊橋市 小松 くみ子

アゴヒゲだけは好きになれないなじめない

冷凍のうどん負けてはいない腰

きき酒の味覚が鈍る自粛中

好きですか聞かれたらスキパンの耳

将来は幸せですと占い師

富士見市 中島 通則

マスク取り金木犀の散歩道

障壁は心の中と気付かされ

天候不順戸惑う老いの衣更え

真っ先に優先席を探す老い

元を取ると誰もが思うバイキング

宇都宮市 廣瀬 良磨

深呼吸あきの味から冬の味

母親の真っ赤な頬に感謝する

戦友がぼつりぼつりと減って冬

晩秋の赤い夕陽に癒される

真冬日がいたりきたり温暖化

大阪市 東 敏 郎

俺が飼うオームは俺の代弁者
眩きを妻に聞かれて地獄見る
巻き戻す二人の愛を知るテープ
ご成婚ですって「私庶民です」
徘徊の母の腕取る宵の月

大阪府 奥 野 健一郎

ひとさまの物差しなどは借りません
演技賞まちがいなしの恍惚面
意地を張るそれで弱さをカパーする
未来図を描けた昭和のなつかしさ
今日という日を無造作に捨てている

大阪市 折 田 あきこ

まん中でがんと根をはりそよぐ草
リフレッシェ今日も明日も食べ歩く
気まぐれで買ったTシャツお気に入り
容量をはるかに越えた悔やみ言
諍いは終わりにしよう母子草

大阪市 近 藤 風 羅

記録にはあるが記憶にありません
消えたサンマ目を合わさない猫がいる
充電をしてよケータイより私
煮崩れた湯豆腐眺む恋の果て
マスク越し顔半分顔見知り

大阪市 中 村 民 子

切替えて夕餉の支度母の顔
ゆっくり急げと自分に言い聞かす
懐メロに過ぎしあの日を想い出す
一病が老いの余生を脅かす
一昔富豪に見えた肥満体

大阪市 中 村 峰 子

秋深し虫も鳴かない十五階
ゴミ出しも身繕いしてエレベータ
かけ声に猫おどろいて振り返る
うれしいな隣コンビニ運がいい
信じよう全てのことほうまくいく

大阪市 樋 口 眞

親孝行定年後まで待つててね
寝付けない時は作句に精を出す
年を積むほどに悩みも増えるらし
選択肢多くて悩みまた一つ
いつまでも面会出来ぬもどかしさ

大阪市 森 廣 子

我が儘をとほけて通すおじいちゃん
皆で泣いて悲しい事へ安堵感
百歳まで余白豊かに取って置く
不器用なりに一つの事をやり遂げる
咲いてるか枯れているのか吾亦紅

堺市 古川 光雄

オリンピックテレビ多忙で句が出来ず

後手後手と政治コロナに手こずって

巢籠りは妻の顔見て生きている

ごはん炊け神と仏にまず供え

二回目のワクチン打って籠り解け

池田市 倉本 一 弥

ニユートンもびつくりだろう逆噴射

警官見ると何故か会釈をしてしまふ

脱毛人気男熊さんもてぬ世に

笑いのツポ似て楽しいと妻にする

十月満たずに生れて白寿生きている

泉佐野市 檜葉 良子

新庄の遊び心は吉なるか

きつと嘘お似合いですと店の人

優先席目指し突進まだ元氣

日向ぼこする猫見てる今の幸

こんなこと亡母ならきつと叱るはず

泉大津市 助川 和美

コーヒーがまずいスランプかも知れぬ

菊日和用事作って母訪ね

生きてればいろんな痛み押し寄せる

将棋ファン昔三吉今聡太

お手玉もおはじき知らぬ子等ゲーム

貝塚市 吉道 あかね

有り金をはたくいのちが買えるなら

残り火を煽って気合い入れている

晩年を黄金色にする紅葉

私も少し朱色を足してみる

落ち葉踏む土に還ってゆくんだね

柏原市 神崎 江

いきつけは隣の席もひとり呑み

マドンナと呼ばれ気分は悪くない

コンビニにおでん出てきた冬がきた

立てません足の痺れにや勝てません

泣き虫のあの娘2年目泣いてない

交野市 山野 双葉

菊生ける母の形見の花鉢

毛氈の色も一役秋野点

歯痒さは自分の中に多くなり

たかが言葉されど言葉で眠られず

子と母と顔寄せ覗く模試結果

河内長野市 坂野 澄子

達人の腕を磨いた玉の汗

石榴の実爆せて無言の自己主張

枯れ切らぬ欲が貌だす写経筆

度忘れが増えて離せぬ電子辞書

募金箱チャリンチャリンと愛の音

河内長野市 穂 口 正 子

新米は主役脇役なんなりと

悔いるのみ無駄に使ったエネルギー

押し花の色あせるまで生き生きて

飾り捨て生きれる歳にやっとなり

許したるここまで添うたうちもアホ

豊中市 貝 塚 正 子

くたくたになって聞いてた除夜の鐘

神前でただうなだれてお礼言う

着飾って娘小股で初詣で

盃を片手に父はいろり端

人だかり首だけのぼしのぞき見る

豊中市 松 田 蟻 日 路

はぐれガラスお前も俺も吹きさらし

ロボットに俺の仕事を取られそう

筋トレに早や三日目の山が来た

俺だって毀誉褒貶は受けて来た

出家してみたくなるよな年の暮れ

羽曳野市 黒 木 ひとみ

愛を込め甘くなれよと柿を干す

先人の知恵が生きてるお漬物

棉の実が弾けて白い顔を出す

穏やかな日々の暮らしに幸思ふ

頼りなく風に揺れてる枯すすき

神戸市 青 木 公 輔

白い頁が好きな女とウマが合う

美声にも声の貯蓄が必要で

その時はその時今はだまっとく

春の足音今年は早いなと思う

映らない鏡に笑顔ふりまいて

神戸市 米 田 利 恵 子

海岸のプラゴミ拾う釣果なく

金のこと相談をする小さい声

メニユーみな読んでうどんと決めた母

低塩分につき合わされたこんな味

月一度の医者のお顔が効くようだ

神戸市 みぎわ は な

添加物無く純粹に生き無臭

警策の一打がステイ呆けに喝

手水する掌にひとひらの梅の花

賽銭の額だけ太鼓鳴る祈禱

糸切った風に風雨が待っている

明石市 瀬 島 流 れ 星

遅刻よりスマホが大事Uターン

胸奥の可視化は困る嘘の山

ポケットの多さに切符かくれんぼ

けじめなどどこ吹く風の腐れ縁

濃い文字がいいと言っても駄句は駄句

昔屋市 荒 牧 孝 子

コロナの時代笑って話す日はいつか
乱さないでペースあるから年寄りも
温泉旅行帰宅するなりまずお風呂
占いに逆らいさだめ変えてやる
年重ね多少の事は目をつぶる

尼崎市 清 水 久美子

好きなのに嫌いと言った苦い過去
言い訳はしない結果を見て貰う
せつなさに耐える男の酒二合
太公望魚籠の鮓を自慢する
公園でまさかのアライグマに遭う

尼崎市 宗 和 夫

何思う介護する妻される母
確執は棚に上げての介護かな
妻はまた母の介護で強くなり
姑のこと笑顔で話す七回忌
老々介護明日は我が身のことになる

伊丹市 延寿庵 野 鶴

追憶の刻を漂う花筏
裏漉しの味が効いてるシエフの舌
わだかまりやんわりと解く角砂糖
たっぷりと自分見つめる歎異抄
笑みひとつ仲よく生きる生き上手

小野市 田 中 辰 夫

子も巢立ちあとは夫婦の共白髪
記憶をも消してくれるカシュレッダー
ままごとのブドウジュースで酔った爺
二年ぶり都会色して里帰り
久久の客は選挙の応援者

三田市 森 玲 子

記念日に思い出づくり二人旅
久しぶり元気充電旅の宿
記念日の地ビールの味甘かった
久しぶり子や孫揃い嬉しい日
鳴き声で気持がわかる猫と居る

三木市 山 口 ヨシエ

初春祝うひとり暮らしに活入れて
それからを大地しっかり踏みしめて
ときどきはマスク外して散歩道
抗わず流れのままにゆったりと
長らえて豊かな風を身に纏い

奈良市 東 定 生

侘び寂びはなくなりそうなデジタル化
止めた位置忘れて迷う駐車場
木枯らしに誘われ旅に出る落葉
朝靄に鹿の散歩が似合う古都
貌のシワ心のうちが刻まれる

奈良市 尾畑 なを江

来し方をたどれば父母にたどり着く
人生は紆余曲折の繰り返し
年金もどこ吹く風と使い切り
いつ来ても変わりばえせぬ店となる

生駒市 饗庭 風鈴

憂いひとつを山に捨て海に捨て
投げ捨てたあの日の夢をとりに行く
自転する寂しい音に耳すます
耳ふたつ声の行方を見失う

奈良県 室田 行久

世の中の仕組知らずに見るニュース
前評判あまり良すぎてアア次点
明日に向け今年の漢字一気書き
大人買い叶うが欲しいモノがない

和歌山市 北原 昭枝

恩愛が心にしみる胸の奥
苦も楽もあって明日へ続く空
若者が翼ひろげて風にのる
巢立つ日へ祈りを込める千羽鶴

和歌山市 佐藤 まき

知らなかった高校生のポランテイア
たのしい未来の希望文化の日
さあ私甘えてばかり恥ずかしい
先ずは健康筋力付けるスクワット

和歌山市 鍋嶋 澄子

温度差についてゆけずに老い感じ
人生をゆるりと染める秋模様
寒さ増しそうだシチューをコトコトと
気遣いの赤い実ひとつ木守り柿

和歌山市 福島 一雄

電車での火遊びだけはやめてくれ
菊盛ん夏草どもを弔うか
夢楽し金のいらぬ映画館
賀状やめ君の噂は風便り

和歌山県 三枝 眞智子

幻覚が心捕らえて不眠症
旬の味求め駅弁買いにゆく
四時に起き一番星と会話する
この辺で一服腹の虫治め

鳥取市 大前 安子

便り待ちポストを叩く夕の暮れ
帰り道夕日が急かす影長く
絵ハガキはやっぱり筆で自己流で
花鋏パチンパチンと夜の友

倉吉市 伊藤 嘉昭

ワクワクはわしにもあるぞ八十爺
復縁はやはり駄目ねと去った君
みどり児のにぎる乳房を見てる僕
アルバムで昔ミニの娘想い出す

虎泣くな来年虎やVの年

家を出てマスク忘れてまたもどる

デイという老人学校新入生

作詞家の好きなしぐれは俺キライ

境港市 中井虎尾

ゴミ出しに会えば笑顔をもらえます

小松菜のサラダ美味しく工夫する

ありがとう手作り物をお返しに

手作り夢中投句を忘れてた

松江市 山根邦代

平成の税上^{うたう}がらぬ時代^{とき}は過ぎ

軽石が海を覆って手に余る

世直しへの長い道のり早めたい

不登校コロナ禍の中増えている

出雲市 黒目ひでお

名月のコンダクターは芒花

ひと波を受けて儂い砂の城

地獄につながる一センチの段差

朱鷺色の羽を広げるラブソング

安来市 原徳利

聞き上手話し上手のいい会話

縁起など気にせず言うて気にかかる

夢詰めて走る笑顔のランドセル

子育てはやがて大樹の花咲かす

瀬戸内市 宮宅比佐恵

生き甲斐を一夜に月下美人咲く

テレビだけ勝手に喋る台所

うやむやの要を消したシユレツダー

不揃いのキウイも同じ棚の上

津山市 高橋由紀女

悔しいが汗が出るほど働けぬ

のらりくらり一日終えて結果論

補聴器を外し静かに今日終える

妻と見た彩りが無い冬景色

美作市 岡本余光

夢工房魔法の鍵も作ります

空想の旅ふわりとシャボン玉に乗る

錆のきた思考背伸びはもうできぬ

ふっと目覚めた真夜中の真空地帯

山口市 中前幸子

返り咲く望みは捨ててない顔だ

空っぽの頭で風呂に横たわる

一年がノッペラボウになりました

秋の風でも風鈴は鳴っている

府中市 岸田武

欠点を見ずにつき合う主義である

園庭の無邪気な天使マスクの子

出かけ前ルーチンチェックこれでよし

用すませたがまだ終らないコマージュ

広島市 田桑恵子

尾道市 小畑宣之

我傘寿仲間はいても友でなし

あれやこれ無事に片付き美酒に酔う

日本や世界の美景探す旅

美辞麗句の得意な友は偉くなり

三次市 伊藤寿子

皮下脂肪ついたわたくしまだ若い

思っても戻らぬ過去を道連れに

私の運命受けてコンニチワ

生きてれば良い事だつてあるのだよ

唐津市 前田廣幸

耳聾で塞がる選挙美辞麗句

捲れない指が加齢を突きつける

恐ろしい答と思ひ聞きあぐむ

ほくほくのジャガイモさつま肥ゆる秋

沖繩県 禱 モモト

女子会の友のお喋り独り占め

スニーカー外反母趾の紐緩め

気の緩み油断大敵新型コロナ

音読の早口言葉脳トレに

高知市 三谷松太郎

もう死ぬと言わんなつたら気をつけろ

蔵の奥箆筒に残る昭和の香

カナダライどうやらこれで産湯した

五七五話にならぬ物忘れ

石川県 堀本のりひろ

夜行列車ガタゴトガタと新世界

新世界夜行列車が案内者

人気ない暗いホームに着い月

最終列車残された僕団子虫

江南市 脇田雅美

良い香り気品漂う蠟梅花

久しぶり家族そろって和む宿

日頃から急かされこなすスケジュール

目立たない人の意見に価値がある

豊橋市 西郷紀美代

女王と同年の女気丈です

白い髭抜いてあげたい趣味ひとつ

この葉っぱ食べていたんださつま芋

同世代好物似てるころころ旅

静岡市 渡辺芳子

お陽様が私を照らすありがとう

今年こそ後悔のない日にしたい

九十一年生かしてくれてありがとう

コロナの事話しつきない次の世で

横浜市 巖田かず枝

五十年続きも二人三脚で

長かった短かったよ五十年

不便な地 免許返納急かされて

分別をどこまでするか迷つてる

横浜市 加藤 佳子

宣言が解けて薄日がもれ始め
久し振り旧友集う大ジヨッキ
バラマキを自公で見せる無責任
激減の感染数が恐すぎる

東京都 高岡 弥生

情報は全てスマホの中にある
コロナ禍で見えているのは人柄か
休日に朝からはまる作り置き
もういいかい飲みの解禁二年ぶり

宮城県 太田 良喜

弾圧に屈せぬ記者の平和賞
寝る前に明日の予定の無い不眠
社交辞令冗談ひとつ語尾に足す
童心に戻れる里の亡母を聴く

弘前市 小山内 真由美

ゆつくりとスマホに慣れる世に慣れる
淡々と自分のリズムこなす日々
プラスマイナス人間らしい愛らしさ
いつかはきつとこの風景に溶けるはず

八幡市 武田 悦寛

ギリギリで踏みとどまったお節介
10度だけ方角変えて生きてみる
遅咲きの僕のピークはまだ蕾
言い訳はビールの力お借りする

京都府 北野 クニオ

秋明菊一輪咲いて庭締める
どんぐりを拾って孫の独楽作り
デザートは甘くて高いマスカット
新米と秋刀魚があれば文句なし

神戸市 石川 克美

ありがたい席ゆずられてとりあえず
わからないコロナ激減専門家
マイナンバーなくて困ったことはない
この歳で気の合う友とめぐり合い

神戸市 長川 哲夫

心身を鍛える秋は見るばかり
徒然に箱一杯の友の豆
初めは下幸せ音はララララ
辛いこと肥やしに冬は眠ります

神戸市 村松 久江

会える日は特等席を用意する
全力で友とおしゃべり生き返る
まだ少し少女の心持ち続け
少しでも良い人になり募金する

神戸市 城戸 誓子

また越えて母は不死鳥立ち上がる
認知症母はほほほ眠り姫
後ろ髪引かれる母のまた来てな
川柳に叱咤激励される日々

芦屋市 新 阜 義 明

微力でもライフワークが川柳に
海外で怒り通じた日本語で
100目指す30年を生き抜くぞ
裏向けの切符のけぞる改札機

伊丹市 岡 村 風 琴

あやとりの橋の向こうに夕陽落ち
草むしる藪草の香が指に染み
セーターを出す冬やんか冬やんか
小さな自我がみついては今日も生き

三田市 生 田 えい子

虫の名をスマホで探すモミジの子
秋たけなわ鳥に負けずと柿を挽ぐ
身勝手な親が我が子を星にする
星屑を抜けて帰路へと終える便

三田市 幸 田 厚 子

削らずに残してほしい傘寿の菌
書類別窓口迷う役所内
おとなりの鍵っ子帰宅キーの鈴
改札口会うも別れも知るイコカ

宝塚市 太 田 としお

罪なことマスコミさんがゴチャゴチャと
私は巨人妻も息子もタイガース
何もかもお金に頼る癖がある
歩いたら辛い悩みも吹き飛んだ

丹波篠山市 河 南 すみえ

新米は命いたたく香りする
老いたけど白菜漬けていいご膳
病院は老いの予定の花の道
焚火して焼芋うまい過去のこと

丹波篠山市 澤 良 子

少しでも内緒ありそなあの中で
計画がルーズな友で行き当たり
内緒ですちよつと高価な化粧品
愛犬に留守を頼んで趣味の会

西宮市 藤 原 みよし

熟し柿カラス毎日点検に
不揃いの庭の野菜もにぎわいに
ポチ偉い二人の愚痴を聞き取め
このセーターほこほこなのよ母手製

大阪市 今 村 和 男

マスク紐ゆるんだ頃に気も緩む
気晴らしに眺めた空は鉛色
いつも見る名前知らない空の星
冬空へ鉄塔ぐつと突き刺さる

大阪市 尾 崎 文 子

アルコール指のガサガサいつ直る
旅行などコロナなくても余裕なく
流行は遅れているが温い服
軽くみた人生迷路まだ迷う

大阪市 松田 聰

五十年昨日のように語る友
コロナ禍の淋しさ埋めてくれる孫
怠けぐさマスクつけると化粧せず
部屋内の方が骨折多いらしい

大阪市 宮本 千恵子

総理殿拉致家族には猶予なし
店頭に並ぶ野菜で知る季節
マスクでも私とばれるご近所さん
さざ波が時に荒波わが夫婦

池田市 上山 堅坊

マンネリへ新風くれる若い人
戦争は人も地球もぼろぼろに
久しぶりに見た虹友へ写メ送る
少年よ羽ばたけみんな君の空

門真市 坂本 星雨

金木犀の香りへ母が甦る
精一杯生きるご褒美菊薫る
スマホ切り濃いコーヒーと秋ひとり
灯を消して今日一日を良しとする

吹田市 岩口 のぞみ

重箱に三年分の想い込め
コロナ禍で悪くなかった家時間
咳くしゃみマスクしてても振り返る
マスクじゃない名乗られてなお目が泳ぐ

吹田市 西沢 司郎

黒塗りのカレンダーともいざさらば
暇あれば鏡と交わす睨めっこ
GOTOにこっそりついて行くコロナ
長生きをしても曲げない自己主張

高槻市 鳥居 宏

軽石の海を覆いて軽からず
木犀が選挙の不満なくさめる
ままごとの茶碗お庭に忘れられ
好きだったプリンおいしいとも言わず

高槻市 三谷 白黒

聞き上手何もしないでまた聞くの
夜更かしと朝寝ができる妻偉い
へボ碁でも石音だけは高段者
やるからははまってしまいうじじです

寝屋川市 坂本 ミヨノ

日が短く私の余生早や白寿
風邪引きは薬を飲んで寝るがよい
秋深く紅葉眺めマスクして
爛酒を浮かべのんびり仕舞い風呂

寝屋川市 長尾 千賀

コスモスの行儀悪くて可愛くて
ラ・フランス買う穏やかな陽の中で
待ち合わせタワーの見えるテールで
指切りに女の魔法かけておく

東大阪市 秀 爷

議員にはなぜ品格を求めない
コロナ禍で今日を生きるが精一杯
譲り合う心は消えて股広げ
電車内化粧スマホにハンパーガー

八尾市 田 邊 浩 三

外出をテレビ料理で間に合わせ
時短切れ商店街は活気付く
コロナより地球を壊す温暖化
先輩の倉庫立派な古本屋

大阪府 高 木 道 子

点滅の記憶で探るマスクの目
句読点無きお話を聞く日和
只今は安堵の言葉身を解す
お互いに会釈で交わすマスクごし

(前月分) 鳥取市 吾 郷 天 遊

紙コップ握りつぶした今日のウツ
追伸の一行炎抱いていた
あれは畏 私が生かすはずがない
忍の字を足して根つ子を太らせる
ピリオドの先に疑問符だけ残る

(前月分) 尾道市 小 畑 宣 之

またしても安請け合いが苦の種に
赤っ恥どんどんかいて成長し
性善説信じて生きる傘寿過ぎ
金メダル同じこと聞くインタビュ

全没に負けてはならぬ八十七
亡夫の夢今日も見ました逢えなんだ
コロナより怖い女が風呂に居る
楽しみは見えぬが今は生きている

(前月分) 鳥取県 下 田 茂 登 子

第62回 伍健まつり川柳大会

○日 時 令和4年2月13日(日) 12時30分開催

(食事はすませてお越しください)

○場 所 愛媛県男女共同参画センター 多目的ホール
(松山市山越町450番地)

電話 089192611633

○投句締切 令和4年1月24日(月) 必着

○宿題・選者 (各題2句・共選)

「がっちり」 正岡 鏡花 選 西田美恵子 選

「開 く」 北川 拓治 選 吉松 澄子 選

「品 」 柳田かおる 選 梅崎 流青 選

(共選) 松木 慎吾 川又 暁子

○当日席題 (所定の用紙・コピー可)

共選ですので、両方ともに同じ句を書いてください。

応募句のほかに、自選句を発表誌に掲載しますので

その一句をお書きください。

○参加費 1000円(切手不可)

○送付先 〒79110212 愛媛県東温市窪1976117

野口三代子方「第62回 伍健まつり川柳大会」係あて

○問合せ先 大前尚道(電話089195216774)

○主催 愛媛県川柳文化連盟

英語 de Senryu ⑫

麻生路郎句集 『旅 人』

英訳 吉村 侑久代 Kim Horne

水車小屋ここから隣村になり

*he watermill--
go from here
to the next village*

老いらくの恋が土筆をふみにじり

*an old man's love affair
tramples down
the horsetails*

watermill 水車小屋 *next village* 隣村 *love affair* 色恋沙汰
trample down 踏みつける *horsetail* 土筆

～リバーウィローのため息～世界の詩歌 ⑥ 2022年度の日英俳句カレンダー

河合楽器社長の河合弘隆氏の写真に、私の日英俳句を付けた *photo-haiku* カレンダーを出版するようになって、今年で19年目を迎えました。2022年度のカレンダーを紹介しましょう。

New Year.../ my hometown song/ from the mobile

(元旦や携帯に入る故郷の歌) 1-2月 (写真: アメリカ・ロングビーチの入り江)
on the spire/ two, three birds/ calling spring

(尖塔に春呼ぶ鳥の二羽三羽) 3-4月 (写真: ドイツ・ライン川畔クレフェルト・リン城)
balmy breeze.../ no one knows/ my wish

(薫風や誰も知らない願いごと) 5-6月 (写真: 韓国・平昌 月精寺)

smell of roses/ just like arabesque.../ my labyrinth

(薔薇の香はアラベスクなりわが迷宮) 7-8月 (写真: スペイン・アルハンブラ宮殿)

Silk Road.../ camels fading/ into the fog

(霧立ちてシルクロードをラクダ消ゆ) 9-10月 (写真: 中国・西安)

children/ carrying a fir tree/ to the school

(こどもらが聖樹を運ぶ通学路) 11-12月 (写真: ロシア・モスクワ)

お決まりの場所に新しい年のカレンダーを掛け、第一枚目をめくるのはささやかな喜びと楽しみです。今年はコロナを撃退し、健康な日常でありたいですね。

誹風柳多留一二篇研究 17

伊吹和男・高野範雄
山田昭夫・小栗清吾
細井龍夫

清 博美

127 しふうちわかぶつたやうなみこしかき

伊吹 洪団扇は、柿渋を表面にひいた団扇であるが、「雑俳語辞典」に「色黒の譬喩」とある。暑い季節の晴天の巡行のため、洪団扇を被ったごとくに日焼けした、神輿昇なのであろう。御きげんを肩てうか、ふみこしかき。

拾四 8

清 賛。

128 萬屋の地蔵のまへで後家に成り

伊吹 「川柳辞彙」(下)の「萬屋」の項に、浅草寺南谷の角にあつた下駄屋。古舗であつた。この店の脇の処に地蔵が祀られ

てあつたので、当時、萬屋の地蔵と呼ばれて、吉原通ひの人の馴染みとなつて居た。

とある。他の書籍の裏づけを探したが、「続雑俳語辞典」に「浅草の下駄屋」とあるのみ。吉原へ行く亭主に撒かれて、地蔵の前で置いてけぼりを食つた女房。「雨譚註」に「高野二在」とあるが、意味不明である。

萬やの地蔵見いくてれて居る 明五核 3

高野 賛。夫婦でお参りした後、亭主にまかれてしまった女房。

山田 雨譚註では「萬屋の地蔵」は「高野二在」というのです。高野山は女人道から奥へ

女人は行けませんでしたが、その近辺にその地蔵があつたのでしよう。

小栗 同右。雨譚先生が根拠なしにおっしゃっているとは思えないので、正解かどうかはともかく、「高野の萬屋の地蔵」が知りたい。清 雨譚註の説明。高野山の女人堂に匹敵するのが、吉原近くの萬屋の地蔵だといっているのではないか。ここから先、吉原は女人禁制である、との比喩。

129 座頭の坊夢に八見るが口おしさ

伊吹 目覚めていたら見えないのに、夢を見ているときだけ何でもはつきりと見えるのは、座頭にとって大変悔しいことである。人なみに座頭の見ると夢ばかり 三五 18

清 賛。

130 よくなきなすつたと子もりだいて遊

伊吹 嫌なことや危険なことに子守が遭遇したとき、抱いている幼児が突然泣き出した。きつかけが出来たため、その幼児に「良い時に泣いてくれた」と言いながら、逃がっている子守である。

清 賛。

131 蔵宿がかさぬとたぼうはぜをつり

伊吹 藏宿は、旗本御家人の代理として、幕府の蔵から切米を受取り売捌き、それに対する手数料を取った。また、その米穀を担保として金銀を貸付けるのを業とし、浅草蔵前に店を構えた。藏宿が貸してくれたら、その金で吉原へ遊びに行けるのだが、駄目だとは鯨を釣っているばかりの旗本御家人のたぐい。「雨譚註」に「かせバ吉原」。

かさぬそくだとくら宿をかこのぞき

安四梅 4

山田 賛。まさに雨譚註の通り。

清 賛。

132 来る度になせによぶくとせなしかり

伊吹 「雨譚註」に「錢をく也」とある。田舎から兄が出て来ると下女が金銭をせがむので、来るたびに「錢を錢を」だと兄が叱っている。例句の「じゅうくう」は、勝手気ままであること（日国）。

ぢうくふをいふなと下女をせなしかり

二 31

清 賛。

133 手の筋を見せて尾張へ道をかへ

伊吹 「雨譚註」に「秀吉公」とある。「繪本太閤記」〈初篇卷之二・修行者考二相藤吉郎〉に、

其相貌を熟察し、大きに驚き申しけるは、「足下の相奇なり、妙なり、必ず天下の主たるべし。然りといへども、目前視る所賤しき匹夫下郎なり。……」

などとあり、手の筋でなく相貌である。この修行者がのちの安国寺惠瓊とある。「川角太閤記」・「甫庵太閤記」・「真書太閤記」などをみたが、ここの記述はない。手相を見てもらったあと木下藤吉郎が、遠州の松下嘉兵衛から尾州の織田信長に主君を替えたこと詠んでいる。

手のすじを見せて故郷へ又戻り 一六二 34

清 賛。

134 かりるやつ見へもせぬにさんたする

伊吹 三太は、犬の芸のチンチンから転じて、へつらうこと。「雨譚註」に「座頭へ」とある。少しも見えない座頭なのに、金を借りる者は、頭を下げたりなどして、こびへつらう。むねんさハめくさり金をかりに行 一四 37

清 賛。

135 かうもんのかえりはんくわいくだをまき

伊吹 漢の高祖劉邦と楚王項羽とが鴻門に会し、項羽は范増の勧めによつて劉邦を殺そうとしたが、劉邦は張良の計に従つて樊噲を伴つて逃げ去つた鴻門の会の故事から。

『通俗漢楚軍談』〈巻之三・鴻門会樊噲排闥〉に、

項羽左右の者に命じて、一斗をもる厄にて酒を賜へば、樊噲十分に受て一飲に飲つくす、

などであるため、劉邦とともに虎口を脱した樊噲は、急に酔いがまわつて管を卷いたであらうという想像句。

清 賛。

136 らく中へじひハ三日の口ふさげ

高野 「三日」は、明智光秀が握つた天下の日数。本能寺の変で信長を討つた三日後に、秀吉に討ち取られてしまった（川柳大辞典）。「口ふさげ」は、口止めの意。明智光秀は京都市民宣撫のため免訴の布告をだしたものの、わずかに三日間だったというのである。

清 賛。 明らかかな智恵でもたつた三日也 二 13

愛染帖

新家 完司選

(投句258名)

奈良市 大久保眞澄
豪邸にケチつけながら散歩する

(評)「塀が高すぎる」「塀」上の忍び返し
が「センスない」そして、「こんな金はどこから？」
悪いことでも「等」と勝手なケチは面白い。

堺市 奥 時雄
善人を装うことは自信ある

(評)誰が見ても常識ある温厚な紳士。勿論、
法律を犯すようなことはしていないが、皆さ
んが思っておられる程のお人好しではない。

鳥取市 岸本 孝子
私の顔やさしくしてる低い鼻

(評)鼻も高いが気位も高い美人など三日
で飽きる。その点、鼻は低くてもふっくら愛
嬌のある優しい顔はどなたにも親しまれる。

豊中市 藤井 則彦
性別欄やがては消えてゆく令和

(評)トランスジェンダー(性同一性障害)
の人権を考慮して性別欄を廃止する動きが広
まっている。いずれ過去の遺物になるだろう。

柏原市 神崎 江

安い値で給油したくて遠出する

(評)「あのスタンドは三円安い」等と聞け
ば、20キロ離れた隣町まで給油に出かける。
そこまで行くのにガソリンを使うのだから…。

西子市 黒田 茂代
どれほどの命奪った蠅叩き

(評)蠅にも蚊にも油虫にも「命」はあるが、
料理にたかる蠅は退治したい。何匹殺したか
は覚えていないが「ナムアマミダブツ」。

安来市 原 徳利
ブレーキの踏み間違いの三次会

(評)二次会で「このへんで切り上げて」と
とブレーキを踏むつもりが、「もう一軒行こ
うぜー」とアクセルを踏んでしまった。

寝屋川市 川本 信子
宇宙138億歳地球46億歳

(評)一万年前でも呆然とするほどの昔だが、
46億年前ともなると想像を絶する世界。人智
を超えた大いなるもののテリトリーである。

岡山市 丹下 凱夫
神様は絶対いないだが拜む

(評)大地震や噴火や疫病などの惨禍を見れ
ば神は不在であるのは明白。だが、人智を超
えた事象には謙虚に手を合わすしかない。

美作市 岡本 余光
逝く形想像力が及ばない

(評)何時?どこで?何が原因で?と自

分が逝くときの状況を想像してみるが、「こ
れだ!」と納得できるのが浮かんでこない。

神戸市 城戸 誓子
秋の空大気圏外突き抜ける

岩国市 上村 夢香
長老不在見よう見まねの秋祭り

川西市 山口 不動
鼻かんで秋寒の日を籠もりたり

名古屋 山本三樹夫
初物の焼き芋食べる里の山

羽曳野市 宇都宮ちづる
何年ぶり焼き松茸の噛み心地

河内長野市 山岡富美子
元気の素入れてありますおでん鍋

三田市 尾崎 一子
蟹奉行仕切る亡夫が恋しいね

大阪市 内田志津子
食欲が落ちたと言いつ平らげる

河内長野市 中島 一彌
残された骨見りゃわかる魚好き

貝塚市 石田ひろ子
コンビニのおにぎり嫁と昼ごはん

枚方市 谷 英也
成型肉地球のためと我慢する

岡山市 大石 洋子
塩分を気にして甘くなるこの世

唐津市 坂本 蜂朗
食管理煩い妻に生かされる

唐津市 仁部 四郎
年賀状卒業で卒業しようかな

羽曳野市 徳山みつこ
年とらんなアと長男からお世辞

神戸市 山口 光久
せつかちになりましたねと押揃される

越谷市 久保田千代
良い人と懐かしがられ過去の人

弘前市 高瀬 霜石
惜しい人でした死んじやったから言う

三田市 北野 哲男
夕日受け金の芒になった老い

鳥取市 山野すみれ
仏半眼魔刮目

今治市 永井 松柏
箸休めばかり作って主菜なし

マカロニの穴は羅馬へと通じる
行列があるから行列が伸びる

尼崎市 清水久美子
性悪な女みたいなタイガース

神戸市 米田利恵子
ダイヤより硬かった眞子さまの愛

タイガース負けて賀状に気が乗らぬ
銀メダル泣くな一回負けただけ

大阪府 平賀 国和
幼児化かな子供番組面白い

爺婆も釣られてはまりいくスマホ

米子市 伊塚美枝子
のんびりが私の生きる薬です

生駒市 飛水ふりこ
キリマンジャロおいしい時はいい調子

八幡市 武田 悦寛
雨雲のマップ頼りに洗濯機

鳥取市 田賀八千代
天国行きのキップ手にするまで走る

寝屋川市 富山ルイ子
蓮の台とつくに予約済ましてる

川西市 大坪 一徳
なるようになるさと布団敷いて寝る

視力検査山勘当たり1;2
二年ぶり老けた老けたと笑い合う

大阪府 島田 明美
土曜日の郵便受けの生あくび

広島市 羽城 裕子
期待などせぬが郵便受けのぞく

命がけの夜にも朝はやってくる
伊丹市 延寿庵野鶴

草冠取れば薬も薬に飲め
草履虫ぞうりは知らぬままに果て

大阪府 平井美智子
カサカサになって淋しい濡れティッシュ

定位置に居座っている皮下脂肪
大阪府 津村志華子

喋らない日はごくごく水を飲んでます
おでん鍋むかしのコロが見当たらず

米子市 成田 雨奇
米子弁ちゃんとしやべれる絶滅種

あんな句は出すもんじやないぐじぐじと
大阪府 谷口 義

悪口を言う相手もないお年頃
おばあさんになったのも忘れておりました

冬なのに耳からセミが出て行かぬ
八王子市 川名 洋子

耳奥に住んでいるよな蟬が鳴く
男鹿市 伊藤のぶよし

巨人ファンの愚息手打ちもままならず
豊中市 松田蟻日路

根性の中に混ぜてる防腐剤
和歌山市 まつもともとこ

父さんに似ているそれは禁句です
大阪府 高杉 力

ややこしいなあ全員が片想い
佐賀県 真島久美子

くぐるか跨ぐか退屈な一日
松江市 石橋 芳山

鉄カプトお鍋となった敗戦記
札幌市 三浦 強一

日本人嫌な記憶はすぐ忘れ
東大阪府 秀彦

ライスカレー大盛り二杯食べた頃
藤井寺市 鈴木いさお

電車に乗ってコトンコトンと冬は来る
大阪府 森 廣子

川柳のヒントを貰う喫茶店
津山市 高橋由紀女

五七五のリズムは日本人好み
堺市 村上 玄也

亡母に似た柳友に会いに行く
大阪市 横山 里子

永久に命の弾む生句会
香芝市 大内 朝子

同想句ああニンゲンが群れている
神戸市 上田 和宏

書いて消す消してまた書くまた疼く
寝屋川市 長尾 千賀

このままで川柳やっていけるかな
大阪市 田中 廣子

漢検五級読めて書けないもどかしさ
河内長野市 村上 直樹

今しばし此の世楽しむ趣味多忙
南あわじ市 萩原 裡月

どんぐりは背くらべなど望まない
鳥取市 前田 楓花

免許返納次は自転車やめなさい
尼崎市 山田 耕治

深々と座れなかった椅子もある
松山市 大内せつ子

過去は過去どう生きようか八十路坂
弘前市 福士 慕情

チャイム押す待っている間に背を伸ばす
鳥取県 齊尾くにこ

横道に逸れてばかりのマイウエイ
大阪市 小野 雅美

無印で自由に風を切つてゆく
三木市 山口ヨシエ

力むから沈む泳ぎも生きるのも
松山市 柳田かおる

プールでも家でも妻は自由形
三田市 堀 正和

グーグルで空中散歩孫の街
福井市 伊藤 良一

様変わりネットが主力福袋
大阪市 磯島福貴子

出会い系サイト見たくてスマホ買う
大阪市 東 敏郎

削除キーばかり叩いて今日暮れる
和歌山市 上田 紀子

通販の「悩み」全てに丸印
鳥取市 奥田 由美

秋物のパジャマ着ぬまま冬パジャマ
広島市 岸本 清

暖冬と言えど靴下二足履く
池田市 奥園 敏昭

育児終えひとつ優しくなれました
弘前市 小山内真由美

野良猫も人の優しさ知っている
鳥取市 谷口回春子

壁紙をひつかかれても猫愛し
西宮市 福島 弘子

亜熱帯化日本半年三十度
熊本市 杉野 羅天

秘め事は秘め事のまま茜雲
鳥取県 門村 幸子

決断は早いが勘は悪い方
青森県 月波 与生

鬼門の窓置いてあるのは孫悟空
東京都 川本真理子

浅瀬では溺れてしまう深海魚
寝屋川市 廣田 和織

かろうじて豆腐の角を守り抜く
黒石市 石澤はる子

案山子だと知ってミサイル発射する
米子市 竹村紀の治

現役のプライド背負い背な丸め
沖繩県 禱 モモト

麦を踏む地団太も踏む土踏まず
明石市 桃谷 和郎

八つの医院歩いて行ける距離にある
倉吉市 岡崎美知江

笑いのツボ似てる人とは付き合える
池田市 倉本 一弥

カタツムリ緩い足跡流す雨
沖繩県 あらさくら

SDGs 分からぬ文字に惑わされ
鳥取市 山下 凱柳

迷いなく秋のしぶとい蚊を叩く
岡山県 藤澤 照代

榎原市 居谷真理子
買ってきた種買ってきた土に蒔く

防府市 坂本 加代
球根にそこで咲けるか聞いてみる

鳥取県 竹信 照彦
玉葱の苗は一本一個生む

岡山市 永見 心咲
花水木伐って小鳥が来ぬと愚痴

豊橋市 八甲田さゆり
出来たての空気吸い込む登山道

岡山市 田中 恵
脳味噌の余白にほしい虹の色

大洲市 花岡 順子
夕食の心配ばかり主婦の旅

豊橋市 西郷紀美代
外食は種類多い古いふたり

松江市 相見 柳歩
一致した麺のかたさの好みまで

羽曳野市 吉村久仁雄
暖簾から美味しい店と知るグルメ

松江市 榎瀬みちを
頭見て箸はいるかとウエイター

尼崎市 山田 厚江
パリパリとエビの尻尾を食べる嫁

長岡京市 山田 葉子
つくるのはテレビの手抜き料理だけ

米子市 池田 美穂
ガソリンが上がり食材もやし増え

大阪市 樋口 眞
戦よりましとコロナに耐えている

笠岡市 藤井 智史
コロナではないと鼻炎を主張する

高槻市 初代 正彦
肘タッチよりもお辞儀にある気品

松山市 郷田 みや
マスクしてスマホひとつでミニ旅行

神戸市 敏森 廣光
心のうちマスクが邪魔し読み難い

宝塚市 丸山 孔一
木犀の香りマスクで濾して嗅ぐ

大山市 金子美千代
帽子にマスクしても席を譲られる

枚方市 栃尾 奏子
すこもりでええやんウチが居てるやん

枚方市 藤田 武人
偉そうに座りソーシャルディスタンス

倉吉市 大羽 雄大
家籠もりポストへボトリ訪問者

大阪市 津守 柳伸
巣ごもりへ温泉行きはすぐ決まる

三原市 笹重 耕三
寅さんのリズムで自粛明けの旅

西宮市 福田 正彦
会えぬ事語れぬつらさ身にしてみた

吹田市 西沢 司郎
大谷にコロナストレス発散賞

堺市 内藤 憲彦
ナニコレのテレビ肴に妻と呑む

香南市 桑名 孝雄
晩酌二合妻の査定で二勺減

神戸市 山崎 武彦
おうち飲み妻はワインで僕麦茶

和歌山県 三枝眞智子
秋深しワイン片手に夢語る

奈良市 尾畑なを江
ひとり酒たまには良いね柿の種

三田市 野口真桜子
やがて雪 独り湯豆腐酒二合

和歌山市 北原 昭枝
湯豆腐で一杯のんで温まる

高槻市 松岡 篤
退院が決まり思いは酒の方

鳥取市 副井ゆたか
断酒への妻の圧力掻い潜る

羽曳野市 梶原 弘光
サヨナラ勝ち余韻持ち寄り縄のれん

豊橋市 小松くみ子
ほろ酔いの場に行ける幸かみしめる

富士見市 中島 通則
お茶でもと言って呑んでる缶ビール

豊中市 水野 黒兎
枝豆の青をブチッとビール飲む

宇都部市 平田 実男
ワンカップ呑んでぐっすり明日へ寝る

共選欄

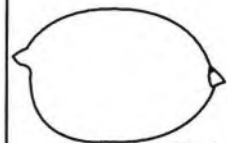
檸

檬

抄

(薰風書、カッタとも)

(投句318名)



κ. κ

「盛る」 乘原道夫選

女房に毒を盛られて四十年

豊中市 松田蟻日路

大盛りはあるかと後期高齢者

大阪市 高杉 力

好奇心でんこ盛りしてまだ生きる

黒石市 石澤はる子

おでん山盛り愛をいっばい添えて

藤井寺市 鈴木いさお

酒盛りに天女が一人舞い降りた

大阪市 古今堂蕉子

若いころ綺麗だったと話盛る

鳥取市 太田 睦子

あっちこちでんこ盛りした旅プラン

堺市 齋藤さくら

手作りの器にピュアな愛を盛る

西予市 黒田 茂代

一服を盛られ貴女に一目ぼれ

羽曳野市 吉村久仁雄

要らないよ一盛りくらの情けなど

尼崎市 宗 和夫

盛り過ぎてまたも後悔バイキング

神戸市 能勢 利子

大盛りの唐揚げラストひよいと取る

尼崎市 羽奈 和子

追伸の本音にそっと毒を盛る

門真市 坂本 星雨

ちよっとだけ盛った噂が燃え上がる

枚方市 藤田 武人

内緒だと言うと話が盛りあがる

広島市 有田 澄子

「盛る」 久保田千代選

ミステリーいきなり毒を盛るシーン

京都市 清水 英旺

CMが旨い言葉をも皿に盛る

寝屋川市 伊達 郁夫

大袈裟もフェイクも盛ってワイドショー

豊中市 松田蟻日路

山盛りの秋を届ける段ボール

高槻市 島田千鶴子

大皿に秋の生命をてんこ盛り

大阪市 内田志津子

日本の秋いっばいを皿に盛る

豊中市 水野 黒兎

あっちこちでんこ盛りした旅プラン

堺市 齋藤さくら

燃え盛る秋に思わず止めた足

河内長野市 中島 一彌

ひらめいたことば盛りつけいい一句

八尾市 村上ミツ子

洩る右脳にムリを盛り込む

塩竈市 木田比呂朗

花盛り過ぎて肥料が欲しくなり

吹田市 太田 昭

トラキチは勝ち負け問わず盛り上がる

尼崎市 清水久美子

筋書きにない声援がときめかす

八王子市 川名 洋子

四回転ジャンプと山盛りのみかん

芦屋市 上野多恵子

アデイシヨナルタイムに盛り上がる行方

松江市 石橋 芳山

| | | | |
|-------------------|-------|-------|----|
| マイセンの皿に小芋の煮ころがし | 大阪府 | 米澤 | 俣子 |
| 疑惑みな盛土の下に閉じ込める | 奈良県 | 渡辺 | 富子 |
| 土石流になった盛り土のヒガンバナ | 鳥根県 | 伊藤 | 寿美 |
| 厳しい目母は無言で飯を盛る | 大阪府 | 森 | 廣子 |
| 盛りつけの上手な人の処世術 | 神戸市 | 山口 | 光久 |
| 田舎道スマホ談義で盛り上がる | 八幡市 | 武田 | 悦寛 |
| ひとりでも色々盛って膳かざる | 大阪府 | 笠嶋 | 恵美 |
| 盛り付けをほめるとすつと出たビール | 河内長野市 | 梶原 | 弘光 |
| 三本の薔薇盛り上げるかすみ草 | 大阪府 | 阪井 | 恵子 |
| 何気なく皮肉たつぷり皿に盛る | 三田市 | 九村 | 義徳 |
| ちよつとだけ盛った話に座が和む | 神戸市 | 富永 | 恭子 |
| 話すたび恋ばなが美化されていく | 大阪府 | 宇都満知子 | |
| 盛りすぎた話に外野盛り上がる | 和歌山市 | 定松 | 宏枝 |
| 決別のその日ラーメンは大盛り | 松江市 | 石橋 | 芳山 |
| 盛り付けの余白にプロの隠し味 | 岐阜県 | 喜多村正儀 | |
| マニフェストわいわい皿に盛るばかり | 高槻市 | 富田 | 保子 |
| 山盛りの餡こで祝う誕生日 | 熊本市 | 杉野 | 羅天 |
| 大盛りのカレー無理して食べたつけ | 和歌山県 | 三枝眞智子 | |
| ごはんは少なめスイーツは大盛り | 奈良市 | 大久保眞澄 | |
| なけなしの髪に気合いを盛って春 | 海南市 | 小谷 | 小雪 |
| みかん一盛り炬燵が欲しいシーズンだ | 池田市 | 上山 | 堅坊 |
| ミステリーいきなり毒を盛るシーン | 京都市 | 清水 | 英旺 |

| | | | |
|--------------------|------|-------|----|
| 日本中翔平くんで盛り上がる | 大阪府 | 川端 | 一步 |
| 北の地に盛るように降る雪の高 | 寝屋川市 | 廣田 | 和織 |
| 安心を盛る津波届かぬ高さまで | 岡山市 | 永見 | 心咲 |
| 捨て場所がないからずんと雪を盛る | 弘前市 | 稲見 | 則彦 |
| 寒いので話を盛っていいですか | 佐賀県 | 真鳥久美子 | |
| 大盛りを食べるライバルには勝てぬ | 高槻市 | 原 | 洋志 |
| 味よりもインスタ映えに盛る料理 | 豊中市 | 齋藤奈津子 | |
| 兄ちゃんのおかずは盛りが良かったな | 三田市 | 北野 | 哲男 |
| 大盛りは卒業しよう明日から | 弘前市 | 高瀬 | 霜石 |
| 飢餓の子の夢に出てくるてんこ盛り | 尼崎市 | 藤井 | 宏造 |
| 盛衰を極めた男のデスマスク | 枚方市 | 藤村 | 亜成 |
| 一服盛られ歴史に消えた独裁者 | 藤井寺市 | 鈴木いさお | |
| マスクして小さな集い盛り上がる | 羽曳野市 | 徳山みつこ | |
| 盛りすぎた化粧にレディガガもびっくり | 松江市 | 藤井 | 寿代 |
| 自分史に盛りつけてある虚栄心 | 堺市 | 澤井 | 敏治 |
| いつか着るそのうち読むを山と盛る | 奈良市 | 大久保眞澄 | |
| 行間に盛るやさしい文になびく風 | 倉吉市 | 岡崎美知江 | |
| 盛り立て役縁の下にもやつと春 | 和歌山市 | 上田 | 紀子 |
| 盛り上げて落としてさつと消えた人 | 大阪府 | 古今堂蕉子 | |
| 我が心憲法に盛る平和主義 | 鳥取県 | 竹信 | 照彦 |
| 盛ったお世辞言った後から気が咎め | 高槻市 | 片山かずお | |
| 心盛る寂聴法話に癒やされる | 横浜市 | 川島 | 良子 |

| | | | |
|------------------|-------|-------|----|
| 盛り上げるためのカンバイ何回目 | 大阪市 | 坂 | 裕之 |
| 盛り上げた話の落としどころにされ | 河内長野市 | 森田 | 旅人 |
| 白磁の皿にコントをひとつ盛る | 大東市 | 小川賀世子 | |
| 捨て場所がないからずんと雪を盛る | 弘前市 | 稲見 | 則彦 |
| 山盛りのりんごを買って友と分け | 八尾市 | 村上ミツ子 | |
| 今日の皿不満も愚痴も盛ってある | 神戸市 | 敏森 | 廣光 |
| 皿に盛る今日一日の有難さ | 倉吉市 | 牧野 | 芳光 |
| デバ地下の惣菜大事な皿に盛り | 桜井市 | 安土 | 理恵 |
| 盛り皿の豪華おおかた多国籍 | 鳥取市 | 吉田 | 弘子 |
| CMが旨い言葉を皿に盛る | 寝屋川市 | 伊達 | 郁夫 |
| ウーロン茶で座を盛り上げる得意技 | 大阪市 | 横山 | 里子 |
| やけ酒で盛り上がる筈ありません | 奈良県 | 安福 | 和夫 |
| 盛ったお世辞言った後から気が咎め | 高槻市 | 片山かずお | |
| 夢を盛る皿を探して旅に出る | 弘前市 | 福士 | 慕情 |
| 冷えきった答が皿に盛ってある | 出雲市 | 岸 | 桂子 |
| 寒いので話を盛っていいですか | 佐賀県 | 真島久美子 | |
| 上品に盛られキャビアが主人公 | 尼崎市 | 近兼 | 敦子 |
| 母の手がご一杯にみかん盛る | 奈良市 | 加藤江里子 | |
| 宅配便リング梨柿秋を盛り | 奈良市 | 宇賀 | 史郎 |
| 盛り籠のりんごも梨も化粧すき | 富田林市 | 片岡智恵子 | |
| 宿題は山積みチョコは山盛りに | 鳥取県 | 斉尾くにこ | |
| 欲望を盛るたび器欠けてゆく | 大阪市 | 小野 | 雅美 |

| | | | |
|------------------|-------|-------|----|
| おもしろく聞かせ上手の盛る話 | 香芝市 | 大内 | 朝子 |
| 身の内にどっぶり夕日落ち葉盛る | 岡山市 | 工藤千代子 | |
| 菊の香にしあわせ盛って墓参り | 三田市 | 尾崎 | 一子 |
| 新米を円く大きく御仏飯 | 唐津市 | 仁部 | 四郎 |
| 仏飯を盛って心の刺を抜く | 鳥取市 | 倉益 | 一瑠 |
| 土石流になった盛り土のヒガンバナ | 鳥根県 | 伊藤 | 寿美 |
| 盛り塩へコロナの風がよく笑う | 伊丹市 | 岡村 | 和佳 |
| 疑惑みな盛り土の下に閉じ込める | 奈良県 | 渡辺 | 富子 |
| 盛り土へ水禍が起る日本地図 | 伊丹市 | 延寿庵野鶴 | |
| ハザードマップに盛り土も含めよう | 大阪市 | 江島谷勝弘 | |
| 夢いっぱい盛り込み過ぎた砂の城 | 河内長野市 | 辻村 | ヒロ |
| SDGs 若者たちが決意盛る | 羽曳野市 | 吉村久仁雄 | |
| 公約を盛られ過ぎると不信感 | 大阪市 | 立蔵 | 信子 |
| バラマキを盛って政治が黄昏れる | 横浜市 | 加藤 | 佳子 |
| 行き場ない盛られたままの核のゴミ | 鳥取市 | 前田 | 楓花 |
| 決戦に挑む息子へ活を盛る | 高槻市 | 初代 | 正彦 |
| 子の門出こっそり母が塩を盛る | 三原市 | 鴨田 | 昭紀 |
| 人間の正体欲の天こ盛り | 富田林市 | 山野 | 寿之 |
| 儉しくも今日の平穩盛る茶碗 | 神戸市 | 奥澤洋次郎 | |
| 新蕎麦を盛った割子の噛み応え | 安来市 | 原 | 徳利 |
| 皿に盛る今日一日の有難さ | 倉吉市 | 牧野 | 芳光 |
| 今日の皿不満も愚痴も盛ってある | 神戸市 | 敏森 | 廣光 |

| | | |
|-------------------|-------|--------|
| 盛りつけに苦手を一つ載せておく | 東京都 | 川本真理子 |
| コンビニをてんこ盛りして夜の膳 | 鳥取市 | 前田 楓花 |
| エステ情報盛りだくさんでおぼれそう | 香芝市 | 山下 純子 |
| 大盛りの秋はいかがと道の駅 | 三田市 | 稲角 優子 |
| なみなみと盛ったグラスにキスをする | 安来市 | 原 徳利 |
| 君という毒なら盛りたいグラス | 枚方市 | 栃尾 奏子 |
| マイセンのブルーに似合う毒を盛る | 岡山市 | 永見 心咲 |
| 無いこともなかった一服盛るチャンス | 藤井寺市 | 太田扶美代 |
| 夢いっぱい盛り込み過ぎた砂の城 | 河内長野市 | 辻村 ヒロ |
| 数千の雑魚の命を盛るはかり | 枚方市 | 藤村 亜成 |
| 山盛りの秋を届ける段ボール | 高槻市 | 島田千鶴子 |
| 盛りつけの仕上げにのせる花言葉 | 黒石市 | 北山まみどり |
| 短冊にわたしを盛って書いている | 鳥取市 | 倉益 一瑠 |
| 京料理みたいに盛った法話聴く | 和歌山市 | 柏原 夕胡 |
| 盛り籠の中でレモンの澄まし顔 | 芦屋市 | 竹山千賀子 |
| 四回転ジャンプと山盛りのみかん | 芦屋市 | 上野多恵子 |
| 手の平に盛る幸せでいいのです | 貝塚市 | 吉道あかね |
| 三世帯盛り付け少しずつ違い | 貝塚市 | 石田ひろ子 |
| 秀 句 | | |
| みかん盛るくだもの店の確かな手 | たつの市 | 江尻 房子 |
| 自画像に少し盛り過ぎたか笑顔 | 富田林市 | 中村 恵 |
| ご褒美に大盛りトマトいかげす | 大阪市 | 寺井 弘子 |

| | | |
|------------------|-------|--------|
| 仲買人の符牒魚河岸盛り上げる | 奈良県 | 長谷川崇明 |
| 秋色の手料理を盛る笑顔盛る | 西宮市 | 亀岡 哲子 |
| 盛り付けのバランスの技白残す | 防府市 | 坂本 加代 |
| 盛り付けの余白にプロの隠し味 | 岐阜県 | 喜多村正儀 |
| 致死量のしあわせを盛る皿がいる | 青森県 | 月波 与生 |
| 山盛りの館こで祝う誕生日 | 熊本市 | 杉野 羅天 |
| よく喋る女の前にカニを盛る | 堺市 | 村上 玄也 |
| 学生の町でカラアゲてんこ盛り | 橿原市 | 居谷真理子 |
| 盛りつけに苦手を一つ載せておく | 東京都 | 川本真理子 |
| 山盛の蜜柑朽ちてるのがひとつ | 大阪市 | 田中ゆみ子 |
| 盛り籠のりんごも梨も化粧ずき | 富田林市 | 片岡智恵子 |
| 盛りつけの仕上げにのせる花言葉 | 黒石市 | 北山まみどり |
| 盛りつけの上手な人の処世術 | 神戸市 | 山口 光久 |
| アピールの不足に愛を盛っておく | 笹岡市 | 藤井 智史 |
| 惚れ葉盛つてあなたをひとりじめ | 神戸市 | みぎわはな |
| 君という毒なら盛りたいグラス | 枚方市 | 栃尾 奏子 |
| 盛り過ぎた愛が重荷になっている | 大阪市 | 平井美智子 |
| 手の平に盛る幸せでいいのです | 貝塚市 | 吉道あかね |
| 秀 句 | | |
| 訳ありを大盛りで売るそつの無さ | 男鹿市 | 伊藤のぶよし |
| 盛りあげた絵の具ゴッホが歌ってる | 河内長野市 | 村上 直樹 |
| 奥の手は愛盛ってある遺言書 | 神戸市 | 長川 哲夫 |

「節目」

(投句 227名)

森山盛桜選



回り道した人生に無い節目
ワクチンの節目決められ歳を知る
運不運節目節目の再検査
安普請節目位は我慢する
転倒を境に老化一直線
理屈抜き節目節目に酒が出る
苦難乗り越えその都度節目太くなる
祖母がいた頃の赤飯あんこ餅
一族の最長老となる卒寿
素っ気なく節目素通りしてしまふ
運勢が急に変わった曲り角
コロナ禍に浸かり節目も無く暮らす
経歴の一行ごとにある落差
過去形の節目アルバムから戻す
真剣に生きる節目となる手術
節目には何だかんだと金が必要
バラ色と信じてシングルの始発
負けゲームでも反省会は休まない
ターニングポイントよけて通り過ぎ

広島市 松尾 信彦
枚方市 谷 英也
大阪市 横山 里子
松江市 梅瀬みちを
黒石市 石澤はる子
高槻市 松岡 篤
鳥取市 山下 凱柳
黒石市 北山まひとり
札幌市 三浦 強一
大阪市 大沢のり子
米子市 中原 章子
三原市 鴨田 昭紀
大阪府 高木 道子
岐阜県 喜多村正儀
名古屋 富田 末男
貝塚市 吉道あかね
奈良市 米田 恭昌
鳥取市 福西 茶子
岩国市 上村 夢香
松山市 大内せつ子

竹ほどは無い私にある節目

節目のときは今が節目と気づかない

スランプはHランプで抜けました

辛い事節に残して伸びる竹

記念日とゴミの日並ぶカレンダー

冷奴・湯豆腐はくの衣替え

この辺がちょうど谷だという節目

ネクタイを節目に結ぶ白と黒

切り捨てた過去が輝くおもちゃ箱

万人の節目となった終戦日

とりあえず着ておく赤いちゃんちゃんこ

思案した跡だと思ふ竹の節

佳句

胃に影があると言われたのが節目

あやまちの数だけ節を強くする

古希過ぎて敗者復活諦めた

刈入れが終わって風の色変わる

ここからが冬だ霊柩車のホーン

退職日スマホを消去して帰る

亡母の歳追い越した日の浮遊感

地

じわじわと老いて定かでない節目

天

頼るのはもう止めにした百握り

軸

広島市 羽城 裕子
高槻市 片山かずお
枚方市 藤田 武人
豊中市 松尾美智代
八幡市 武田 悦寛
弘前市 高瀬 霜石
広島市 有田 澄子
三田市 谷口 修平
枚方市 栃尾 奏子
西宮市 緒方美津子
交野市 山野 双葉
藤井寺市 太田扶美代
堺市 村上 玄也
岡山市 永見 心咲
三田市 堀 正和
橿原市 居谷真理子
佐賀県 真島久美子
青森県 月波 与生
大阪市 島田 明美
堺市 奥 時雄

「アドリブ」

山本 希久子 選
(投句 227名)



ジャズアドリブ語り合つてる楽器たち
アドリブの一語和んでいく空気
即興の遊びはじめる子等の知恵
小三治の「まくら」が酔わず笑わせる
アドリブが重い話を軽くする
赤ちゃんの笑顔いつでもアドリブだ
即興の妙なる調べ駅ピアノ
秋風の歌即興のロマネスク
アドリブは効かぬ頑固な耕運機
アドリブの上手い男で生き上手
人生のほとんどアドリブで生きる
おひねりが舞ってアドリブ活気づく
アドリブでかあるく切っ先躲される
アドリブに夫婦の息が合う舞台
アドリブの文化が生きている浪速
母のアドリブ餃子にブリが入ってる
アドリブの一つはユーモアで包む
アドリブでその場の風をやわらげる
産声の後はアドリブだけでした
変換キーボンと楽しい字が浮かぶ

羽曳野市 吉村久仁雄
富田林市 山野 寿之
枚方市 山口弘委智
鳥取市 岸本 宏章
神戸市 みぎわはな
鳥取市 谷口回春子
河内長野市 中島 一彌
大阪市 石田 孝純
三原市 笹重 耕三
越谷市 久保田千代
豊中市 きとうこみつ
堺市 澤井 敏治
藤井寺市 太田扶美代
高槻市 富田 保子
大阪市 瀬島流れ星
大阪市 宇都満知子
海南市 小谷 小雪
香芝市 大内 朝子
青森県 月波 与生
土佐清水市 辻内 次根

アドリブが弾む金曜日のデート
カラオケの二番以降はアドリブで
アドリブに積んだ齢の味が出る
絵手紙へアドリブびったりとはまる
アドリブへアドリブ返す名演技
アドリブで綴る年金の家計簿
賑やかなアドリブ連れてお正月
即興で兎になった秋の雲
真っ白なシナリオアドリブで埋める
毎日がアドリブ今日も綱わたり
台本にないひと言で掴む客
アドリブのメロディーゆらり児が眠る

佳 句
アドリブでかわす世間の風当たり
笑えないアドリブ外せないマスク
アドリブでこの世を渡りきるつもり
五歳児が機転利かせた初舞台
アドリブで出された杖に寄りかかる

人
人生はアドリブ今日もトッカータ
弁慶は勸進帳で名を残し

地
天
軸
アドリブで生きたまゆらの陽の光
アドリブ楽しい何が飛び出す玩具箱

豊中市 松尾美智代
寝屋川市 廣田 和織
米子市 成田 雨奇
河内長野市 木見谷孝代
堺市 内藤 憲彦
塩竈市 木田比呂朗
羽曳野市 徳山みつこ
大阪市 森 廣子
大阪市 小野 雅美
米子市 後藤 宏之
枚方市 藤田 武人
高槻市 島田千鶴子
大阪市 岡田 恵子
安来市 原 徳利
黒石市 石澤はる子
奈良市 米田 恭昌
岡山市 永見 心咲
大阪市 平井美智子
今治市 永井 松柏
河内長野市 森田 旅人

初しぎ教室

題一幸

高瀬霜石

これを書いているのが、11月の上旬。

2カ月前のあの感染者数。突然急激ダウン。「オッ！この調子なら、来年こそ平和な正月を迎えられるか」と、ちよつと期待する。

が、敵はしたたか、変幻自在。正月を迎える前に、忘年会シーズンというやっかいな大河も横たわっている。さて、第6波は——来るのか、来ないのか。

①まずは恒例。上と下を入れ替えてみる。

(▼は原句。▽が参考句)

▼幸不幸物差しの位置変えてみる 行久

▽物差しの位置変えてみる幸不幸

▼誕生日飲み食いおどり一夜明け ミヨノ

ここは、あえて、上が重くなっても、リズムカルに、こう仕上げたい。

▽飲んで食って踊って明けた誕生日

オット、ごめん。作者は女性だった。「食つて」は、いかにも乱暴で、品がないか。

▽飲んで食べて踊って明けた誕生日

▼笑いじわ幸せ刻む年輪さ (澤良子)

▽幸せを刻んだほくの笑い皺

オット、これもごめん。女性に「ほく」では違和感あるだろうから、これの方が。

▽年輪と思うわたしの笑い皺

▼日本晴れ日がな一日空ながめ 風鈴

▽日がな一日空をながめる日本晴れ

②もつと適切な表現はないか。大袈裟にした

り、ドラマチックに仕立て変えたり、抽象的な言葉をカットして、具体的な言葉を持つてきたりして、読者の視覚効果を高める。

▼幸運の女神のような嫁が来る 和子

この句の肝は中七下五。「幸運」と「女神」は同一語だと僕は思うから、分解したい。

▽運がいい女神のような嫁が来る

▽当たりクジ女神のような嫁が来る

▼回り道希望の星を追いかけて ひでお

この句も、「希望の星」は歌謡曲ならいいけれど、川柳となると、分解したい。

▽回り道やむなし星を追いかけて

▼痛み取れスキップするよホラできた 不二夫

▽痛み取れましたスキップできました シンプルに、シンプルに。次の句もそう。

▼幸せと自分にシール秋夜長 次郎

▽幸せのシール自分に貼ってみる

▼帰る道あり焼きたてパンがあり 尚
なんと幸せな尚さん。これはこれでいいのだが、もそつとシンプルに。

▽焼きたてのパンが待ってる家がある

▼すれちがい幸せ逃がす恋の橋 一平

「恋の橋」はいいフレーズ。ここまで書いたなら、どうせなら、もつと大袈裟に、もつとドラマチックにしたい。

▽幸せとまたすれちがう恋の橋

次の句も一緒。どうせなら、もつと豪勢に。

▼出前寿司ひとりの夜は上にする 誓子

▽出前寿司ひとりの夜は特・上に

▼幸せと思わず漏れる生ビール のぞみ

僕も、のぞみさんと一緒。大のビール党。

▽幸せと思わず漏らす生ビール

ほんのちよつとしたところなのだが。次の句も、原句は原句でいいのだが。

▼それぞれに尺度異なる幸福度 (澤良子)

▽それぞれに尺度が違う幸福度

▼虐待死辛薄き子に涙する ひとみ

「虐待死」と「辛薄き」の組み合わせは、ストリート過ぎて、あまりにも辛い。なのでこは、あえて2つに分けて、衝撃度を薄めたい。

▼虐待死どこかでボタン掛け違う

▼ニユース見る辛薄き子に涙する

▼めずらしや女房肩もみしてくる 蟻日路

なんとお幸せな蟻日路さん。これはこれでOKだけでも、古川柳じゃないんだからさ。

▼めずらしい妻が肩もみしてくれる

次からの4句は、そのまんまでOKなのが、でも僕だったら、ここのこの1字をこう変えるんだがなあと思う句。勿論、作者は、余計なお世話だと思はず。

▼幸せの方程式へこつこつと 義明

▼幸せの方程式をこつこつと

▼稼ぐ子に幸せ願ひ編むセーター 智恵子

▼稼ぐ子の幸せ願ひ編むセーター

▼好きなこと出来て楽しい毎日が 風露

▼好きなこと出来て楽しい毎日だ

▼辛はまだ時間をかけて育てます 裕子

▼辛をまだ時間をかけて育てます

○は佳句、◎優秀句

○星も目もまたいたいたプロポーズ くみ子
どこで間違ったのか「星」で届いた中の1句。題に関係なく、いい句はいい句なのだ。

大会で、題の箱を間違えて入れたが、その結果、思わぬ高点句になったりしたことも、たまにあった。これも出合いの楽しみ？

○山の幸海の幸富む兵庫県

これ、俗に言う「動く句」。青森県でも、どこでも、そうだよと言えば身も蓋もない。

これでいいのだ。各々、幸の違いが、微妙に違うのだ。その魅力が分からんで、あれこれ文句を言う奴を、野暮というのだな。

○幸あれと親くれし名に負けられぬ 双葉

格調高く、文句なしの佳句。

○お早うが今日の幸せくれました 美代

○これからもこっそりおいで青い鳥 照枝

◎結婚後も幸せですかシンデレラ 睦子

エツ？ 急にそんなことも言われてもさあ。眞子さまは、シンデレラではないのだが、ふと彼女が重なった。どうぞ、ニユーヨークでお幸せに。秋篠宮殿下も、紀子さまも、ほんと気が気じゃないわなあ。

◎幸せが手を振っている交差点 和夫

これは、眞子さまに限らない。誰にもそうあって欲しいもの。この句——和夫さんの代表句となるに違いないと、僕は思う。

今月の卒業者は、2人。まずは、倉吉市の若松由紀子さん。由紀子さんの句、あえて言えば、川柳味が薄い、でも、それに勝る品がある。ここが由紀子さんの魅力だ。

○山の幸いだだいてます栗むかご 由紀子

栗の次に、むかごをもってきたのがヒット。

○底辺の暮しに合った幸がある 由紀子

○友三人笑いころけて老いの幸 由紀子

もう1人は、米子市の妹能令位子さん。

◎さあ風呂だ畑仕事をやり切った 令位子
きつと、その後、キリッと冷えたビールをググつだらうだらうけれど。このスッキリ感、生活の満足度がピンピン伝わり最高。

○ネコ膝に句箋並べる昼下がり 令位子
猫嫌いの僕は、無視したい句だが、くつろいでいる様子はよく分かる。

○自家製の小豆で炊いたお赤飯 令位子
川柳としては、やや弱いが、食いしん坊の僕には魅力的な句。令位子さん、一度、ご馳走してーな。皆様、よいお正月を。



歌は世につれ (1)

「歌は世につれ世は歌につれ」とは言い古された言葉です
が、多くの人に愛され歌い継がれてきた歌それぞれ、歌詞や
メロディーはその時代を反映しているものです。

そのような流行り歌と国歌である「君が代」を同列に並べ
るのは如何なものかとも思いますが、トップバッターとして
先ず取り上げていただきます。

君が代の歌詞を忘れたことはない

最前列君が代歌う後回り

君が代を歌うジーパン頑張れよ

愛しています曰の丸も君が代も

口あまり開かなくてもいい国歌

君が代は応援歌には向いてない

君が代の余韻背骨が伸びてくる

君が代の歌詞は「古今和歌集」から採られています。戦前
戦後を通じ長い間「準国歌」として歌い継がれてきましたが、
平成11年8月に成立した「国旗及び国歌に関する法律」によっ
て正式に国歌として認定されました。

多くの歌は人の心を慰め勇気づけてくれますが、この「君
が代」ほど賛否が分かれる歌はありません。国旗の「日の丸」
と同じように愛している人もいれば敬遠する人もいます。

君が代のこの気怠さは何だろう

君が代を歌わなかった鶴彬

岸本 宏章

内藤 憲彦

吉村 一風

平井 義男

佐藤 千四

野村 希

藤田のぼる

戦前
戦後を通じ長い間「準国歌」として歌い継がれてきました

多くの歌は人の心を慰め勇気づけてくれますが、この「君
が代」ほど賛否が分かれる歌はありません。国旗の「日の丸」
と同じように愛している人もいれば敬遠する人もいます。

木下 草風

中前 棋人

君が代で身震いをする旭日旗

教師にはなれぬ君が代嫌な人

君が代に立たねば非国民ですか

君が代をもぐもぐもぐと囁んでいる

君が代は座って社歌は起立する

君が代を敬遠する人の多くは、この歌を強制的に歌わされ
戦地へ送られ、遂には帰還し得なかつた祖父や父のことを
想つてのことでしょう。そのような暗く悲惨な背景を考えま
すと、素直に起立斉唱できない気持ちも理解できます。

再び辿ってはならない暗い歴史を学んだ上で、君が代の
「君」を「君たち」「私たち」と理解して、この国を背負つて
立つ子供たちに愛される国歌となれば嬉しいのですが……

君が代のとに歌つた海ゆかば

昭和史の中ほどにある海ゆかば

遺骨なき父の墓前に海ゆかば

呆けてない証拠に歌う海ゆかば

令和にも奏でるなかれ海ゆかば

同期の桜また父さんの目がうるむ

もう誰も「恩賜の煙草」うたわない

「海行かば」の歌詞は「海行かば 水漬く屍 山行かば
草生す屍」。軍歌にしては莊重なメロディーであり出陣式
などの式典に向いていたのでしょう。この歌と同じように、
兵士を鼓舞し戦地へ送り出した軍歌の多くもまた「君が代」
のように懐かしく思う人と敬遠する人に分かれるようです。

「同期の桜」は同窓会でも歌いますが、「恩賜の煙草」いただ
いて「空の勇士」を歌える人は絶滅危惧種でしょうか。

廣田 和織

利光ナヲ子

中村 安重

前田 悠遊

桑原 清風

土橋 螢

板垣 孝志

濱邊稲佐岳

太田 良喜

鈴木 了一

太田 扶美代

仁部 四郎

山行かば

水漬く屍

草生す屍

出陣式

式典

懐かし

敬遠

同窓会

絶滅危惧種

空の勇士

海行かば



追悼

都倉求芽さんを偲ぶ

片山 かずお

京都の都倉求芽さんが、令和三年十月三日に亡くなられた。昭和三年九月三十日が誕生日でしたから、九十三歳になられてすぐの旅立ちとなった。

求芽さんと言えば「京都塔の会」。

私が最初に京都塔の会に出席させてもらった平成二十年頃、いつも句会日には、新しい句箋などの句会用品と、分厚い国語辞典を入れた大きな紙袋を提げて来ておられた。

求芽さんは生来の汗かきで、まだ皆が「寒い、寒い」と言っている三月から、もうハンカチで汗を拭きながらのご登場であった。句会場では、一番前の机が指定席であった。

求芽さんは元国鉄マン。真面目で寡黙。シャイだったのか、あまりご自分から話しかけることはなかったが、句会を大事にされていた。筆を持つことを厭わず、

投句箱に貼付する兼題表示札を、句会場でサラサラと書いておられた。

同会名物の春秋の吟行句会では、行先を京都らしい趣のある場所にすべく、ご自身で事前の下見を欠かしたことはなかった。吟行は女性の皆さんに好評であった。塔誌にも吟行案内を載せて貰って、吟行句会のときは大阪、兵庫、奈良からも参加があつて、五十人以上の参加者となることもあつた。

求芽さんは筆も立って、塔誌の目次の下のコラムを、平成二十三年から令和二年まで、連続して年に一回は執筆された。

〔求芽さんの小史〕

◇昭和三十三年三月

「川柳雑誌」の「近作柳樽」（麻生路郎選）に初入選。入選句は、

久々に逢うて聞くのにぐちばかり

（本名の都倉昭蔵で投句）

◇昭和三十三年七月

雅号を「求女」とする。

◇昭和三十八年八月

不朽洞会員となる。

◇昭和三十八年九月

麻生路郎選の「川柳塔」の初入選句。

川幅の広さへ口模型喰り

だれきつた音で市電は夏の午後

宵山の囃子へすだれ巻きあげる

まんまるい夕月汗がみな引いた

◇昭和四十四年八月

雅号を「求女」から「求芽」に改名。

◇昭和四十七年二月

「京都塔の会」の立ち上げに参加。

◇平成十九年四月

塔誌「自選集」作家となる。

「自選集」初掲載句は、

忙しいけれどたつぷりある余生

雑用もこなして世間の道均す

立ち話の中で臭いを嗅ぎ分ける

脳軽くなつて体重が増えた

線香が卑しい部屋を包み込む

求芽さん、ありがとうございます。

ご冥福をお祈り致します。

同人特集 私の一句

(順不同)

| | | |
|---------------------|------|-----|
| 再会のマスク グレータッチが熱い | 竹原市 | 小島 |
| てのひらにのせるとかわいらしいピワ | 鳥取県 | 新家 |
| 時どきは座り直している山だ | 和歌山市 | 川上 |
| 寄る年波わたしは腰のあたりから | 桜井市 | 安土 |
| もう一度ギア入れなおし遣る気出る | 三田市 | 足立 |
| 傷つけた言葉足らずがまだ疼く | 奈良県 | 福和 |
| 父は梅母は桜の香を残す | 豊中市 | 池田 |
| 躓いた場所に花まる描いておく | 大阪市 | 石田 |
| スイッチオン朝の脳波に新聞紙 | 橋本市 | 石田 |
| レタス剥ぐ若い自分が見えるまで | 貝塚市 | 石田 |
| たらればと反省しきり今生きる | 大阪市 | 磯島 |
| お灯明死者と暮らしている温さ | 橿原市 | 居谷 |
| 音もなく散る花のあり人のあり | 出雲市 | 伊藤 |
| つまずいて人はやさしい風を知る | 三田市 | 稲角 |
| 折りにふれ家系図出して語る祖母 | 弘前市 | 見角 |
| カラフルなマスクで近所闊歩する | 堺市 | 今井 |
| | | 万紗子 |
| | | 則彦 |
| | | 優子 |
| | | 玲峰 |
| | | 真理子 |
| | | 福貴子 |
| | | ひろ子 |
| | | 隆彦 |
| | | 孝純 |
| | | 純子 |
| | | 和夫 |
| | | つな子 |
| | | 理恵 |
| | | 大輪 |
| | | 完司 |
| | | 蘭幸 |

繩のれんくぐると崖つぶちだった
 寄り道を選んだことに悔いはない
 女です最期の写真選つてます
 インターネットついで道草をしてしま
 ステイホームコピーのような日々送
 弾んでる心の奥にある重し
 傷ついて夜汽車はやがて故郷に
 神さまが楽に生きよと物忘れ
 ロング缶一本だけの誕生日
 手を洗ういとしいものを抱くため
 加齢つてうるおいの引き算だなあ
 うるおいをちりめん皺が恋しがる
 自分から謝つてする仲直り
 埃まみれの骨董品になった
 人間を素足になつて取り戻す
 八月の楽器は魂を揺する
 面白いこと探してラスラン
 注文をするに品書きない政治
 どこよりもこの街が好き陽を拜む

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 三田市 | 神戸市 | 西宮市 | 藤井寺市 | 吹田市 | 奈良市 | 箕面市 | 香芝市 | 岡山市 | 大阪市 | 大阪市 | 大阪市 | 奈良市 | 豊中市 | 神戸市 | 大阪市 | 大阪市 | 大阪市 |
| 尾崎 | 奥澤 | 緒方 | 太田 | 太田 | 大久保 | 大浦 | 大内 | 大石 | 榎本 | 江島谷 | 宇都 | 内田 | 宇賀 | 上出 | 上田 | 岩崎 | 岩崎 |
| 一子 | 洋次郎 | 美津子 | 扶美代 | 昭 | 眞澄 | 初音 | 朝子 | 洋子 | 舞夢 | 勝弘 | 満知子 | 志津子 | 史郎 | 修 | 和宏 | 玲子 | 公誠 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 昌紀 |



| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|-------------------|------------|----------------|---------------|----------------|----------------|---------------|---------------|--------------------|--------------|-----------------|----------------|---------------------|----------------|---------------|-------------------|---------------|--------------|
| 旅人は陶冶の旗を目指しつつ | てのひらはしあわせつかむためにある | 新春の希望の光い予感 | 三猿の真似もせぬまま卒寿越す | いい酒を飲むと体も機嫌いい | まだ五十まだ八十で生きてきた | 風呂さえも体力がいる老いの坂 | 保護犬に家と名前とパスデー | 万物の霊長と自惚れるヒト科 | コロナ終わればあれもこれもと指を折る | 履歴書も辞表も書いた文机 | 句を追うた人生もよし樹樹みどり | 逢えぬまま若いままの恋のあり | スマホデビューなぜかみんながおめでとう | 五十年空気のようになれました | 腕を組む無口な父の答え待つ | 一服のお茶に「やれやれ」てんこ盛り | 最高のライバル今はわが五欲 | 頬伝う涙に少し酔ってみる |
| 和歌山市 | 豊中市 | 東大阪市 | 三田市 | 鳥取市 | 鳥取市 | 広島市 | 東京都 | 寝屋川市 | 大阪府 | 東かがわ市 | 藤井寺市 | 西宮市 | 犬山市 | 高槻市 | 奈良市 | 大阪市 | 堺市 | 大阪市 |
| 木本 | きとう | 北村 | 北野 | 岸本 | 岸本 | 岸本 | 川本 | 川本 | 川端 | 川崎 | 嶋谷 | 亀岡 | 金子 | 片山 | 加藤 | 笠嶋 | 柿花 | 小野 |
| 朱夏 | こみつ | 賢子 | 哲男 | 孝子 | 宏章 | | 真理子 | 信子 | 一歩 | ひかり | 瑠美子 | 哲子 | 美千代 | かずお | 江里子 | 恵美 | 和夫 | 雅美 |

ほどほどに踏み違えては添うている
 蜜の味知って樹海に迷い込み
 ダイヤにはなれぬが重石にはなれる
 たましいの色目は紺か紫か
 フェイントをかけてあなたを惑わせる
 私の時計 狂うし止まる隠れはる
 丹念に灰汁だけ掬い生きている
 災害にたまの逢瀬も破綻する
 この先は余禄とするか今誓寿
 平凡な身にも水の箇所砂の箇所
 輪の中に入りしあわせ貰ってる
 時々はやさしい人の真似をする
 座っているそれで絵になる笠智衆
 それぞれの思いがあつて今日の空
 筆休め宇宙の動く中に佇つ
 ご先祖に無事を拜んで床に就く
 正月も帰省できぬと母に詫び
 なんとかなる覚悟を決めてから楽に
 また今朝も元気をくれる目玉焼き
 栗の毬割れて君何処行く人ぞ

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|----|------|-----|-----|-----|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|
| 熊本市 | 高槻市 | 高槻市 | 堺市 | 東大阪市 | 防府市 | 大阪市 | 箕面市 | 丹波篠山市 | 堺市 | 鳥取県 | 大阪市 | 弘前市 | 神戸市 | 大阪市 | 明石市 | 堺市 | 松山市 | 鳥取市 | 越谷市 |
| 杉野 | 初代 | 島田 | 澤井 | 佐々木 | 坂本 | 坂井 | 酒井 | 酒井 | 齋藤 | 斉尾 | 近藤 | 今水 | 輿水 | 古今堂 | 糀谷 | 栗原 | 栗田 | 倉益 | 久保田 |
| 羅天 | 正彦 | 千鶴子 | 敏治 | 満作 | 加代 | 裕之 | 紀華 | 健二 | さくら | くにこ | 愁正 | 愁女 | 弘子 | 蕉子 | 和郎 | 道夫 | 忠士 | 一瑤 | 千代 |

人生劇場お酒と歌と川柳と
待ちましよう恋は発酵途中です

六月の雨を絵筆に若かりし

恐竜も親子で見たか天の川

妻母女それぞれで描く私小説

茶柱が少し斜めに立っている

ワクチンが二度すみました逢いたいな

今日はなにも予定がないという不安

労りの言葉が増えた共白髪

ないといえばないあるといえばあるお金

元旦の血圧なんと180

三密ノ一きつい長女の火打石

隠してもオーラでてるよお幸せ

右向いて左向く間の記憶力

欲のない暮らしのんびり自画自賛

こんな時代だから笑って前を向く

様付けもありがたくない患者様

二枚舌いつか我が身に裁かれる

昼の月お前も迷っているのかい

この声が君の翼になるように

藤井寺市

大阪市

大阪市

奈良市

鳥取市

寝屋川市

大阪市

大阪市

三田市

大阪市

岡山市

枚方市

尼崎市

大阪市

大阪市

箕面市

大阪市

羽曳野市

神戸市

枚方市

鈴

高

高

高

伊

田

田

田

谷

谷

丹

丹

近

兼

津

津

出

寺

德

敏

木

杉

杉

橋

賀

達

中

中

口

口

下

屋

後

丹

兼

村

守

口

本

山

い
さ
お

千
歩
力

敬
子

八
千
代

郁
夫

廣
子

ゆ
み
子

修
平

凱
夫

凱
夫

敦
肇

敦
肇

志
華
子

柳
伸

セ
ツ
子

セ
ツ
子

み
つ
こ

み
つ
こ

廣
光

奏
子



弱虫の私自身が宝物
 びつたりの箱はそうそうないので
 お年玉渡し嬉しい顔と礼
 ワクチンを打ちましたか？選ばれる
 マイペース友の背中を遠く見て
 いきいきと百歳めざす八十路坂
 叱った子に叱られながら暮らしてる
 80の8横にすりゃ∞
 いい時代だったな父も母も居た
 三途の川で竿を垂らせば辱が釣れ
 百歳まで生きたくないという百歳
 還らない時間に今日も無為無策
 ガラガラポン私のあとで大当り
 平均の寿命あたりを今日も生き
 今ここで泣けば昨日が無駄になる
 人間のおごりが地球狂わせる
 とときめくと10歳若い顔になる
 マスクして無事に迎えたパースデー
 亡友の絵のお釈迦ほほ笑む花祭り
 一日をハシビロコウのように生き

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|------|-----|-----|
| 寝屋川市 | 箕面市 | 寝屋川市 | 宇部市 | 大阪市 | 大阪市 | 高槻市 | 尼崎市 | 奈良県 | 神戸市 | 三田市 | 大阪市 | 奈良県 | 米子市 | 尼崎市 | 大阪市 | 堺市 | 寝屋川市 | 神戸市 | 生駒市 |
| 廣 | 広 | 平 | 平 | 平 | 平 | 原 | 羽 | 長谷 | 能 | 野 | 西 | 中 | 中 | 永 | 中 | 内 | 富 | 富 | 飛 |
| 田 | 島 | 松 | 田 | 賀 | 井 | 奈 | 川 | 川 | 勢 | 口 | 出 | 堀 | 原 | 田 | 井 | 藤 | 山 | 永 | 永 |
| 和 | 巴 | か | 実 | 国 | 美 | 洋 | 和 | 崇 | 利 | 真 | 楓 | 章 | 紀 | 憲 | 憲 | ル | 恭 | 恭 | ふ |
| 織 | 子 | すみ | 男 | 和 | 智 | 志 | 子 | 明 | 子 | 桜 | 楽 | 優 | 恵 | 彦 | 彦 | 子 | 子 | 子 | り |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | こ |

平等を称える国も貧富に差
 ミサイルの飛び交う空は傷だらけ
 居てくれるただそれだけで良い案山子
 道端の草は付度せず生き
 眩きは何になるんだ青い空
 失敗を重ね根っこが太くなる
 座ったらラストオーダー告げられる
 今週の外出予定散髪屋
 自衛隊ワクチン接種の虹となり
 万物の涙が海の塩になる
 元氣過ぎ自信過剰で医者嫌い
 最高の贅沢孫と夕ご飯
 笛太鼓しっくり母のまつりずし
 すべて私の指紋なのです千羽鶴
 転ぶたび傷は浅いと自己暗示
 日記帳また空白の家籠り
 五七五の欠片探している詩囊
 目覚めたらそこが浄土という天寿
 昭和古いとかんたんに言わないで
 ギアチェンジしてもパワーは戻らない

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|----|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|---|
| 三田市 | 八尾市 | 堺市 | 松山市 | 豊中市 | 札幌市 | 和歌山市 | 高砂市 | 豊中市 | 高槻市 | 倉吉市 | 東京都 | 三田市 | 大阪市 | 尼崎市 | 枚方市 | 豊中市 | 笠岡市 | 尼崎市 | 西宮市 | |
| 村 | 村 | 村 | 宮 | 水 | 三 | 松 | 松 | 松 | 松 | 牧 | 野 | 堀 | 降 | 藤 | 藤 | 藤 | 藤 | 井 | 井 | 福 |
| 田 | 上 | 上 | 尾 | 野 | 浦 | 原 | 尾 | 尾 | 岡 | 野 | で | 幡 | 幡 | 田 | 田 | 井 | 井 | 井 | 田 | |
| | ミ | 玄 | み | 黒 | 強 | 寿 | 柳 | 美 | 芳 | と | 正 | 弘 | 雪 | 武 | 則 | 智 | 宏 | 正 | | |
| 博 | ツ | 子 | の | 兔 | 一 | 子 | 右 | 智 | 光 | よ | 和 | 美 | 菜 | 人 | 彦 | 史 | 造 | 彦 | | |

人ごとのように傘寿がやって来た
 河内弁仲裁に出てまたもめる
 括らねばならぬやがての旅支度
 永い人生ラツキーだった悔いは無い
 師の語録いつか血肉になる日まで
 約束の小指の先を反故にする
 早い者勝ちには弱いの人き者
 泣き上戸きつと優しい人なんだ
 ワクチンの効き目あるうち旅に出る
 宇宙人みたいな双児とび出した
 ノラという名前の猫の無愛想
 青い空行つてらっしゃい聞こえそう
 嬰鑠の白寿は銀の杖
 長寿バンザイ松竹梅の波がくる
 オーイ雲次のチャンスはボクだから
 すんなりと輪に入るコツは笑顔です
 退院の胃へちびちびと祝い酒
 しあわせな自分サイズにする暮らし
 断捨離を僕の昭和が邪魔をする
 波に乗り沖へ漕ぎ出すでかい夢

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-----|-----|-----|-----|
| 奈良県 | 奈良市 | 大阪府 | 羽曳野市 | 大阪市 | 奈良市 | 吹田市 | 富田林市 | 長岡京市 | 尼崎市 | 尼崎市 | 香芝市 | 神戸市 | 神戸市 | 枚方市 | 河内長野市 | 高槻市 | 米子市 | 松原市 | 尼崎市 |
| 渡 | 米 | 米 | 吉 | 横 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 安 | 八 | 森 | 森 |
| 辺 | 田 | 澤 | 村 | 山 | 本 | 本 | 野 | 田 | 田 | 田 | 下 | 崎 | 口 | 口 | 岡 | 田 | 木 | 松 | |
| 富 | 恭 | 俣 | 久 | 里 | 昌 | 希 | 寿 | 葉 | 耕 | 厚 | 純 | 武 | 光 | 弘 | 富 | 忠 | 千 | ま | 菊 |
| 子 | 昌 | 子 | 仁 | 子 | 代 | 久 | 之 | 子 | 治 | 江 | 子 | 彦 | 久 | 智 | 美 | 子 | 代 | つ | 江 |
| | | | 雄 | | | | | | | | | | | | 子 | お | | | |



(投句185名)

まだまだ落ち着かない中で迎えた新年ですが、それでも夢は持っていたいものです。

時間が出来たらゆつくりと読みたいと思ってる置いていた本も、読むどころか疲れてしまいう目に閉口しています。



それでもコタツに潜って、寒い日のひと時を何冊かの本と過せたら、ゆつたりとした新年なるのではと考えているのですが、これが夢だと言うのは夢が無さ過ぎでしょうか。

では、ナビを。

貝塚市 石田ひろ子

元気ですレシートばかり溜まります

(評) 外へ出られるようになると、つい買物がしたくなります。あれこれとレシートが貯まるのはホント、元気の証。

松江市 相見 柳歩

私とあなたがいれば布になる。

(評) あなたが縦糸、私は横糸、ふたり

して織り上げれば立派な布が出来上がるので、ですって。

神戸市 輿水 弘

字はうまく声は大きい いいじゃない

(評) 声の大きい人に悪い手はない、と申します。その上に字まで上手だなんて神さまに愛されているのです。

鳥取県 山下 節子

アドリブの上手な人だ楽しめる

(評) ポンポンと言葉のキャッチボールが出来るのも、人生の大きいなる楽しみの一つ。ポケる暇もありません。

大阪市 石田 孝純

迷ったら真ん中行けと言った父

(評) なんと素晴らしい教を残して下さったお父様でしょう。迷った時こそ胸張って堂々と致しましょう。

尾道市 小川 道子

大風呂敷ひろげるキミを包みたい

(評) 恥かしいから隠してしまいたいということなく、そんなキミだからこそ大きく包んであげたいのかな?

尼崎市 山田 厚江

同郷と聞くとおしやべりしたくなる

(評) 不思議ですよねえ、同郷と分かったとたん、昔からの知り合いのような気持ちになるんですから。

米子市 後藤 宏之

ちよっと待て半額まではあと五分

(評) 待ちます、待ちます。半額で買っ

た時の「お得感」つたらないですもの。でも、買い過ぎには注意ですよ。

三田市 村田 博

のど自慢ザ・ピーナッツは不滅です

(評) 「恋のバカンス」「大阪の女」など、今聞いても色あせない名曲だと思います。ああ聞きたーい。

西宮市 亀岡 哲子

別姓で自由でそして仲良しで

(評) 日本ではなかなか夫婦別姓は実現しそうにないですが、自由、仲良し、いいですね。

和歌山市 上田 紀子

口開けばもう漫才に浪速っ子

あと一つピース足りない我が夫婦

三田市 北野 哲男

政界の離合集散目のあたり

赤い色だったのかなあ その昔

大阪市 岩崎 玲子

一年を牛歩で縮めたい

老人のバトン老人が受け取る

豊中市 藤井 則彦

もうアナタしか見えませんサクランボ

誰も来ないね絆も古い縄電車

樺原市 居谷真理子

枚方市 栃尾 奏子

米子市 八木 千代

大阪市 江島谷勝弘

自尊心二人三脚より大事 唐津市 仁部 四郎

友恋し選挙速報一人聞く 美面市 出口セツ子

追って追ってまだ見つからぬ風の背な 三原市 笹重 耕三

人生は一度スベアキーはない 弘前市 高瀬 霜石

ハンバーグにするか豚マンにするか 大坂市 平井美智子

同類はおんなじ匂いするのです 神戸市 富永 恭子

ドドドッと売り上げ落ちるネオン街 弘前市 福士 慕情

月灯り自分の影にはつとす 尼崎市 藤田 雪菜

ブライドを捨てた数だけ丸くなり 富田林市 片岡智恵子

二日目のカレーを食べて仲直り 青森県 月波 与生

ぶつとりと絆が切れるパトニミス 横浜市 菊地 政勝

影武者もたまに変身したくなる 松山市 郷田 みや

ばくち好き妻はやつぱり出て行った 大坂市 古今芭蕉子

軽石は漬け物石にならないか 八幡市 武田 悦寛

急かされていますハイタツチもハグも 佐賀県 真島久美子

逃げ足は一番負ける気がしない 松江市 石橋 芳山

一番は論外ですがビリは嫌 美作市 岡本 余光

たしかに見えた虹の輪郭だけのこる 松山市 柳田かおる

バランスを崩さぬようにリトミック 生駒市 飛永ふりこ

ジョギングもふたりの絆深くする 高槻市 初代 正彦

リズムよくお経を上げる老いふたり 美面市 酒井 紀華

見守ってあげよう殻を破るまで 大坂市 小野 雅美

情ない二人で一人前だとは 熊本市 杉野 羅天

待って待ってエほらほら私つかまえて 神戸市 みぎわはな

お互いに蒙古斑持つ仲です 三田市 堀 正和

子どもにはちゃんとヒーロー見えている 尼崎市 近兼 敦子

天災へヒト科の知恵が追いつかぬ 藤井寺市 鈴木いさお

地下茎のような絆で結ばれる 東京都 川本真理子

秋の夜独り独りで見るテレビ 池田市 太田 省三

ヘルベスへ予防注射で先手打つ 河内長野市 木見谷孝代

石けりを終えてサヨナラまた明日 男鹿市 伊藤のぶよし

目標はひとつ 私もライバルも 鳥取市 福西 茶子

脱炭素空気も旨い深呼吸 豊中市 上出 修

カラオケに行こうと友が里で待つ 防府市 坂本 加代

ちよっとした事で絆がバラバラに 枚方市 藤田 武人

結局はカネだったのか赤い糸 高槻市 松岡 篤

ワンコイン貯めてリツチな小金持ち 和歌山市 定松 宏枝

寒そうに時期を違えて咲くすみれ 羽曳野市 黒木ひとみ

ありがたい 妻が笑って付いてくる 堺市 内藤 憲彦

手話同士太い絆で助け合う 東大坂市 佐々木満作

おとつとと賽銭わすれ初詣で 大坂市 宇都満知子

3月号発表 (1月15日締切)



(平本 霧石人 画) 柳箋に2句

川柳塔鑑賞

同人吟 鈴木 いさお

— 12月号から

天国も地獄もバリアフリーです

竹村 紀の治

近頃ちよつとした段差にもよく蹴躓きよく転ける。情けない足腰だが、紀の治さんの句に随分安心しました。

分かりやすく言えば分かりにくい人

谷口 義

言い得て妙。どういう発想でこういう句が生まれるのか不思議ですが、そんな義さんの句の大ファンです。

幸せじゃないか二人で蕎麦を食う

栃尾 奏子

いつまでも仲の宜しいことで。今年の年越しそばも武ちゃんと一緒にですか、勝手にどうぞ。

オリバラを見てから弱音減りました

大内 朝子

水泳の木村、車椅子テニスの国技など勇気をいっぱい貰いました。少々足腰が不安なくらい何ですか、お若い朝子さん。

ちよつと待てばみな半額になるものを

早川 遯行

お盆過ぎの夏物、五時過ぎの生鮮食品、50%オフのラベルが貼られるまで、じつくりと待つ買物上手な遯行さん。

傷心へ父は無言で注いでくれ

米田 恭昌

注いでくれるのは無論お酒。親父と二人で飲む酒に言葉は要りません。心の中で「頑張れ」「ありがとう」。

いつか来た道で迷っている夕焼け

中原 比呂志

夕焼けを「ややけ」と読むことを俳句プレバトで知りました。いつもの道で迷うのは老いの成せる業、心配はご無用。

選ばれた後の態度も見ています

山田 葉子

平身低頭が当選した途端に威丈高。あんなまり偉そうにしていると、この次は絶対あなたに入れないぞ。

久し振りですねと主治医が笑顔で

宇都 満知子

主治医と久し振りというの満知子さんが丈夫である証し。私は月二回主治医と顔を合わせるが、いつもむつつり。

七人の侍何度観たことか

川端 一步

いい映画は何度見ても新たな感動が。私も「タイタニック」を五回、「ローマの休日」に至っては、多分八回。

難民に見える小さい頃の写真

原田 すみ子

小学校の卒業写真を見ると、みな粗末な身なりで、丸々太った子は一人もいない。正にソマリアやロヒンギャ難民のようだ。

黙食という拷問に耐えている

澤井 敏治

お喋りしながらみんなで食事するのは実に楽しい。感染を防ぐためとは言え、黙食は味気ない。それを拷問と表現する力。

朝ドラの中に青春重ねる

内藤 憲彦

戦後を舞台にした朝ドラは、記憶があるだけに懐かしい。あのころ紅顔の憲彦少年も、今は七十路をひた走る。

完璧は無理だと悟り楽になる

片山 かずお

女子レスリングの吉田沙保里さんが、リオ五輪で207連勝を拒まれたときに流した涙は、悔し涙ではなく安堵の涙とのこと。

その話ゆづりも言うてましたやろ

初代 正彦

私もよく妻に言われます。残念なことにゆうべ言うたことも、何を食べたかも覚えていないのです。嗚呼老い衰し。

年寄りが立ち年寄りに席譲る

原 洋志

優先席に座っていたら、私より年上らしい老人が前に立った。隣の若者が譲ると思いきやスマホに夢中、私が立つ羽目に。

針仕事こんな楽しいことはない

きとう こみつ

昔、繕い物は主婦の辛い仕事だった。今では女性の針仕事の姿を殆ど見ない。趣味としてみれば楽しいという事か。

寝たきりも数に入って長寿国

米澤 俣子

達者でいてこそその長寿の有難味。百歳以上が近々十万人を超えるだろうが、その内寝たきりの人が何人いるのだろうか。

止まったらリズムを崩すから歩く

藤田 雪菜

箱根駅伝のランナーが踏切りで止められて足踏みしながら開くの待つ場面を見たことがある。リズム維持のためだろう。

リハビリの汗に復帰の夢がある

谷口 修平

辛く苦しいリハビリも、復帰の夢があるからこそ耐えられる。その時流した汗は決して君を裏切らない。

郵便局大忙しの月曜日

堀 正和

土曜日の配達が無くなって、誌上句会中心の川柳会は大いに迷惑している。月曜日の忙しさは、郵便局だけじゃない。

ラーメンのスープ残せと愛が言う

藤井 智史

ラーメンやうどんを食べる時、いつも妻から口うるさく言われる。そうか、あれはうるさいのではなく、愛だったのか。

順不同だけピトツプはおえら方

平田 実男

当り障りのない様、一応順不同となっているが、よく見るとやっぱり市長さんが一番、助役が二番。

夢に出て来るのは死んだ人ばかり

加藤 茶人

長生きをするということは、その分多くの人を見送るということ。夢に死んだ人が出るのも茶人さんが長生きということ。

腐葉土の中はこんなにあなたがい

倉益 一瑠

推肥の中の温度は時に60度を越すという。あたたかい内はいいのだが、暮々も油断してやけどをされませんように。

かわいい双子のパンダ名が決まる

中原 章子

双子の名前は「暁暁」と「蕃蕃」。夭折の川柳作家鶴彬の「暁を抱いて病みにある蕃」の一句が、ふと脳裡をよぎる。

廃線のこころの音が聞こえそう

斉尾 くにこ

廃線を歩くと、かつて繁栄していた頃の賑わいが偲ばれる。聴こえそうなのは行き交った人々の声か、錆びた線路の音が。

ずぶぬれてそれでも笑うことにする

岸 桂子

やせ我慢ではないのです。思いがけぬ俄か雨ですぶぬれになった姿をいたら惨めになるだけ、だから笑っているのです。

水煙抄鑑賞

—12月号から

宇都 満知子

秋晴れが連れて来たんだ思考力

北山 まみどり

晴れの日は気圧も高く心身も快調、暑さから解放され思考力もまた快調です。

グループに分けて先生にも手抜き

花岡 順子

忙しい年の瀬、先生にも手抜きをした印刷の年賀状を出す事に、添え書きで思いや個性がきつと届きます。

敬老の日握りの上を一人膳

若年 幸子

上にぎりで敬老の日を祝う。気兼ね無く一人も楽し、自分への褒美です。私は料理を作らなくてもいい日が有り難い。

笑っているだろうか自撮りした笑顔

月波 与生

作り笑顔だと、自分が一番知っているはずなのに気になってしまうのです。

心臓のメッキはメタリックピンク

まつもともとこ

メタリックピンクに惹かれました。メッキだつて心臓もマニキュアも派手にして颯爽と歩きたい冬の街です。

家事の合間に指を折る厨椅子

村上 和子

目が離せない煮物の時など、私も台所の椅子に座つてあれやこれやと思ひ巡らせる時も……。主婦ならではの一句。

守衛室月見しながらする夜警

東 定生

仕事をしながら見上げた月に癒される。満月に出会つた時は誰かに知らせたくなく。「見て見てお月様きれいよ」つて。

玉手箱開けたかマスク取つた顔

坂本 星雨

マスクをしたままでの会話、マスクを取つた顔も見てみたいと思つてしまう。その時はきつと優しい笑顔で。

少しずつ少しずつ小走りの日

米田 利恵子

私も実感しています。忙しくは無いのに一日一日が早い。残りの時間に漫然と思いを馳せたりしてしまうのです。

お喋りをしながら回る洗濯機

川本 美津子

たしかにお喋りをしているように聞こえてきます。夏は薄物で軽やかにソブラノで、冬は厚物が多いのでアルトかテノール、でしょうか。

食欲がどんどん増していく不安

山野 すみれ

同じ思いをしています。好きな物や美味しい物はカロリーが高い。でも心の中では意識しているので、体重の変化は少なくて済んでいるのかも知れない。

納得はしない免許の顔写真

郷田 みや

正面を向き歯は見せないでパシャ。先日息子に顔写真を撮ってもらう機会があったのですが、納得がいかずもう一枚もう一枚に、何枚撮つてもいっしょやですつて。

写真整理美人だつたと驚いた

穂口 正子

みんな若かったなあとしみじみ、今よりうんと美人だつたし美男子だつた。写真整理はひとまず置いて、美人だつた昔に浸るのも楽しい。

数字を詠み込む

水野黒兎

分厘貫斤両間丈尺す、

ふん、りん、かん、きん、りょう、けん、
じょう、しゃく、すん。陶磁器業界の符牒
で順に1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8,
9を表します。ゼロは〇で、まると発音。
両〇は50円です。厘厘はりんならと発音
して22円です。つまり数字の業界暗号と
いうわけです。多くの業界でそれぞれ独自の
符牒があるようです。以上は無駄話。
川柳に於いて数字を詠み込むことは普通
のことで多くの例があります。

寝転べば疊一帖ふさぐのみ 路郎
二日酔いする程飲めぬ老いを知り 生々庵
三ヶ日ホーム炬燵の酒仙かな 葉
ああ五十妻が悔る子が叛く 薫風
二十一世紀を囓る歯を磨く 天笑
師を囲むみんな十五の春になる 蘭幸
令和三年一月から最近までの川柳塔誌を
ざっと調べただけでも数字を詠み込んだ句
を多く拾い出すことができます。

一日を診察券が振り回す

足して二で割ってつまりらぬ妥協案

三姉妹集まり父のはしゃぐ杖

時節柄、三密を詠んだ句も多くあります。

句会再開三つの密を守りつつ

三密を避けて淋しい初詣

ところで3月3日と5月5日と7月7日

は年によって曜日異なりますが同じ年の

間は、すべて同じ曜日になります。

例えば令和4年ならすべて木曜日です。

不思議です。本題へもどります。

「どなた様」と夫に言いたい四月バカ

点滴5回ポトンポトンと心にも

腹が立つ六つ数えてここ我慢

七厘の上でツイスト干し鰯

八回目よくぞ歩いた年女

九本が嫉妬左の葉指

山の道あと十分に騙される

不思議な曜日の話の続きです。

4月4日、6月6日、8月8日、10月

10日、12月12日もすべて同じ曜日な

のです。令和4年ではみな月曜日です。

本題に戻り十以上の数字の句を集めます。

二十年経っても徐行事故現場

妻に拉致されて六十年経った

和子

和美恵子

敦子

哲子

千代

八千代

由美

すみ子

茶人

回春子

（後）美恵子

黒兎

桃花

喜寿八十路会話は粥の湯気の中

八十歳の涙八十歳の指で拭く

まだ八十もう八十どちらもわたし

自画自賛九十五歳の祝箸

犬掻ぎで100を目指している米寿

百態のしぐさ人っておもしろい

千年の巨木といしい里の寺

藍葉染千年前の人を恋う

シニア万歳1100円の映画館

図書館で一六五〇冊は僕の勲章

あと五日明日を目指して生きようか

またまた脱線します。

（柿）和夫

瑠美子

紀子

志華子

実男

和郎

志津子

小雪

霜石

善輔

勝弘

142857にそれぞれ2, 3, 4, 5

6を掛けてみてください。そして出た答を

じっくりと比べてみてください。ほら不思議

な現象に気づかれたと思います。

そして今度は7を掛けてみてください。あ

ららの答になります。

また本題に戻って大きな数字の句を集め

ます。

国民を十万円で黙らせる

百万回言っても飽きぬアリガトウ

そして最も大きな数を詠み込んだのは

フードロス処理にかかるは二兆円

そして最も景気の良い句を詠んだのは

ハルカスから諭吉千枚飛ばす夢

遡行

茶子

淳

直樹

二〇二一年（令和三年）

十一月本社誌上旬会

投句者213人

兼題「ペース」

西田美恵子 選

併走の妻はペースをくずさない

宮城 木田比呂朗

女房のペースで回る夫婦ゴマ

大阪 廣田 和織

七合目ぼちぼちやるかマイペース

大阪 今井万紗子

マイペースはくはいつでもマイペース

青森 稲見 則彦

B型乙女座奥様はマイペース

大阪 鈴木いさお

B面に入りペースをやや落とし

大阪 高杉 力

退職後時計外してマイペース

兵庫 斎藤 隆浩

マイペースで生きて八十路のスクワット

大阪 松尾美智代

退職後妻のペースに慣らされる

大阪 佐々木満作

マイペース守り他人を気にしない

大阪 村上 玄也

二人には二人のペース冬支度

兵庫 奥澤洋次郎

温暖化予想以上に加速する

大阪 きとうこみつ

日時計のリズムで大らかに暮らす

奈良 菱木 誠

マイペース世のざわめきに動じない

大阪 吉村久仁雄

母さんは母さんなりの大晦日

兵庫 稲角 優子

ペースさえ守っておれば勝てたのに

大阪 伏見 雅明

コロナ禍でスローペースになりました

兵庫 能勢 利子

そろそろと自分見直すマイペース

奈良 飛永ふりこ

臥す母のペースに歩み寄る介護

大阪 平井美智子

人生のペースを決めた 志

熊本 杉野 羅天

歩み行く時折背中押されつつ

大阪 松田蟻日路

マイペースがいい歩くにも生きるにも

大阪 横山 里子

ワクチンのペースへ明かりまず安堵

岡山 古山はつ子

ペースダウン動作の度に気づかされ

大阪 藤原 大子

三日に一句わたくしなりのアンダンテ

岡山 工藤千代子

ライフスタイル他人なんかと比べない

大阪 小野 雅美

駆け抜けた日々終え今は深呼吸吸

大阪 山野 双葉

起きたい時に起き寝たい時に寝る

和歌山 三宅 保州

順調に老いるわたしの処世術

広島 小川 道子

コロナ禍よ生きにくくなるマイペース

和歌山 柏原 夕胡

のんびりと里の軽トラマイペース

広島 松尾 信彦

鉛筆を握ると調子良いペース

秋風がそっと諫めたマイペース

風説を軽くいなしてマイペース

飄々と生きております百二歳

自転するペースで息をしています

最後には追い抜く自信マイペース

衣更えのペースを乱す温暖化

年金の歩幅で余生渡り切る

忠敬ただかの遥かを踏んでいく歩幅

適量のペースが狂うコロナ鬱

シロクマのペースを人類が乱す

終章はペース落として風のまま

眠いとき気ままに寝れている余生

通勤は7時5分の一両目

猪突猛進そんな時代もあったなあ

晴耕 雨読昼寝半刻マイペース

遊び玉投げて相手のペース知る

私にはわたしのペース花は咲く

それでいい答えはいつもマイペース

兵庫 上野多恵子

広島 田辺与志魚

愛媛 黒田 茂代

兵庫 生田 頼夫

鳥取 牧野 芳光

兵庫 萩原 狸月

鳥取 岸本 宏章

兵庫 穂谷 和郎

奈良 居谷真理子

徳島 小畑 定弘

広島 笹重 耕三

兵庫 みぎわはな

大阪 藤村 亜成

奈良 長谷川崇明

山口 上村 夢香

大阪 油谷 克己

大阪 山口弘委智

兵庫 吉村めぐみ

愛知 富田 末男

ゆっくりのペースを笑うリニアカー

秋風のペースでページ捲られる

佳句

おじいさんはちびりちびりでいいのです

あわてたらアカンこけたらアカンから

いいペース老いの日々にも花は咲く

運命の出逢いで恋はハイペース

ゆっくりと僕に合わせる影法師

人

丸くなりゆるいペースに慣れてきた

地

蓼を食うペースと臍を噬むテンポ

天

おはようと言えばご飯が炊きあがる

軸

アメリカのペースで日本動かさる

愛媛 栗田 忠士

鳥取 新家 完司

兵庫 山田 耕治

兵庫 上田ひとみ

大阪 原田すみ子

和歌山 木本 朱夏

兵庫 敏森 廣光

山口 坂本 加代

鳥取 斉尾くにこ

青森 高瀬 霜石

兼題「木製品」

矢倉 五月 選

割りばしは仲を裂かれて捨てられて

兵庫 村松 久江

こだわった木製の家高く付く
 夫吊った棚には物を載せられず
 自肅中おひとり様の輪っば鮎
 亡母さんの匂いの残るつげの櫛
 築40ウチは鶯張りですの
 割り箸がスパツと割れて湧く不安
 洋風化 和ダンス肩身狭くなり
 あら彫りの木仏の顔に深い慈悲
 生命の同類なんです木製品
 木琴の調べに木霊ハモリ出す
 木のドアの向こうに風の休憩所
 雑踏に染まったふる里のこけし
 屋久杉の机と故郷語り合う
 新しい積木を積んで母になる
 異邦人ホームステイに松風呂
 三日目の箸の重さよおでん鍋
 将来を木馬の騎手に期待する
 廃校に残る木の椅子木の机
 五重の塔千年支える心柱

大阪 江島谷勝弘
 兵庫 みぎわはな
 兵庫 生田えい子
 奈良 大内 朝子
 奈良 大久保真澄
 大阪 島田 明美
 大阪 村上 玄也
 大阪 廣田 和織
 鳥取 池澤 大鯨
 兵庫 清水久美子
 奈良 居谷真理子
 広島 笹重 耕三
 大阪 西出 楓楽
 大阪 田中ゆみ子
 広島 松尾 信彦
 大阪 原田すみ子
 岡山 藤井 智史
 大阪 片山かずお
 奈良 饗庭 風鈴

終活に大満足のミカン箱
 木を超えたプラが自然を汚してる
 組板の凹みそれぞれ嫁姑
 木工が好きなの手暖かい
 木魚ぼこぼこ笑顔の遺影バカヤロー
 わたくしのルーツが眠る桐の箱
 年輪の見えるお椀があたたかい
 共に育ち共に老いた木の机
 俺は古稀亡母の箆筒は白寿です
 木製の箱でお菓子も格上げる
 亡夫の名木の表札に生きている
 敗戦後食卓だったリング箱
 化石になった愛がころんと本箱に
 マンションを和風に変える木の温み
 木製の玩具過去形呼び戻す
 薄利多売優等生は爪楊枝
 桐箆筒母抱いたまま部屋の隅
 押し入れに菌形手形のある積木
 滑らかな木肌は時間を映し込み

鳥取 吉田孔美子
 鳥根 梅瀬みちを
 大阪 山野 寿之
 奈良 加藤江里子
 青森 高瀬 霜石
 和歌山 木本 朱夏
 鳥取 新家 完司
 東京 川本真理子
 大阪 松田蟻日路
 大阪 奥村 五月
 大阪 中村 恵
 大阪 川本 信子
 山口 中前 幸子
 和歌山 石田 隆彦
 愛知 富田 末男
 鳥取 岸本 宏章
 鳥取 大前 安子
 大阪 藤田 武人
 大阪 岡本 悠

手作りの巢箱に孵る四十雀

俎板のへこみは女三代記

木のカウンターお客の愚痴が染み込んで

生垣のグラデーションで知る季節

古希祝う使い古した夫婦箸

とまり木に愚痴と涙の忘れもの

政権交代ビノキオの鼻伸びたまま

弁当についてる箸も味のうち

デジタル派投句はやはり鉛筆で

催眠術のように木魚の4拍子

枕木の車両支える使命感

へその緒の木箱をそつと嫁ぐ日に

木簡に覚悟がにじむ辞世の句

佳句

木の香り松の猪口の旨い酒

岡持ちをリュックに替える出前持ち

卓袱台に無口で座る箸二膳

割り箸の夜食に温い思い遣り

にゆうめんを御馳走にした輪島塗

大阪 澤井 敏治

大阪 岡田 恵子

大阪 松岡 篤

奈良 稲葉 良岩

大阪 東 敬朗

鳥取 斉尾くにこ

大阪 高杉 力

奈良 高橋 敬子

大阪 太田扶美代

愛媛 西田美恵子

大阪 上山 堅坊

兵庫 近兼 敦子

大阪 内田志津子

奈良 米田 恭昌

兵庫 永田 紀恵

大阪 伊達 郁夫

宮城 木田比呂朗

大阪 石田 孝純

人

法隆寺みずほの国の木の遺産

地

天才に正座をさせる将棋盤

天

木の匙の温みで重湯から粥に

軸

木箱入りちよつとくすぐる虚栄心

兼題「攻める」

盤上にせめぎ合う音天を衝く

正論で攻めるが退路も作ってる

攻撃はわたしが「と金」になってから

チビリチビリ陽気な睡魔攻めてくる

攻める妻守る吾が口マナーモード

言い勝った私を攻める夕陽の朱

真つ正面攻めると意外にも脆い

幼子になんでなんでと攻められる

前禪まえぜんを取れば攻め業冴えてくる

大阪 古今堂蕉子

兵庫 岸田 万彩

奈良 板垣 孝志

藤村 亜成 選

石川 堀本のりひろ

兵庫 野口真桜子

青森 稲見 則彦

大阪 石田 孝純

和歌山 石田 隆彦

大阪 内田志津子

大阪 太田扶美代

兵庫 岸田 万彩

岡山 大杉 敏夫

人生訓負けるが勝ちで生きている

大阪 江島谷勝弘

争いを好かぬを承知攻めてくる

鳥取 池澤 大鯨

攻め急ぐ時の隙間を狙われる

愛媛 栗田 忠士

禁じ手で攻め横綱の座を穢す

京都 清水 英旺

攻めてくる老いをなだめるストレッチ

大阪 宇都満知子

諦めぬ五感も爪も磨いてる

兵庫 緒方美津子

マイナンバー闇の世界を攻め立てろ

大阪 上山 堅坊

締め切りを夕陽まっ赤に攻め立てる

兵庫 梶谷 和郎

だんまりの妻の背中に音をあげる

奈良 菱木 誠

砂漠化に攻められていく温暖化

鳥取 牧野 芳光

老妻のプチっと切れる音がした

大阪 穂口 正子

攻められて我が身のいたらなさを知る

兵庫 山内 迪

攻められて開き直った第二幕

兵庫 横田 次郎

本気で攻めたからか罪悪感襲う

京都 藤井 文代

攻めにくさ互いに感じ眺み合い

大阪 原田すみ子

捻じ込んで捻じ込んで来る執拗に

兵庫 上田ひとみ

攻めるだけ攻めて涙溢れ出す

大阪 小野 雅美

攻めは易く力合わせること難し

奈良 山下 純子

攻め込むと上手に逃げる草書体

大阪 原 洋志

好きですかいエスかノーでお返事を

大阪 栃尾 奏子

多数派が数を頼んで攻めてくる

和歌山 木本 朱夏

攻めるのも攻められるのも紙一重

兵庫 生田 頼夫

四球攻めタイトル取れぬホームラン

山口 坂本 加代

ニコニコと僕の弱点突いてくる

青森 福士 慕情

攻めるより論す言葉の方が効く

愛媛 黒田 茂代

守るもの何かからず攻めている

大阪 今村 和男

攻めているうちは表に出ぬ弱み

大阪 村上 玄也

弱点を攻めて容赦のないトライ

兵庫 萩原 狸月

プライドをくすぐる攻めに弱い夫

兵庫 米田利恵子

古傷を攻めるかさぶた剥ぐように

兵庫 富永 恭子

九条に近づいてゆく導火線

大阪 横山 里子

傘寿すぎ攻めることなどない

愛媛 西田美恵子

皇位論一途な恋を攻めあぐむ

大阪 増原 文字

攻めた後私を責める影法師

兵庫 吉村めぐみ

つま先から冬将軍が攻め寄せる

鳥根 伊藤 寿美

綻びを見つけ噂の弾放つ

大阪 川本 信子

逆風を突いて攻めよと神の声

大阪 初代 正彦

ふくらんだ境界線を攻め続け

鳥取 吉田孔美子

堅物を少しピンクで攻めてみる

宮城 木田比呂朗

余命知りひつじ夜ごとに攻めてくる

大阪 澤井 敏治

境界線を戦車のように攻める鳶

岡山 藤澤 照代

佳句

呑み込んだ嘘が鳩尾攻めてくる

大阪 西出 楓楽

ゆっくりと攻めれば青い実も熟れる

岡山 古山はつ子

鋭角の風が自惚れ攻めてくる

大阪 中村 恵

持ち駒でこれから攻める古希の盤

大阪 岡本 悠

弱点は攻めない無二の好敵手

兵庫 瀬島流れ星

人

攻めてくる老いに一献進ぜよう

奈良 居谷真理子

晩秋の夕日わたしの城攻める

山口 中前 幸子

天

哀しみが靴の底から攻めてくる

兵庫 稲角 優子

軸

攻められる不安エスカレートする軍備

ピフォアアフター代り映え無いダイエツト

兵庫 幸田 厚子

兼題「前」

板垣 孝志 選

生れ落ちしつかり前を見る仔馬

青森 福士 慕情

前妻の長所を思う秋夜長

兵庫 横田 次郎

前よりも後ろに落ちてているヒント

大阪 山岡富美子

以前なら簡単だった糸通し

大阪 伏見 雅明

小洒落てるシナモン前はニッキ水

鳥取 斉尾くにこ

前世は妖精だったはずなのに

和歌山 柏原 夕胡

食べる前箸より先に持つスマホ

大阪 今村 和男

男前と言われ散財してしまふ

佐賀 坂本 蜂朗

目の前に妻の顔あり角もあり

大阪 西村 哲夫

好奇心一步前へと出て座る

宮崎 恵利 菊江

テレビの前に座ると眠くなるドラマ

大阪 松尾美智代

真打ちを目指す前座の心意気

大阪 丹後屋 肇

オシドロのごっこしている人の前

宮崎 黒木 栄子

前向きに考えますと誤魔化され

奈良 加藤江里子

前例が前向き案を通せんば

大阪 松岡 篤

えらい違い結婚前と結婚後

兵庫 太田としお

似て非なる整形前の顔写真

コンビニの棚は前から取って欲し

ある意味で印象深い前総理

前向きな意見青いと論される

何故見えぬ目の前に有る捜し物

コロナ禍に揉まれもまれた前総理

発火する少し手前で一呼吸

門の前駆ける枯葉の休憩所

粒よりのマクラを振って座が和む

輪に入る前に心のギアチェンジ

ボロとアラ出る前までは威張ってた

笑うのはよそう前歯が入るまで

生き下手が物の弾みで前に出る

前と元どちらも選びたくはなし

前置きの真ん中辺でする思案

遅刻して一番前が空いています

孫からのLINEは何時も前後略

憧れの君の前では口下手で

前の駅を発車したよとご親切

大阪 澤井 敏治

神奈川 加藤 佳子

大阪 きとうこみつ

兵庫 山崎 武彦

大阪 松田 蟻日路

奈良 大内 朝子

大阪 今井 万紗子

奈良 高橋 敬子

奈良 菱木 誠

奈良 稲葉 良岩

兵庫 清水 久美子

大阪 島田 明美

兵庫 生田 頼夫

大阪 山野 双葉

大阪 中村 恵

兵庫 山田 耕治

兵庫 松倉 正美

兵庫 近兼 敦子

鳥取 岸本 宏章

やらせと違うかビフォーアフター

人生は短い 説教は長い

リバウンド始まる前に忘年会

ちよい悪の前科紛いに残る悔い

神仏の前で誓った嘘がある

気づかない所に前任の匂い

結論へ上座の前例が絡む

いやな予感だ前置きが長すぎる

前もって知りたい椅子か座敷席

剥く前のリングに産地聞いてやる

目の前の火種を酒で消しておく

新居プラン生前贈与騒げる

前倒しするからいつも火の車

寝る前にひとつ自分を誉めて記す

前向きな話へ動く朝の耳

前を向く尻尾の向きを確かめて

佳句

差し当たりライバルとなる前任者

待つてました繁昌亭のかぶりつき

大阪 鈴木いさお

青森 高瀬 霜石

兵庫 斎藤 隆浩

大阪 山野 寿之

大阪 石田 孝純

大阪 藤田 武人

広島 笹重 耕三

大阪 宇都満知子

大阪 齋藤奈津子

兵庫 村松 久江

広島 松尾 信彦

大阪 川本 信子

兵庫 吉村めぐみ

大阪 田中ゆみ子

兵庫 藤田 雪菜

兵庫 糀谷 和郎

兵庫 岸田 万彩

兵庫 緒方美津子

お地藏の前は素通りできぬ母
燃え尽きた趣味の抜け殻棚にある
前生は紫陽花でした雨おんな

人

以前より無口手強くなってきた

地

津波前津波のあと青い海

天

淋しい方の足をすこうし前へ出す

軸

前世は海鼠で少し偏屈で

兼題「住所 又は 場所」

新家 完司 選

一丁目一番地まず皿洗い

五十階鳥の世界に居を構え

親友の新居天国ゼロ番地

ツバメ来たる今年も住所間違えず

ストープの場所に居座る扇風機

タクシーへメモで伝える酔っ払い

大阪 廣田 和織

山口 坂本 加代

大阪 美馬りゆうこ

兵庫 上野多恵子

兵庫 北野 哲男

大阪 平井美智子

大阪 西出 楓楽

大阪 原 洋志

京都 清水 英旺

大阪 松田蟻日路

大阪 今村 和男

愛知 小松くみ子

見晴らしに惚れ住んでいる坂の上

おばちゃんも芦屋に住めばマダムなり

お見逸れしました芦屋住まいですか

住所からどんな家かもググられる

グーグルであなたの家を探し出す

グーグルでベッドを探す救急車

怪しげな住所不定のおんな文字

義母の字で送られてくる冬野菜

ツバメとは同じ住所に暮らしてる

白地図にやがて芽が出る新住所

米野菜すくすく育つ現住所

転居先不明かすぶ濡れの封書

転居先不明のままのちぎれ雲

新住所様方が付き子と同居

どこで調べたのかDMの住所

大山を正面に見る良い住まい

住み慣れてこの不自由な町が好き

荒ら家ですが終の住み家にする田舎

がん病棟ここは現の一丁目
フラフラと住所不定になる心

大阪 片山かずお

奈良 高橋 敬子

大阪 江島谷勝弘

兵庫 羽奈 和子

奈良 木嶋 盛隆

大阪 美馬りゆうこ

奈良 菱木 誠

兵庫 近兼 敦子

大阪 廣田 和織

兵庫 稲角 優子

兵庫 瀬島流れ星

兵庫 上野多恵子

広島 田辺与志魚

兵庫 萩原 狸月

大阪 村上 玄也

鳥取 伊塚ま枝子

大阪 太田扶美代

広島 笹重 耕三
大阪 島田 明美
岡山 藤井 智史

道具屋筋消えて平たい名に変わる

でたらめの住所知らされ終わる恋

寅さんの住所はつねに葛飾区

出生地ここだと告げる蟬のカラ

ウォーキング住所氏名をぶら下げて

目印の角のコンビニ店じまい

地球ではホンの僅かな地で採める

病院は仮の住所だ長居せぬ

ウサギ小屋住所はあるがない居場所

夜逃げした奴の住所は教えない

タワマンに入っていったランドセル

本箱は先祖の墓のある辺り

本籍を後生大事に持ち歩く

住所氏名ムーミン村のママと書く

マンションが建つても字が付く住所

大空の真ん真ん中が現住所

わが住所平野長泰五千石

本籍は沢田島の留別村

大丈夫ちゃんと手紙は届いている

現住所は忘れていない千鳥足

兵庫 野口真桜子

大阪 岡田 恵子

大阪 伏見 雅明

大阪 増原 文字

大阪 内藤 憲彦

宮城 木田比呂朗

大阪 藤村 亜成

大阪 松岡 篤

大阪 澤井 敏治

青森 高瀬 霜石

奈良 居谷真理子

奈良 板垣 孝志

山口 坂本 加代

鳥取 斉尾くにこ

兵庫 山田 耕治

大阪 平井美智子

奈良 中堀 優

大阪 吉村久仁雄

兵庫 緒方美津子

鳥根 中筋 弘充

住所氏名生年月日みな言える

四十年住んで今でもニュータウン

枝豆もお米も旨いここ三田

家主不在ただ秋桜は揺れるだけ

住所訊かれたのに何も届かない

蜘蛛も巣に葉の表札を掛けている

佳句

宛名書き時間のかかる京の町

ふらふらと出かける人に迷子札

字「オノ神」いまだ賢い子が出ない

神様にしばらく借りている住所

現在は皇居の裏に住んでいます

人

アフガンに住むにはヒゲが薄すぎる

地

永住を希望あなたの腕の中

天

大字小字ヤモリも共に棲むところ

軸

崇徳院二丁目という裏長屋

鳥取 宮田 風露

奈良 長谷川 崇明

兵庫 上田ひとみ

山口 上村 夢香

兵庫 中岡千代美

大阪 石田 孝純

大阪 太田 省三

大阪 藤原 大子

兵庫 山端なつみ

鳥取 牧野 芳光

兵庫 生田 頼夫

兵庫 岸田 万彩

大阪 栃尾 奏子

奈良 安土 理恵

冬心集

毎月24日締切・35句以内厳守
掲載は原稿到着順となりまし
掲書で誤字のないようお願い
いたします。
編集部

大山滝句座(鳥取)

新家 完司報

ちよつとした冒険妻の手を握る
勉強のし過ぎか髪が抜けて行く
楽楽と仏さまには成れませぬ
無事だけと誇りを捨てた檻の虎
失敗を肥やしに空の青さ知る
しっかりと予習復習競馬場
日本刀みたいな人に喧嘩売る
退屈と背中合わせのしあわせと
近くまでの無事を描いて今日は寝る
ぼつぼつと石に言葉を教え出す
たん瘤が出来て学んだ治し方
大往生永六輔さんに学ぶ
「冒険心」刺激サハラに星が降る
難しい数学使うことがない

正人 八千代
ゆたか 石花菜
みちを
紀の治 八千代
芳山 くにこ
余光 小鹿
楓花 雄大
照彦 幸子

海賊と一緒マゼラン・コロンブル
一足す一が三に冒険のはじまり
通過するチェックポイント駆け抜けた
迷ったらともかくにもやってみる
お隣は無事かチワワが鳴いている
土竜から学ぶ大地のありがたさ
毎日を平穩無事で暮らす老い
忙しい時に限って赤信号
バス吊革掴んでくれる手待つている
失敗のバズルクイズで猛勉強
生きていく術は勉強したつもり
勉強をたくさんしたのが平社員
免許返納夫は自転車仮免許
虫の音に歩調を合わせ散歩道
他人事じゃない逆走をした話

和歌山三幸川柳会

西川 千鶴報

意識して筋肉使う拭き掃除
ブルースに泣きジャズに浮かれた終戦時
祭壇の写真あれこれ捜してる
健康も大事お金もまた大事
すり切れたページに似合うセレナーデ
のんびりと暮らし忘れた医者通い
身を飾る前に男を磨きたい
孫守りのばあばが歌うシューベルト

芳光 寿代
順子 富隆
美ツ千 麦青
由紀子 風露
けいこ 清明
希楽良 久子
コスモス 規雄
完司 完司

結末を知ったうちわが寝てしまふ
鼻歌の妻におねだりする銚子
青春を謳歌した日はもうおぼろ
平等に加齢怯えることはいないので
世界地図染めるこの世の鎮魂歌
生きている証の今を飾らねば
この先もこつこつ編んでゆくひと日
思い出をギョッと詰め込む頭陀袋
疑問符は明日へ飛躍の糧となる
頂点に立てば後ろが気に掛かる
今日という舞台を飾るのはあなた
コロナ禍に医師達へ増す応援歌
ほめ言葉で飾る上手な友がいる
病得て初めて悟る生きる価値
口の中健康らしいよく喋る
心の健康句帳が増えていく
健康な内にと巡る朱印帳
暖色をプラスしてから回りだす
万葉歌ロマン求めてひとり旅
もの忘れ進んだ妻は歌が好き
リハビリに治す本気度試される
弾き歌い独りの気持ち和らげる
納得の出来る主治医が居て達者
コロナ禍で知る健康のありがたさ
花一輪飾りのまま無人駅

智三 昇 碧
理恵 純子
ひろ子 八重子
和子 和子
富香 保州
敏照 美枝子
彦弘 義泰
あき子 明子
知香 眞智子
悦男 和美
よしこ 幸子
夢子 幸子
みち子

鼻歌をまじえて登る老いの坂
野の花の冠挿頭す六地藏

川柳塔打吹(鳥取)

齊尾くにこ報

老いてから接す笑顔に明日が来る
孫たちのしぐさ可愛い泣き笑い
笑う顔作れば脳も喜ぶぞ
老いたけど笑い生きたい逝く日まで
夫婦だけ笑い忘れて五十年
みどり児が笑った泣いたと大さわぎ
大声で笑えば軽くなる重荷
「まあまあ」という第三者の声を待つ
パチンコはまあまあの時止められぬ
まあまあとなだめる時は酒が要る
七割でよしとしてみる鳥の目で
肩の荷を軽くゆつくり行く余生
軽自動車これは便利と扱き使う
コロナ禍で手葬葬儀に市民権
軽口で言ったはずだに誤解され
紙コップ軽い約束してしまふ
輕輕と天国地獄には行けぬ
昼寝して重たい頭軽くする
瓢箪が棚でぶらんこしてござる
少年の書棚大人の匂いさす
本棚の一部に猫を扶養する

康則 千鶴

恭子 久芽代 陽之助 悦子 紀美恵 美知江 龍枝 大鯰 義人 芳光 紀子 芳江 清 滋 貴恵 美ツ千 石花菜 照彦 重忠 余光

本棚に鈍感力を磨かれる
DIYで作った棚がすぐ落ちた
本棚に当選を待つ宝くじ
本棚に負けず神柳塵だらけ
生き様を棚のこけしに笑われた
本箱の本が静かに朽ちている
天には遠く没にはおしいラブレター

川柳塔みちのく(青森) 稲見 則彦報

いい男少し痺れる程の毒
三猿になれず毒舌出そうな日
母ちゃんに毒を盛ってはいけません
本当の毒はヤツパリお前だな
なにも無いけど毒舌は練って往く
キンチョール天使のような顔の毒
毒キノコも人を持ってる秋の山
謙遜自慢もすぎると毒になる
パンケーキ一年だけの毒見役
彼岸花美の裏腹に根には毒
毒のないあなたはなんてつまらない
毒きこの見分けがつかぬ美しさ
良薬も限度超えれば毒ですよ
腕力に自信ないので毒がある
この俺を料理するかとフグが言う
晩酌の膳に毒舌ちよっと添え

重利 玲坊 紀の治 三津子 節子 完司 くにこ 隆樹 初枝 則彦 黙人 真由美 柳子 久美子 ちづ子 義明 孝子 京子 重虎 霜石 龍馬 ひろ

坂 裕之 選

紐よりも強かったのは赤い糸
回り道した娘が今はいいママに
まぐれでも勝つてかぶとの緒をしめる
長くないだけでスピーチ喜ばれ
名医にも見せはしません腫の傷
目くじらを立てると皺が増えますよ
飛び越えた後で気が付く深い溝
ビールつぐ話の続き聞きたくて
なぜだろう夕暮れ時に元氣湧く
よくしゃべる人だホントは寂しがり

佳句地十選

(12月号から)

齊尾 くにこ 選

栄光の過去が時々しゃしゃり出る
地球儀を回せば戦争と平和
幽霊はビタミンDが皆不足
満月を片手で拝み雨戸引く
サブリサブリメントだテレビジョン
CO2で炭坑節が歌えない
少女期を夜のプールで脱衣中
目の前で電車のドアが閉まったの
へそくりは聖書で神が守ってる
さあどつぞお風呂のような我家です

昭紀 瑠美子 東風 北哲男 こみつ (入)修平 美智子 恭子 (俗)修平 かこ

毒舌を吐く夫婦喧嘩の始球式
毒舌を瞬時に見抜く閻魔さま
毒舌が今も健在九十才

毒舌を煽るテレビの視聴率
消毒と称し今宵も酒とろり
私って毒にも薬にもなれぬ

松茸の側で毒へど辯巻く
準備万端辛い寒波を迎え撃つ
ベッドメーカーキング布団を敷いただけですが

予報の中野良の疲れに骨休め
3密を避けて花野に包まれる
生ゴミを出せる幸せだつてある

白黒を決めかね軍手差し伸べる
わかやま吟社
小谷

マスクなく名湯めぐりいつ出来る
五七五泉の如くとはいかぬ
人生はハードなうちが花です

歳のせいかわハードな試練続いでる
優しさの泉涸れたか怒ってる
定見を持たぬ私が流される

主婦業に介護子育てハードです
定めても守らない人多いこと
ハードすぎても委縮する子の蝶

毎日が変わらないのが定めたこと
選挙戦のみがハードな永田町

一 呑

風来坊

和香子

吹喜

呑舟

小雪報

節子

ふりこ

夕胡

日出男

神倉の石段とてもハードです
働き蜂生きた昭和のハードな日
容赦なく源泉徴収をされる

老いてなお定位置に座し指図する
コロナ禍で掛持ちしてるアルバイト
ハードな日くぐり抜けると海見える

澄み切った泉ころろの中にある
定めても思いどおりにかぬ夢
朝霧の泉に過去を沈めてる

中心に狙い定めてアーチェリー
がん治療とてもハードな副作用
ふつふつと泉の余力試される

干からびた僕の帰宅を待つビール
照準を定めたままで錆びてくる
はびきの市民川柳会(大阪)藤原

名刺には吉永小百合と記したい
初対面名刺に会話リードされ
今は亡き夫の名刺が捨てられず

初出社名刺一箱身が締まる
紹介の名刺思ったほど効かず
名刺見て急に態度を変えはった

肩書がズラリ並んでいる名刺
手土産を名刺代りと得意先
イメージにびったり手すき和紙名刺

こみつ

こみつ

信勝

和宏

知香

晶子

敦子

紀子

光

秀夫

富美子

八茶

風を見て名刺ばらまく立候補
無冠の名刺やつと自分になりました
川柳を一句名刺の裏に書き

マスクミに話題つくらせ桜消す
ミサイルで脅す政治はもうやめよ
企みに鼻がふくらみ妻にばれ

企みがばれて背を向け舌を出す
家計簿に妻の企み隠される
企みにしくじりまして蟻地獄

企みに乗ったふりして百十番
総裁選お祭りにするメディアたち
企んだ罠に私が嵌つて

歴戦の妻の企て見破れず
イカサマをなくした自動麻雀卓
定年日大吟醸が食卓に

3Aの罠に落ちるな新総理
企みに気付いた時は蚊帳の外
南大阪川柳会

松岡

コロナ明け飲んで歌って騒ぎたい
テレビ消したらこんな静かなのだ
騒がずに祈りの深い千羽鶴

松たけが届いて少し騒がしい
綾取りの絆が騒ぐ愛と愛
騒がしさ静かに時を待っている

デーゲーム済めば相撲で又野球

フジ

理恵

専平

千鶴子

一步

久仁雄

ひとみ

まつお

扶美代

シルク

勝弘

ダン吉

宏造

冬のと

洋一

みつこ

一文

満作

勝弘

志華子

柳右子

寿之

ひさ乃

あや子

長いほど効くと思つた美人の湯

常男

無茶苦茶の上司も今は懐かしい

宣之

ライバルのフリータイムが気にかかる

和子

この総理もどうもふらふらしているぞ

昌紀

無茶言うてくれる笑っていてくれる

蘭幸

少子化を防ぐ努力のお父さん

高鷲

ふらつた公約いらぬ出来ること

直子

接種済みすぐどこでも飛んでいく

夢香

草原に薔薇一輪の自己主張

壽峰

カーナビに喧嘩売られる時がある

篤篤

無茶苦茶につないだキットが芸術

淑子

温暖化防く気もなし策もなし

一文

親は地図子はスマホ見て道探す

国和

無茶苦茶の脳内路線癒す禅

弘子

それ以上言うなど酒を足してやる

あかり

古都絵地図鹿がいっぱい描いてある

一筒

ある時のやさしさ怖さ母である

笑子

街角に丸いポストの温い鄙

かこ

温暖化地図にない島浮き上る

亜成

やさしさを昭和へ置いて来た男

栄香

古里の思い出浮かぶ夏帽子

欣之

足裏に時代歩いた父母の地図

弘子

やさしい手握りかえすと温くなる

輝恵

惚れ薬一滴垂らす愛の罟

清

喜寿過ぎて終章の地図まだおぼろ

大子

もみじの掌きつとやさしい子に育つ

千代美

草刈りは山羊の手借りてエコロジー

由夏

足幅の確かさ伊勢の日本地図

克己

苦いこと言ってくれる人大切に

比呂子

葉が落ちて梢ふるえる冬の空

文重

顔だけで選び毎日悔いている

楓楽

マスク取り空気こんな旨いととは

敬子

防人の妻は平和を詠い抜く

正義

不織布のマスクでないと駄目らしい

東風

長生きは娘から大きなプレゼント

初音

さらばフリーウエインケルが鳴り響く

隆充

人生の岐路で無難な方選ぶ

いさお

秋祭り帰って来いと亡母の声

厚子

意志曲げぬあなたの風になる覚悟

常男

選ぶよう残り福待つ年の功

敏治

レントゲン心の傷は写せない

幸子

ITでパリアフリーの世代間

章子

慣れっこで心にマスクつけている

柳伸

お月見にだんごがないと怒られた

千枝

ライバルが磨いてくれた現在地

圭

心にも怒あり秋の風通す

弘委智

上機嫌不機嫌今はどうですか

史子

反論の防風林になる正義

寿之

人出多い言いつつ私その一人

よしみ

ますかつとちかのくちよりおおきいよ

か

帽子脱ぐ雨の冷たさ知りたくて

実

ゆうやけがおれんじいろできれいだつた

か

念入りに夏をたたんで衣更え

通江

小一さや

か

竹原市川柳会(広島)

古田比呂子報

可能性へお手本見せたバラ五輪

慶子

放たれて自己責任というフリー

恵

手本見て作る料理もすぐ我流

節生

鱈粉を払い変身真人間

武人

先人の知恵を手本にして生かす

昭紀

富柳会(大阪)

山野 壽之報

ブラザ川柳(大阪)

樋口 正子報

敏に染みせめて鍛えてバックシヤン

正子

うわさ話視線感じてぎよつとする

和子

デイサービス嫁も姑のリフレッシユ

清乃

手袋に亡母の思い出編み込まれ

悦夫

スマホ塾通い通つてちんぷんかん

園子

川遊び背中押されて飛んだ夏
脚食らい蟹の甲羅に酒注ぐ
ダイケアに通い芽生えた老いの恋
えげつないのり弁幅を利かす官
エンディングノート書いても気に掛かる
山歩きなくした片手木に掛かり
嫁来たら口は挟まず目を逸らす

川柳花の輪(大阪)

川本 信子報

政夫 克三 淳司 弘光 一彌 景子 靖子
政夫 克三 淳司 弘光 一彌 景子 靖子
山海の幸が生きてる和の料理
もう愚痴も聞いてやれない妻が逝く
もう貯金やめた毎日楽しむぞ
リモートの飲み会なんてもうごめん
独り身の息子の髪がもう薄い
もういいかい自分の辛い日日を問う
よしてくれ現金給付民釣るな
パソコンめ俺がヘタやと動かない

川柳ふうもん吟社(鳥取)山下 凱柳報

蟹郎 美恵子 勲章 月満 隆浩
蟹郎 美恵子 勲章 月満 隆浩
婚約をばちやくる者は誰だいや
ばちやくつて呉れる隣のおばちゃん
夫婦喧嘩犬も食わないばちやくるな
ばちやくつてみたら本音が飛び出した
ばちやくるな夫婦の絆脆いです
ばちやくる(因幡方言でませかえす)

A Iも妻の雲行き読み取れぬ
真剣に折れば必ず神の出す啓示
母の味忘れられない塩かげん
控え目が人世訓と比例する
当らない予想がすねてさわざ出す
横町のボクの知らない夕マの道
無重力体験したいおばあちゃん
事件探訪実情たずね歩く
人生は言葉一つが塩加減
生命線延ばす駆け引き塩加減

ほたる川柳同好会(大阪)水野 黒兎報

正太郎 亜成 やすの 泰子 博泉 和織 かすみ ルイ子 笑子 信子

黒兎 宏造 正子 春代 直子 契子 一弥 勝弘
黒兎 宏造 正子 春代 直子 契子 一弥 勝弘
買ってみただけのスマホに腹がたつ
松茸はどんな味かと孫が聞く
リセットのボタン私は錆びている
やすらぎか犬は鎖に馴れてくる
落日の港恋しい人ばかり
ひとまずは妻の許しがいるのです
ひとまずは妻の許しがいるのです
口ぐせはひとまずはと言いつのまんま
鳩尾をひとまずは流れだす凝り
婚活に出かけひとまずは腰下す

龍彦 宏章 鐘旭 拓治 一瑤 洋子 大
龍彦 宏章 鐘旭 拓治 一瑤 洋子 大
奥の部屋祖父の目盗み覗いた日
親知らず抜いて良いやら悪いやら
奥の手を磨き詐欺師が綱を張る
奥様の手綱で遊びよく弾む
夜長なり自然に読書したくなる
本箱に見栄を飾って偉人伝
活字ならむさぼり読んだ若い日々
自粛解け驚く程の本の山
読書する時々漢字飛ばしつつ
一冊の本に私は救われた
読みかけの本に挟んでいるロマン
枯れぬように心に水をやる読書
ばちやくつてやると密かにツメを研ぐ

好き嫌い治してくれた妻の味
おふくろの田舎料理というジャンル
朝昼を抜いては挑むバイキング
庭のすだち高値の秋刀魚待ち焦がれ

順子 純子 則彦 奈津子
順子 純子 則彦 奈津子
蛙鳴 利昭
蛙鳴 利昭

名月を夜中に起きて仰ぎみる
生きてれば何か良いこと待っている
多美子
多美子

きやらばく川柳会(鳥取)後藤 宏之報

ハンガーに吊るす春夏秋冬のこと
うちの子だどちらに似ても平均値

バスツアー大山 山輝いて
皇室も庶民と同じ人の親

誤字脱字急ぐメールは許される
結婚か今は明るいニュースだが

冷え込みに冬の支度は未だなのに
朝がきてまた夜がきて老いの日々

一枚の訃報が重い回覧板
お茶どうぞ心が和むおもてなし

アルバムに誤りながらシユレッター
おおらかに揺れるコスモス母重ね

ありがたい今日日は難解言えたらう
できることできるうちにとご飯食う

困ったなあ額の写真に問うてみる
令位子

川柳さんだ(兵庫)

酒井 健二報

やぶへびを避けて会議は黙り込む
リストラ案言い出しつべが首切られ

親の言やぶへびになる反抗期
仲裁に入った喧嘩余計揉め

おもいつき遊びなさいといいました
切り取り線に隠した恋の二つ三つ

ときばきと熟す人にはノルマ増え
忙しくしていなければ落ち着かぬ

千代

宏之

美穂

恵子

雨奇

ひろし

日枝子

瑞枝

久直

紀の治

治代

宣子

俊久

砂時計落下速度が加速する
することは無くても口は忙しい

気の済まぬ性で一人で背負い込む
忙しさ苦も無くこなす起用者

忙しく流した汗に無駄はない
リクエストセーフとなってトラの勝ち

飛び出しにまだ冷や汗が止まらない
まだ声は出ます自分を貫こう

夫の胃で確かめている期限切れ
ポリープは良性ですと神の声

かあちゃんがセーフと言えばみなセーフ
満天の星降り注げ次世代へ

失言を取り戻そうとまた失言
錆び付いた身体に酒の潤滑油

万物の命潤う水の音
思惑が尻尾隠して注ぎに来る

さわやかな誠を注ぐおんな坂
昔の事は爺ちゃんに聞きなさい

四季咲きでいつも蕾をふくらます
打ち明けてごらんよ嵐乗り越える

誕生は湯気に震んだ独り鍋
笑いましょと動画が届く秋夜長

長生きは嫌と言いつつ葉五種
蹴躓くいつもと同じことをして

選挙戦最敬礼は誰のため

健二

迪

はな

正彦

修

正和

修平

直美

利子

廣光

好文

利尚

裕康

残り火で温め直すフルムーン
コオロギをお風呂の中で聞いてます

川柳塔さかい(大阪)

内藤 憲彦報

お金さえあればチャンスはいりません
努力する人にほほえむのがチャンス

下積みへ有事がチャンス持つてくる
その笑顔シヤッターチャンス丁度良い

晴れてきた行こうスパー5パー引き
ワクチンを打って旅行のチャンス出来

二度とないチャンスを返せ新コロナ
惜しいけど見送ることにしたチャンス

バイバイと無邪気に済まされた別れ
誰にでもバイバイしてる内の孫

婆ちゃんはいつ死ぬのかと尋ねる児
無邪気さが消えて女になってゆく

なに人も童に戻る母の通夜
お父さん家の借金知らんとは

無邪気よくよくよしても歳はとる
叱られても無邪気な顔でママが好き

夢語るあなたの中にある無邪気
活断層の上で無邪気に再稼働

百グラム瘦せた肥えたとお年頃
悲しくて無邪気に踊るピエロです

紀惠

耕治

勝弘

蕉子

憲彦

一万紗子

みつこ

光雄

志津子

扶美代

時雄

さくら

玄也

ブライドを剥がして輪の中に入る
よそ行きの仮面を剥がす一人部屋
友達がメッキを剥がす披露宴
信用が一度のミスで剥がれ落ち

ブライドを剥がせばふわり軽い肩
うつぶんを剥がす如くに鍋磨く
思い出の写真剥がして老い支度
快復へ薄皮はがすかに術後

つやつやの新米炊いて先ず供え
つぎつぎと心配事が舞い起きる
つましく皺を隠してマスクする
積んできた信用わやにまた女難

辛くとも仕事に励む町工場
慎ましくしつかり生きた真人間
川柳茶ばしら(愛知) 金子美千代報

黄金刈り千枚田にも冬仕度
煽りかなやたら車線を変えてくる
やれば出来る八十過ぎて卓球
だんだんと脳も委縮の寒暖差

コロナ禍がまた来るだろか朝の冷え
行くあてもないが衝動買いの服
川柳あまがさき(兵庫) 大浦 初音報

ふんわりと持ち上げられるバレリーナ
和子

満作
いさお
堅坊
清
満知子
ゆみ子
和夫
みつ江
八千代
敬子
廣子
憲
舞夢
朝子

飲食店客よりバイト奪い合う
いい店や酒もうまいし密になる
日当りが背に心地よい秋日和
ダメもとで出して当たったクオカード

高騰の値札を取れと言う秋刀魚
あどけなさ残しスネ毛の孫来たる
夕刊を西陽の当たる部屋で読む
友と飲み夜風に当たる久しぶり

凄いなあ大谷君と聡太君
シートも妻には勝てぬ夫です
母の手のひら体温計の役もした
飛び込んだ寿司屋に値札見当たらぬ

日本のトイレピカピカ世界一
マスク美人マスク外すと老けていた
軽いけど深い寂聴尼の法話
重い口猪口一杯で軽くなり

吾も山も今最盛期紅葉燃ゆ
庭の紅葉真赤に燃えて冬を待つ
熟れ尽す人生一度紅葉時季
若い頃紅葉見に行く彼誘う

美千代
まみ子
雅美
美千代
美千代
美千代
美千代
美千代

英坊
柳明
初音
雅子
紀恵
正彦
菊江
耕治
哲男
修平
勝弘
新録
宏造
健二
こみつ
かずお
久仁雄
純

足音でうすうす判る子の帰宅
世の噂うすうす通り大当り
沈黙の人の心がうすうすと
うすうすと感じていたがやり過す

父が変だ妻はうすうす気付いてる
ぎよりの目嘘つく人に備わらず
山門のぎよる目は人を呑んでいる
海老蔵が歌舞伎の見栄で目をぎよる

妻ぎよるり亭主その場で跪く
世の中をぎよるりぎよるりと鬼瓦
北風の矢面に立つ高齢者
矢面に立つ政治家は化石なり

子を守る矢面に立つ親の愛
争えば矢面に立つ覚悟です
睨み方ぎよるりとなるか鏡見る
趣味連れて私磨きと老い之道

健康に検査入院選ぶ道
ありがたい健康こそは美に勝る
紅葉狩り接種証明要りますか
オレもいる制限緩和此の出入

選択に自信の感も妻わたし
腹立ちを汗を流して磨く鍋
登美子
三和子
邦夫
おくみ
規之
ヒロ

若作りしたのに席を譲られる
荒波を見事乗り切る夫婦舟
退院まで付き添い介護妻の愛

もう少し生き延びようか走り蕎麦
幸せと今わの際に言う覚悟
子の名前幸の字入れる親心

一歩ずつ進んだひよこ成ると金
秋夜長名曲聞きつ夢誘う
満月が見守っている塾かばん

自慢の我が家息切れしつ帰る坂
ポツリと逝きたい人の医者通い
応援団立ち去り難い勝利後

足弱く口は達者気が強い
第六感が働く今日は絶好調
先人の犠牲の上にある平和

あれからの進展が無い拉致家族
とほけ上手も魍魎魍も永田町
年なのか金と手袋直ぐ落とす

紐付きの手袋をさす老い二人
勝ち負けを言わず野の花リンと咲く
微笑みに閉ざす心の鍵が開く

寝てる母せて乗せたい車椅子
居心地がよかつた君の傍の席
八十路過ぎ鐘を下ろす場を探す

古傷は予期せぬ時に疼くもの

光弘

たけし

靖博

澄子

純風

幸子

孝

洋二

和子

ともこ

正博

隆彦

由子

ふみ

秀子

和代

直樹

川柳塔まつえ吟社(鳥根)相見 柳歩報

ハイマツの堀頂上は見えている
働いた後の昼寝は許される

深夜でも昼でも夢に出るか君
昼寝から目覚めた時が朝だった

昼寝して妻の出迎え間に合わず
エアコンを効かせトロイメライの昼寝

チャンネルを合わせるようにする昼寝
トマトビユーレ夜の狡さにむせている

大嫌い自分以外のくどいもの
わかつたよ風呂で寝なけりやいだろう

一つ芸がらがら廻る風見鶏
ガラガラベッーお上手ですとヘルパーさん

がらがらと思ひ出崩すブルトーザー
がらがらの時間ねらつてシヨッピング

がらがらとまた空クジの音がする
がらがらがら生年月日かき回す

豊中もくせい川柳會(大阪)初代 正彦報

つつがなく独りの夜のひとり酒
お疲れさんと案山子の脚にサロンパス

いろいろの想い出秘める十の指
速球にチェンジアップが効きだした

二メートル歩けばやること忘れてる
多美子

効き目あり明日の元氣は繩のれん
禪問答するかの如く老い二人

ゆるむ組織蘇らせるたまに喝
わたくしを育ててくれた五指十指

胃カメラに手術急げと指示される
黒揚羽うっかりかかると蜘蛛の糸

効く効くと暗示をかけてのむ薬
節目にて性根が座る父の喝

鉄棒の孫夕焼けの空廻す
効いている患者のツボがよく笑う

主義主張異なる野合見抜かれる
孫と居て障子に遊ぶ指狐

届かない背を搔く人が傍に居る
コロナ禍の切り取り線が気にかかる

効くんだと思つて飲めば効いたかな
選評でやんわり心盗まれる

八十路来てもう選択の余地がない
カレンダー見たら句會は済んでいた

ためらう前にやつてみناهれ立つ時や
若者にとりアンテナはいますマホ

たわんでる心をほぐす空の青
うっかりの顔して悪がほくそ笑む

美人の湯我が身挺して治験中
咲ききつて散る場所選ぶのは私

うっかりを助けてくれた友の声

健二

時子

義明

ヨシエ

敏昭

野鶴

英旺

ふりこ

弘委智

肇

(福)正彦

千賀子

(岩)玲子

美津子

見清

美籠

満作

哲男

則彦

黒兎

(初)正彦

武人

眞澄

雅美

昌代

昌代

年金日サンマ二匹を買いました
 サブリよりしつかり飯を食えと医者
 しっかりと握っていますその未来
 選り好み生きても道に変わりなし
 軽石が重いと海が泣いている

川柳ささやま(兵庫) 北澤 穉民報

どっこいしょもう口癖になりかけた
 大食いの出来る若さが羨ましい
 「これ内緒」披露してねの合言葉
 秋深し秋刀魚を焼いて一人飲む
 コロナ禍で全ての予定見直され
 がんばろう私なりに出来る事
 信号で列整える赤トンボ
 新米は生き抜く力湧いてくる
 百歳が国産食品チェックする
 若世帯ほどよい距離で得る健康

城北川柳会(大阪) 近藤 正報

これでいこ良い言いつく
 ポケットにまだ弾ませる毬がある
 子は巢立ち井鉢は棚の奥
 井に新酒満たして月見酒
 言い訳がくどいと沈む場の空気
 母が笑う切ない逢瀬ガラス越し

勝弘 一步 ひとみ 洋志 さらり
 哲男 稠民 善輔 重男 良子 美智子 哲夫 すみえ 智恵子 凜繪

賢子 博 一 欖香 ゆきみ
 ガラス越し見送る老父が小さくなる
 通過待ちばかりのこだま進まない
 口遅く心配した子聞き上手
 カツ丼を食べて白状するのかな
 月末はハイカラ井の世話になり
 逢いたくて曇りガラスに書く名前
 藤井君勝負の飯はチントンシャン
 パパですようれしもかしガラス越し
 海鮮井温暖化受け大苦戦
 ウチの子に限り庇うつらい声
 ガラスの天井まだまだ遠い日本国
 二人になりスローライフも板につく
 雑音は聞かず我が道突っ走る
 ガラス越しキッスはどんな味だろう
 ゆつたりと輪を重ねてマイペース
 ミサイルの射程平和に菊薫る
 投句した後からいい案が浮かぶ
 僕に似てしんがり走る孫愛し
 言い訳はいらぬ実力が出るグラフ
 遅刻した言い訳聞くの耐えられぬ
 親にはなりたくないと思う悲しみ
 遅い春追伸でアイ・ラブ・ユー
 反核に遅い日の丸条旗
 生きてこそ笑って泣いて転げもする
 どの色で生きてても白い骨になる

朝子 郁夫 隆一 俊雄 正彦 千恵子 福貴子 宏造 堅坊 一步 志華子 星雨 満作 廣光 五月 義明 ルイ子 千賀 和夫 恭子 信子

かずお 利子 勝弘 正
 始めたら意地になりますガラス拭き
 チクツとします言わずに注射してほしい
 演歌にはくもりガラスが似合います
 基地づくりサンゴの海は泣いている

あかつき川柳会(大阪) 磯島福貴子報

敏 万作 ダン吉 一筒 みつこ いさお 楓葉 鈍甲 北朗 忍
 晴らさねばならぬ入管深い闇
 やり切つてホッと思わず深呼吸
 人間の深さと思う聞き上手
 トロイカを歌うバイカル湖の底で
 守り抜く先祖の汗と血の棚田
 医師会と厚労省の深い仲
 少年の闇深くする電子音
 気候危機深い溜息化石賞
 話す度に深くはなくなった悩み
 先頭の蟻には強い風当たり
 先達に思いを馳せる秋の夕
 ごめんねと先に言われて奏える牙
 先を読む眼鏡がすこし曇りだす
 先人の智恵積み重ね今がある
 話にも信念にじむバイオニア
 迷惑をかけて長生きしています
 CMが健康不安かき立てる
 原発事故その迷惑はまだ続く
 水域を越えてチャイナの漁船群

(長)敏子 しげ子 黒兎 堅坊 昌芳 一步 志津子

迷惑な噂真空パツクする

左から歯きり右は大いびき

玄関に黒いベンツが止めてある

期限切れ原券今も動いてる

日曜日下手なピアノが隣りから

バラマキの後は野となれ山となれ

秘書がしたことしやあしやあ罪深い

分配は先ず国債を増し刷りし

革新が時代遅れで保守になり

手のひらのスマホですべて事たりる

論文も自販機で売る近未来

日章旗のままにならない星条旗

跡継げとともいえない米づくり

ニュース聞かないと生きてる気がしない

先逝くな残されたオレ困っちゃう

高齢化柳会憂う先細り

六甲川柳会(兵庫)

糞谷

和郎報

孫の名が普通に読めてほっとする

寒の空柿も私も甘くなる

子や孫に俺の普通が通じない

人並みに生きて死ねればそれでよい

生返事妻のカミナリ避雷針

ワクチンを受けて張り切るスニーカー

世話役を受けて毎月酒の宴

認知症検査に八十爺かしこまる

みつ江

心平太

克己

文聡

浩子

紅絵

正康

勝久

一角

りゅうこ

緑

高鷲

征之

保州

安保子

福貴子

無沙汰にも権利はあると遺産分け

のこのこと出かける母の迷子札

居ませんよ言うてるとこへ顔を出す

掃除終え芋焼けた頃顔を出す

美声だが音程少しずれている

しかしよく嘘をついたよ百八つ

さりげなく別れたふたりだったのに

日本沈没しかし平和はきつと来る

川柳に癒されもする泣きもする

自粛解けしばし安堵の日が続く

懼らずに持ちこたえてと3回目

気に入りのお猪口はろ酔いひと休み

かくれたいそんな日もある目深帽

耳たぶを引っぱり耳鳴りを凌ぐ

宅配の人と話しただけで暮れ

齢は別まだ半熟の心意気

頑張りが利かぬ弱気になつてきた

洗つても洗つても丈夫な両手

堂堂と前を向いたら見えた虹

裏の裏かいて普通にジャンケンポン

何回も念押しされて増す不安

腕組んでブランド靴を見せつける

コーヒーをぐるぐる決心がついた

川柳塔すみよし(大阪) 田中ゆみ子報

狸月

武彦

千賀子

博

正彦

洋次郎

ひとみ

公輔

恭子

美恵子

義明

崇史

美津子

美穂

正和

哲男

光久

勝弘

廣光

次郎

隆浩

ひろし

利恵子

不祥事は同じ貉が庇い合う

百薬の長が万病連れてきた

旅の夜皆いつせいに薬飲み

良薬と思つて飲み干した苦言

百歳まで生きるつもりドクダミ茶

手遅れと知りつつ毛生え薬塗り

カラフルな錠剤三度膳の友

この頃は薬飲むため生きてる

安心や虫が毒味の無農薬

年寄りの元気に趣味という薬

失恋の痛手時間というクスリ

二階だと思つてきたが何だっけ

探求の心が僕を老いさせぬ

良いところ探しを溶けるわだかまり

私にだけ優しい人を探しても

終章の生き方模索する夜長

食べすぎぬ事が一番薬かな

サービスの基本はやはりいい笑顔

神様のサービスのなのですか余生

デイサービス紅の一つもさして春

札を言うタッチパネルの電子音

ここまではサービスという落とし穴

貧乏神が過剰サービスして困る

ポイントにつられて財布軽くなる

行兵衛

眞澄

直子

進

ひろ子

昌紀

福貴子

里子

(奥)五月

崇明

俊雄

裕之

憲彦

朝子

ゆみ子

大子

克博

公誠

保州

万紗子

萌

篤

玄也

志津子

としお

久仁雄

小銭入れ探す賽銭五円玉

仲間にもライバルがいてガツツ湧く

居酒屋に集う仲間が温ったかい

級友に天狗も鬼も虎も居る

縦に首振った時から共犯者

イケメンとセレブはいない仲間内

七人の敵も居酒屋では仲間

いつものところいつものように屯する

川柳塔鹿野みか月(鳥取)福西 茶子報

欲しいまま生きて残った虚脱感

大物の事故騒がしく掘り起こす

マイサブリ仕事帰りのコップ酒

黒塗りの下に尖った文字がある

何よりもタダが嬉しい薬草茶

母さんが尖ると家は暗くなる

新築の香りの中の心地好さ

いつまでも君の添え木になる覚悟

托鉢の虚無僧偽りに襟正す

ゴールドカードチラリと見せる虚栄心

ナイトクラブ男と女虚飾満ち

いつまでも付き纏うのか虚栄心

権力に抵抗をしてベン尖る

騒がしい人がだんだん消えた町

尖ったり丸くなったり独り酒

民子

ふりこ

まつお

久美子

雅美

いさお

寿之

勝弘

美ツ千

弘子

甚緑

盛桜

宏章

孝子

草文

ゆたか

一平

楓花

白周

慎一

小鹿

すみれ

完司

殺虫剤人畜無害ウソの皮

虚しさよ三月は着たカロンパス

高校で飲酒の騒ぎ停学に

樹木医になって巨木を守り抜く

虚偽申告してる体重腰回り

虚勢張り今夜も唄う流行唄

今だけと魔法の言葉サブリ買う

屋上の回転木馬が懐かしい

大木をもてあましてる現代人

ふところの深い男に嫁にいけ

会議中口を尖らせ異見言う

目うつりしてあれこれサブリ買って飲む

虚しいよシューゲームする夫婦

効能書信じ続けて飲むサブリ

西宮北口川柳会(兵庫)緒方美津子報

思い切り飲みたいマスク外したい

精一杯愚痴発散の金平糖

家飲みで会社の憂さは晴らせない

腹の虫スタート線に勢揃い

まず消毒汚れ見えぬが癖になり

元気ならいいさ泥んこ服洗う

ふるりのドロコ付けてきたタイヤ

やっぱりね心配だから付いて行く

ハンドルを握れば人格変わる人

照彦

孔美子

文道

弘六

茶子

恒

かおる

俊幸

蟹郎

瑞子

大鯨

律子

静恵

武彦

一徳

正彦

邦男

千代

哲子

ひとみ

正和

用心棒可愛いベツト猛犬に

万能の用心棒は諭吉です

相槌は共犯になる用心

転ばぬよう神経配る足の裏

柔らかい一言もらうパスの中

蟬りほぐれ空気が柔らかい

小さい秋拾うて帰るウオーキング

看取れぬままか細い義母の遺骨抱く

決断へ結ぶこころと靴の紐

頼んでもいないお世話を焼いてくる

二人きりの静かな余生茶が旨い

Yシャツの衿の汚れは手で洗う

退院へゆるりと歩く試歩の杖

柔かに話せば鬼も聞き入れる

役職を退いて柔和な顔になる

出不精が不要不急にしたり顔

知らぬ人に口を利くなと母は子に

悪口をたつぷり交わしジョッキ上げ

どぶ池に気高く咲いた蓮の花

ストレスがすべて発散虎勝利

汚れたら洗うだけだよおつかさん

用心が裏目になって強くなる

町工場社長の服も汚れてる

世を映しどこか不気味な赤い月

凧の海その落日の柔らかさ

みよし

哲男

堅坊

紀華

いわゑ

洋次郎

千賀子

恭子

敦子

廣光

利子

野鶴

光久

靖夫

野薫

りこ

昭九朗

忠夫

和宏

美香

弘委智

新録

水筆

喜明

| 句会名 | 日時と題 | 会場と投句先 |
|-------------------|---|--|
| あかつき 川柳会 | 14日(金) 14時締切 代弁・ときめいたこと・流 時事吟 | 大阪保育運動センター(新谷町第1ビル2F) メトロ「谷町六丁目」駅③番出口南へ3分(道路向い側へ) 〒543-0013 大阪市天王寺区3-6 木村ビル2階 あかつき川柳会 |
| 岸和田 川柳会 | 15日(土)14時 心・動揺・ひとまず・コピー | 岸和田市立福祉総合センター 南海電鉄「岸和田」駅東へ徒歩5分 〒596-0076 岸和田市野田町2-13-19 中岡香代 |
| 川柳塔 みちのく | 15日(土) 17時締切 めでたい事・茶・折る | 会場未定 〒036-8275 弘前市城西1-3-10 川柳塔みちのく事務局 稲見則彦 宛 TEL0172-36-8605 |
| 川柳 ねやがわ | 16日(日) 白紙・よろこぶ・酒・自由吟 | 寝屋川市民会館 京阪寝屋川駅から徒歩15分 または京阪バス市民会館前下車 〒572-0063 寝屋川市春日町9-9 高田博泉 |
| 川柳 藤井寺 | 16日(日) 14時締切 父 共撰 | 藤井寺市生涯学習センター・しゅらホール 3F 近鉄南大阪線「藤井寺」駅下車南へ徒歩10分 〒583-0007 藤井寺市林5-8-20-303 鈴木いさお |
| 豊中 もくせい 川柳会 | 17日(月) 13時50分締切 応援・変える・ほどほど・自由吟 | 豊中市立中央公民館 3F 阪急宝塚線「曾根」駅 徒歩5分 〒569-0073 高槻市上本町5-26 初代正彦 |
| 川柳 さんだ | 18日(火) 13時30分締切 人生・厳しい・バランス 座る・自由吟 | キッピーモール 6F (JR三田駅前) 投句先 〒669-1545 三田市狭間が丘5-10-19 谷 祐康 |
| 川柳 たちばな | 21日(金) 13時45分締切 午後1時開場 席題・雪・からむ・自由吟 | 尼崎市女性センター・テレビエ 2階 阪急武庫之荘駅南へ5分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造 |
| 川柳塔 すみよし | 22日(土) 14時締切 星・踊る・ジョーク | 住吉区役所内 住吉公民館 2F 〒580-0026 松原市天美我堂3-130-2-404 森松まつお |
| 和歌山 三幸 川柳会 | 22日(土) 13時15分締切 神・強い・友 | 和歌山商工会議所 4階 〒640-8570 ニュース和歌山編集部 「和歌山三幸川柳会」宛 |
| はびきの 市民 川柳会 | 23日(日) 14時締切 秘密・飢える・リーダー 席題 | 陵南の森公民館 近鉄南大阪線「高鷲」駅下車 北へ徒歩10分 〒583-0864 羽曳野市羽曳が丘1-11-8 徳山みつこ |
| 川柳 ふうもん 吟社 | 23日(日) 13時～ 自由吟・スピード・連発・核 | 県民ふれあい会館 4F 鳥取市扇町2-1 〒689-0202 鳥取市美萩野2-171-3 中村金祥 |
| 南大阪 川柳会 | 24日(月) 14時締切 合図・四季・当たる・雑詠 | 大阪市立住まい情報センター 5F 研修室 メトロ谷町線・堺筋線「天神橋6丁目」駅③号出口 〒569-1116 高槻市白梅町5-15-1008 松岡 篤 |
| 川柳塔 わかやま 吟社 | 9日(日) 14時10分締切 兼題＝極上・熱・モデル 課題吟＝円 | 和歌山商工会議所 4階 和歌山市西汀丁3-6 兼題 〒649-6253 岩出市紀泉台366 藤原ほのか 課題吟 〒592-8349 堺市西区浜寺諏訪森町2-208-5 栗原道夫 |

★日時・会場などが変更になる場合は、本社事務所(06-6779-3490)へご連絡ください。

1 月 各 地 句 会 案 内

(開催日順)

| 句会名 | 日時と題 | 会場と投句先 |
|----------------------|-------------------------------------|---|
| 倉吉川柳会 | 1日(土) 14時締切 切り替え・講じる・よ～し 席題一題 | 倉吉市明倫公民館 〒689-2221 鳥取県東伯郡北栄町由良宿2072-17 谷口次男 |
| 川柳塔な | 4日(火) 締切 誌上句会 神妙・キラキラ・始まる | 〒636-0341 磯城郡田原本町薬王寺150-21 中堀 優 |
| おりひめ☆ ひこぼし 川柳会 | 7日(金) もうすぐ・クルクル・告白 | 〒573-0095 枚方市翠香園町2-7 「おりひめ☆ひこぼし川柳会」 藤田武人 TEL・FAX 072-395-5453 |
| 川柳大阪 | 8日(土) 14時開場 響く・あかり・乾杯 | 投句先: 〒534-0021 大阪市都島区都島本通り4-11-6 山崎珠生 |
| 城北川柳会 | 8日(土)14時締切 穏やか・デスタンス・愉快 自由吟 | 旭区老人福祉センター 3F メトロ谷町線「千林大宮」駅③番出口を左後側 投句先 〒536-0001 大阪市城東区古市1-8-14 江島谷勝弘 |
| 川柳とんだばやし 富柳会 | 8日(土) 無・まさか | 富田林市立中央公民館 近鉄南大阪線「富田林」駅南口から西へ200m 〒584-0066 富田林市錦織北1-14-6 中村 恵 |
| 六甲川柳会 | 8日(土) 14時締切 邪魔・ジグザグ・狙う・自由吟 | 六甲道勤労市民センター 5階 E室 JR「六甲道」駅南隣 メイン六甲内 〒657-0011 神戸市灘区鶴甲4-11-11 上田和宏 |
| 川柳塔打吹 | 8日(土) 13時30分締切 神・開く・掘る・席題 | 倉吉市上灘町9 上灘コミュニティセンター 〒682-0034 倉吉市大原637-3 牧野芳光 方 川柳塔打吹 事務局 |
| 川柳塔まつえ 吟社 | 8日(土) 13時30分締切 空気・メダカ・拾う そわそわ | 投句先 〒690-0034 松江市古志原7-19-19 中筋弘充 会場 雑貨公民館 |
| 八尾市民川柳会 | 9日(日) 14時締切 正月・ほのぼの・若い・雑詠 | 八尾市安中町3-5-1 渋川・安中集会所 JR「八尾」駅から徒歩5分 〒581-0083 八尾市永畑町2-1-7 土田欣之 |
| ほたる川柳同好会 | 11日(火) 13時30分締切 気・広い・さて | 豊中市立蛭池公民館 阪急・モノレール蛭池 蛭池駅前ビル 5F 〒561-0813 豊中市小曾根2-4-1 水野黒兎 |
| 川柳塔さかい | 7日(金) 必着 客・初め・びったり 折句:さ・わ・ら | 投句句会 |
| 川柳あまがさき | 11日(火) 14時締切 冗談・音・ふつふつ・自由吟 | 尼崎市女性センター・トレビエ 2階 阪急武庫之荘駅南へ5分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造 |
| 西宮北口川柳会 | 13日(月)14時締切 席題・映画・踊る・あらあら 自由吟 | 西宮市立中央公民館 6F 講堂 阪急「西宮北口」駅南出口徒歩3分「プレラにのみや」 〒663-8141 西宮市高須町2-1-31-830 福田正彦 |

柳界展望

成績。

天位 小島 蘭幸

肩車父の背中は熱かった
和3年課題吟年間賞」に
柳田かおるさん。

▽動 向△

天位 木本 朱夏

旅人は陶冶の旗を目指しつづ
川柳塔賞準優秀作第二席
↓第一席

▽訂正とお詫び△

★「第70回八尾市民川柳誌上大会」。参加者220名。同人成績。

秀吟 中村 恵

★「第23回全日本川柳誌上大会（令和柳多留）」。

次（世も君の隣へ着地する

文化協賞 三宅 保州

瘦せよと言う医者には

文化祭賞 石田ひろ子

行かぬことにする

NHK会長賞

笹重 耕三

核の傘ひろげたおめでたい平和

一言のありがとうにも

★「令和三年度・第42回鳥取県川柳柳作家協会賞（日満賞）」。

大賞 斉尾くにご

塔が見えます塔からもみえますか

★「川柳いずも創立95周年記念誌上大会」。同人

天位 澤井 敏治

遊行期にこそ生き様が

天位 今治市 安野かか志

紹介者 永井 松柏

第5回

水の都まつえ誌上川柳大会

兼題「自由吟 2句」選者8名による共選

選者 奈良 一艘 井上 一筒

くんじろう 新家 完司

笹田かなえ 米山明日歌

八上 桐子 樋口由紀子

締切 令和4年1月31日（月）消印有効

参加費 一口 1000円（切手不可）

何口でも可

賞 1句のポイント制とし、上位10位まで賞呈。

で賞呈。

投句先 〒690-0001

松江市東朝日町206-17

石橋芳山宛

TEL 090-2000315846

全日本川柳誌上大会のご案内

(令和柳多留第3集通巻24号)

日本の全柳人が、だれでも、どこからでも参加できる「全日本川柳誌上大会」(令和柳多留第3集通巻24号)を開催します。日川協年次大会・国民文化祭文芸大会と並ぶ(一社)全日本川柳協会の権威ある三大自然行事ですので、こぞってご参加ください。

一般社団法人 全日本川柳協会
理事長 小島 蘭 幸
出版委員長 西出 楓 楽

課題と共選者(各題2句・連記)

| | | | | |
|--------|------------|----|-----------|----|
| 「黄」 | 北山まみどり(青森) | —— | 大嶋都嗣子(三重) | 共選 |
| 「データ」 | 三上博史(栃木) | —— | 片岡加代(大阪) | 共選 |
| 「巻く」 | 柴垣一(千葉) | —— | 樋口祐子(兵庫) | 共選 |
| 「くっきり」 | 佐道正(東京) | —— | 高木勇三(岡山) | 共選 |
| 「期待」 | 佐藤清泉(静岡) | —— | 横尾信雄(佐賀) | 共選 |

第2次選者

佐藤美文(埼玉)、西恵美子(宮城)、松代天鬼(愛知)
矢沢和女(兵庫)、黒川孤遊(熊本)

参加費 2,000円(投句料・『令和柳多留第3集通巻24号』代金含む)

賞 令和柳多留賞・川柳大賞・NHK会長賞
日本青少年育成協会会長賞・全日本川柳協会賞
全日本川柳誌上大会賞(予定)

締切 令和4年1月31日(月)〈当日消印有効〉

参加方法 参加用紙に記入し、参加費2,000円(振替又は小為替)とともに、下記へご送付ください。

〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目北1-11-905
一般社団法人 全日本川柳協会
電話 (06) 6352-2210
FAX (06) 6352-2433
振替口座 00970-9-3575

☆ 謹賀新年 ☆

☆ 皆様に可愛がっていただき、2年目を迎えることが出来ました。 ☆

☆ 本年もどうぞよろしくお願いいたします。 ☆

会 長 藤田 武人 事務局長 栃尾 奏子

会 員 木本 朱夏 新阜 義明 山野 寿之

おりひめ☆ひこぼし川柳会

第2回（令和4年度）誌上大会のご案内

北から南まで、多くの川柳人の参加をお待ちしております。

課題と選者（各題2句）

「天」 森中恵美子 選

「踏切」 江畑 哲男 選

「誓い」 真島久美子 選

「心待ち」 高瀬 霜石 選

「たまご」 西出 楓楽 選

「一緒に」 小島 蘭幸 選

「輝く星空を思い浮かべながら詠んで下さい」

謝選 藤田 武人（おりひめ☆ひこぼし川柳会）



投句締切 令和4年7月7日（木）消印有効

投句要領 規程の用紙（コピー可）または、便箋可

参加費 1000円（切手不可・小為替等で）

投句先 〒573-0095 大阪府枚方市翠香園町2-7

藤田 武人 TEL：072(395)5453

☆夫婦共働きですので問い合わせの電話は

18時以降にお願いをしております。

明けましておめでとうございます
川柳塔すみよし

会長 古今堂 蕉子

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 石田ひろ子 | 坂 裕之 | 藤原 大子 | 石橋 直子 | 阪井美世子 | 増田 隆昭 | 磯島福貴子 | 佐々木満作 | 松崎 大輔 | 今井万紗子 | 清水久美子 | 松岡 篤 | 井丸 昌紀 | 鈴木いさお | 松下小枝子 | 岩崎 公誠 | 立石 郁子 | みぎわはな | 内田志津子 | 田中 廣子 | 三宅 保州 | 宇都満知子 | 田中ゆみ子 | 宮崎シマ子 | 江島谷勝弘 | 飛永ふりこ | 森松まつお | 榎本日の出 | 内藤 憲彦 | 森松 芳香 | 榎本 舞夢 | 中井 萌 | 両澤行兵衛 | 大治 重信 | 中村 民子 | 矢倉 五月 | 大隅 克博 | 長浜 美籠 | 山根 妙子 | 大西 晴雄 | 長高 俊雄 | 山野 寿之 | 小野 雅美 | 西村 哲夫 | 山本 進 | 川端 一步 | 藤井 宏造 | 横山 里子 | 吉川 哲矢 | 藤島たかこ | 吉村久仁雄 |
|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|

明けましておめでとうございます

川柳とんだばやし **富 柳 会**

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|------|
| 秋田あかり | 中村 恵 | 穂山 常男 | 林 澄子 | 井澤 壽峰 | 肥山 一文 | 坂本 晴美 | 藤田 武人 | 久世 高鷺 | 堀内きみ子 | 沢田 和子 | 松井 正義 | 鈴木 かこ | 松谷 由夏 | 関 よしみ | 松本 正治 | 土田 欣之 | 村山 佳子 | 都筑 文重 | 山野 寿之 | 栃尾 奏子 | 他 一同 | 中蘭 清 |
|-------|------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|------|

あけましておめでとうございます

翠 洋 会

| | | | |
|-----|----|----|------|
| 東 | 定生 | 谷口 | 義 |
| 安土 | 理恵 | 辻内 | げんえい |
| 安福 | 和夫 | 津村 | 志華子 |
| 岩本 | 浩二 | 寺井 | 弘子 |
| 榎本 | 舞夢 | 飛永 | ふりこ |
| 大川 | 桃花 | 西出 | 楓楽 |
| 大久保 | 眞澄 | 原田 | すみ子 |
| 太田 | 昭 | 藤原 | 大子 |
| 古今堂 | 蕉子 | 降幡 | 弘美 |
| 小谷 | 集一 | 前川 | 善之 |
| 佐々木 | 満作 | 室田 | 行久 |
| 高杉 | 千歩 | 山本 | 希久子 |
| 高橋 | 敬子 | 米田 | 恭昌 |
| 田中 | 廣子 | 渡辺 | 富子 |

謹賀新年

竹原川柳会

会長 小島 蘭 幸

會計 古田 比呂子

監査 國 兼 千代美

ほか会員一同

謹賀新年

川柳塔さかい

会長 内藤 憲彦
副会長 齋藤 さくら

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 吉田 禮子 | 山根 妙子 | 矢倉 五月 | 宮野みつ江 | 伏見 雅明 | 中林 佳子 | 玉瀬 富夫 | 田中ゆみ子 | 高木世紀子 | 柴本ばっは | 佐々木満作 | 源田八千代 | 鴨谷瑠美子 | 奥 時雄 | 太田扶美代 | 榎本 舞夢 | 宇都満知子 | 今井万紗子 | 出海素頼馬 | 綾田 清 |
| 米澤 俣子 | 山本 進 | 山岡富美子 | 村上 玄也 | 古川 光雄 | 西田 敬子 | 徳山みつこ | 谷川 憲 | 田中 廣子 | 鈴木いさお | 澤井 敏治 | 古今堂蕉子 | 楠井 輝子 | 柿花 和夫 | 緒方美津子 | 太田としお | 江島谷勝弘 | 内田志津子 | 井上 洋一 | 石田ひろ子 |

あけましておめでとうございます

鳥取県川柳作家協会

会 員 一 同

連絡先 〒682-0034 倉吉市大原 6 3 7-3

牧 野 芳 光

TEL・FAX 0858-23-0140

明けましておめでとうございます

川柳ふうもん吟社

会 員 一 同

事務局：〒689-0202 鳥取市美萩野2丁目171-3

中村金祥方

TEL 0857-59-1056

月例会：毎月第4日曜日 13:00～

会 場：県民ふれあい会館（鳥取市扇町21）
（県立生涯学習センター4F）

本年もよろしくお願ひ申し上げます

大山滝句座

事務局 〒689-2303 鳥取県東伯郡琴浦町徳万597

新家 完司 080-1910-2787

明けましておめでとうございます

笑いとベースを誇ら……

新刊

山柳万画+(プラス)

電子版も12月中旬より販売開始!

好評
発売中

延寿庵野鶴 著
岡村康裕 画・写真
990円(税込)



川柳のさわやかな風をお届けいたします。

川柳の笑いが四コマ万画になりました。さらに「川柳」を「遊書体」で揮毫し「切り絵万画」もプラス。世界初のコラボです。笑ってスッキリ、楽しく読んで、作句のヒントに役立つ味わい深い1冊。これはおもしろいぞ! 著者26年目の意欲作。

東洋出版

〒112-0014 東京都文京区関口1-23-6 TEL: 03-5261-1004 FAX: 03-5261-1002
www.toyo-shuppan.com 東洋出版の本は全国書店でお求めください。

明けましておめでとうございます

第10回卑弥呼の里誌上川柳大会

兼題と選者(各題2句)

「自由吟」津田 暹・大西 泰世 共選

「変化」濱山 哲也・鈴木 順子 共選

「試す」阪本 高士・樋口由紀子 共選

「ポスト」横尾 信雄・赤松ますみ 共選

「夜」村山 浩吉・木本 朱夏 共選

投句用紙 専用用紙(コピー可)またはA4大用紙

締切 令和4年1月15日(金) 消印有効

参加費 1000円(切手不可) 発表誌呈

投句先 〒842-0103

佐賀県神埼郡吉野ヶ里町大曲2426-2

卑弥呼の里川柳会 真島久美子

TEL・FAX 0952-152-11061

各題特選1句・有田焼 一万五千円相当

各題佳作5句・図書券(その他サプライズ

賞あり)

※ 男女を問わず たくさんのご参加を

お待ちしております

あけまして

おめでとうございます

ほたる川柳同好会

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|------|------|------|------|------|----|
| 水野黒兎 | 中山春代 | 池田純子 | 樋口順子 | 田中螢柳 | 荒木郁子 | 貝塚正子 | 岡田守啓 | 多田契子 | 齋藤奈津子 | 倉本一弥 | 藤井則彦 | 上山堅坊 | 田村直子 | 藤井宏造 | 句会 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|------|------|------|------|------|----|

第二火曜日 午後一時より
豊中市蛍池公民館

あけましておめでとうございます

きやらぼく川柳会

会 員 一 同

事務局 〒683-0804 米子市米原5-1-3-304

TEL 0859-21-7656

竹村紀の治

あけましておめでとうございます

川柳塔みちのく

主幹 福士 慕情・ほか同人一同

事務局 〒036-8275 弘前市城西1-3-10 稻見則彦方

あけましておめでとうございます

川柳さんだ

会員一同

謹賀新年
川柳塔まつえ吟社

主幹 石橋 芳山

同人一同

事務局 〒690-0001 松江市東朝日町206-7 石橋芳山方
TEL.090-2003-5846

明けましておめでとうございます

本年もよろしくお願い申し上げます

川柳塔わかやま吟社

同人一同

事務局 〒640-8482 和歌山市六十谷1188-14
川上大輪方
電話・FAX 073-462-7229

明けましておめでとうございます

川柳塔鹿野みか月

会 員 一 同

会 長 森 山 盛 桜

あけましておめでとうございます

南大阪川柳会

会 員 一 同

あけましておめでとうございます

いずも川柳会

会 長 竹 治 ちかし

会 員 一 同

事務局 〒693-0026 出雲市塩冶原町3-1-5 竹治ちかし方
TEL 0853-22-4309



明けましておめでとうございます。

六甲川柳会 「ろっこうみち」

会 員 一 同

1月から句会を再開します。

会場：灘区文化センター(JR六甲道駅南隣)5階E室

事務局： 〒 657-0011 神戸市灘区鶴甲 4-11-11

(TEL) 078-851-5860 上田和宏

謹 賀 新 年

川柳茶ばしら

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 金 | 脇 | 山 | 関 | 板 | 早 |
| 子 | 田 | 本 | 本 | 山 | 川 |
| 美 | 雅 | 三 | か | ま | 遡 |
| 千 | 美 | 樹 | つ | み | 行 |
| 代 | | 夫 | 子 | 子 | |

あけまして

おめでとうございます

川柳藤井寺

| | | | | | |
|-----|---|---|---|---|---|
| | | | | 世 | 会 |
| | | | | 話 | 長 |
| | | | | 人 | 鈴 |
| | | | | 鴨 | 木 |
| | | | | 谷 | い |
| | | | | 瑠 | さ |
| | | | | 美 | お |
| | | | | 子 | |
| 津 | 吉 | 園 | 太 | | |
| 田 | 田 | 田 | 田 | | |
| シルク | 喜 | 婦 | 扶 | | |
| | 代 | 美 | 美 | | |
| | 子 | 枝 | 代 | | |

明けましておめでとうございます

豊中もくせい川柳会

会員一同

賀 正

川柳ねやがわ

会員一同

迎 春

川柳ささやま一同

代表 北澤 稠民

迎 春

はびきの市民川柳会

会長 吉村久仁雄 会員一同

明けましておめでとうございます

城北川柳会

会員一同

新年明けましておめでとうございます

川柳あまがさき

会員一同

あけましておめでとうございます

川柳大阪

会長 山崎珠生

会員一同

明けましておめでとうございます

西宮北口川柳会

例会 毎月第2月曜日 午後1時 西宮市立中央公民館

(阪急電鉄神戸線西宮北口下車 南出口徒歩3分)

プレラにしのみや6F

投句先 〒663-8141 西宮市高須町2-1-31-830 福田正彦

あけまして
おめでとうございます

川柳塔なら

| | | | | | | | | | | | | | |
|------------------|--------|------------------|------------------|-----------------------|------------------|------------------|-----------------------|------------------|-----------------------|-------------|------------------|--------|-----------------------|
| 会 計 監 査 | 顧 問 | 仲 西 賛 郎 | 高 橋 敬 子 | 加 藤 江 里 子 | 中 堀 和 優 | 安 福 和 夫 | 飛 永 ふ り こ | 中 堀 崇 明 | 長 谷 川 崇 明 | 副 会 長 | 宇 賀 史 郎 | 会 長 | 大 久 保 眞 澄 |
|------------------|--------|------------------|------------------|-----------------------|------------------|------------------|-----------------------|------------------|-----------------------|-------------|------------------|--------|-----------------------|

事務局 〒631-0078 奈良市富雄元町1-1-7-114 大久保眞澄

春 頌

社 塔 柳 川

主 幹

小島 蘭 幸

常任理事

平井 美智子

理 事 長

新家 完 司

藤井 宏 造

副 主 幹

川上 大 輪

藤村 亜 成

副 理 事 長

木本 朱 夏

松岡 篤

副 理 事 長

内藤 憲 彦

森松 まつお

常 任 理 事

石田 隆 彦

相 談 役

板尾 岳 人

上田 ひとみ

奥田 みつ子

内田 志津子

西出 楓 楽

宇都 満知子

仁部 四 郎

江島谷 勝 弘

村上 玄 也

大久保 眞 澄

会 計 監 査

西村 哲 夫

楽原 道 夫

初代 正 彦

糀谷 和 郎

編集後記

★お元日坐るところへ坐らされ 路郎

★門松は無用常住坐臥の 葎乃

★寅年に候 寅の年の旦 薫風

★令和4年壬寅の幕明けです。十二支はシルクロードの交易を通じてベトナム・インド・モンゴルなど世界の様々な国にも伝わったそうです。常々なぜ猫がいないのかわりに猫が入っているのか。コロナ終息を祈る初春です。

★作家出入根達郎氏から新刊『花のなごり』奈良・川路聖謨をご惠贈戴いた。川路聖謨は1846年3月、奈良奉行を拜命。のちに大坂奉行に栄転。『花のなごり』は聖謨が江戸の母に送った自筆の日記に基づいて構成された

小説である。猿沢の池から興福寺に至る階段の近くに聖謨の碑があるという。帯に「いにしへの奈良は花の都で鳴らした。川路はその再現を図った。春は桜、秋は紅葉の都にすべく、町の衆に持たせ、隋より始めよ、自ら興福寺、東大寺内に植樹した」とある。

★奈良は、ことに興福寺界隈は若いころから私の好きな地である。宝物殿に安置されている山田寺の仏頭は私の恋人であり、悩ましげに眉根を寄せた阿修羅はいつも私の胸の内を聴いてくれた。境内の「ナラノヤエザクラ」を親に編集の帰路、天王寺駅から大和路快速に飛び乗ったこと。思えば聖謨の植樹した桜であつたかも。『花のなごり』468頁。発行所は奈良の図書出版 養徳社。2500円。令和4年の読み初めとなつた。

食中毒

ひとこと

50年ぶりで食中毒に罹つた。それも私だけに。籤運は弱いのにこういうアクシデントは大当たり。昨年、猛暑さ中、2回のワクチン接種も済んだのでランチに出掛けた。全国チェーンのレストランで、お晩菜が3、4品、メインは夫がサララウどん、私は減多に食べ

ない親子丼を注文。お味はまあまあだつたが、その後、どうも胃腸の調子がおかしい。早々に帰宅して食中毒に効く薬を飲んで休む。私

は覚えないが夫は元気であつた。50年前の食中毒はもつと酷かつたが、若かつたせいも早く完治。いま73歳になり、また野放図で食中毒の前から体調が悪く、それらがすべて空回りしたのだから。

老化と言ふ言葉がふつと現実味を帯び、今まで持ち応えてきた体力の衰えをまざまざと突きつけられた。

心身をじつくりと見直す年齢なのかもしれない。

古稀の坂ぐらりぐらぐらちよいと覇気 (飛永ふりこ)

★1月6日(木)、余程 として

の厄災が起きないかぎり 本社会は再開される。自粛していたが、1年8月令和2年3月旬会休会から実に、22カ月ぶり。コロナウイルスへの防御を忘れず、お会いできることを楽しみにしています。

(朱夏)

◇編集部入りした栗原道館、すみだ北斎美術館、末廣亭・夜席(主任・柳

夫です。趣味は、劇場通家喬太郎)、国会図書館、京に行き、あちこち見て 国立博物館(最澄展)、回るのを何よりの楽しみ 鈴木演芸場・余一会(古たします。)

(道夫)

川柳塔誌新規購読申込書

きりとりせん

年 月 日

| 氏名 | | 住所 | 電話 | 紹介者 |
|----|----|--------|----|-----|
| | | 〒 - | — | |
| 年 | 年 | | — | |
| 月 | 月 | | — | |
| から | から | | | |
| 一年 | 半年 | | | |
| 9 | 5 | | | |
| 8 | 0 | | | |
| 0 | 0 | | | |
| 0 | 0 | | | |
| 円 | 円 | | | |

該当の方に○をつけて下さい

〒543-0052

大阪市天王寺区大道1丁目14番17号 花野ビル201
川柳塔社 (電話 06-6779-3490)

振替 009804298479

◎この用紙は新規購読申し込みのみにご使用下さい

作品募集

3月号発表 (1月15日締切)

| | |
|-------------------|--------|
| 川柳塔 (8句) | 小島蘭幸選 |
| 水煙抄 (8句) | 川上大輪選 |
| 愛染帖 (2句) | 新家完司選 |
| 檸檬抄「名残」 (2句) | 榎原道夫共選 |
| インスレクション「ナビ」 (2句) | 久保田千代選 |
| 「オフレコ」 | 大西泰世選 |
| 「単純」 | 佐々木満作選 |
| 一路集 (2句) | 前田楓花選 |
| 初歩教室「スピード」 (3句) | 西出楓楽担当 |

初歩教室「スピード」は4月号発表

4月号

檸檬抄「抱く」

一路集「耳寄り」「せかせか」

初歩教室「遊ぶ」

本社1月句会

とき 1月6日(木) 13時開場・13時40分締切

ところ アウィーナ大阪 3階 葛城の間

おはなし「石碑 短冊に書かれた川柳」

兼席題「置く」

兼題「怪しい」「パートナー」

「たかが」「気合い」

会費 1000円

投句料 500円(または84円切手6枚)

小島蘭幸氏
上田ひとみ選
石田隆彦選
藤井宏造選
松岡篤選
西出楓楽選
新家完司選

(各題2句以内)

本社2月句会

7日(月) 午後1時から

兼題「買う」「語る」「エネルギー」「つるつる」「記録」

本社句会欠席投句のお薦め

* 幅4.5センチ×長さ25センチの句箋一枚に一句ずつを書き、裏面に題とお名前を記入のこと。

* 投句料は500円。または84円切手6枚。

* 句会日の前々日までに事務所に必着のこと。

定価 八百円(送料100円)

半年分 五千円(送料共)

一年分 九千八百円(同)

発行人 小島和幸

編集人 木本朱夏

印刷所 美研アート

〒543-0052 大阪市天王寺区大道一丁目一四一七

花野ビル201号室

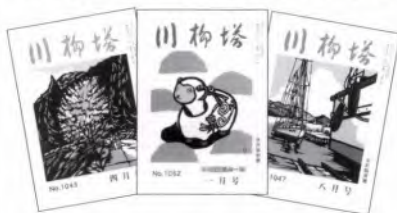
振替 〇〇九八〇一四一二九八四七九番

電話(〇六)六七七九一三四九〇番

発行所 川柳塔社

川柳・俳句・エッセイ・小説 新聞・広告・ポスター・伝票等

あなたの思いをかたちにします。



美研アート

〒531-0061 大阪市北区長柄西1-1-10

TEL (06) 4800-3018

FAX (06) 4800-3028

E-mail: bikenart@ea.mbn.or.jp

箸がとまらん 極うま塩昆布

「直火仕込み製法」により炊き上げた濃厚な旨さ

職人の技術で、超とろ火の火加減により、

秘伝の煮汁にじっくり溶けだした旨味を、昆布に染み込ませています。



お友達LINE
QRコード

舞昆のお友達に
なって下さい。

舞昆のこうはら

商品のお問い合わせはこちらまで(ご試食承ります)

フリーダイヤル 0120(11)5283

心を尽くし 思いを尽くし 知性を尽くし
力を尽くして全人的に仕える医療と福祉

医療法人社団 湯川胃腸病院



消化器科 放射線科 脳神経外科
緩和ケア (ホスピス)
デイサービスセンター併設



大阪市天王寺区堂ヶ芝2-10-2 TEL 06-6771-4861

<http://www.yukawa.or.jp>